AVG PC TuneUp

取扱説明書

文書改訂 AVG.01 （9/16/2015）

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.
その他すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

目次

1. AVG PC TuneUp へようこそ！ 3

1.1 システム要件 3

1.2 ヘルプ＆サポート 3

2. ダッシュボード 4

2.1 システム保護 5

3. PC モード 8

3.1 エコノミー モード 8

3.2 スタンダード モード 12

3.3 ターボ モード 12

4. フライトモード 17

5. メニューバー 18

6. メンテナンス 19

6.1 ワンクリック メンテナンス 19

6.2 自動メンテナンス 20

6.3 メンテナンス設定を変更する 21

7. 速度アップ 22

7.1 ライブ最適化を設定 24

7.2 バックグラウンドプログラムを無効にする 25

7.3 スタートアッププログラムを無効にする 29

7.4 システム推奨事項 32

7.5 実行中のプロセスを管理する 34

7.6 システムの起動とシャットダウンを最適化する 36

7.7 システム情報を表示する 38

8. 空き領域を増やす 40

8.1 Windows キャッシュとログをクリーンアップする 41

8.2 ブラウザのクリーンアップ 43

8.3 Windows の機能を無効化 45

8.4 重複ファイルを検索して削除する 46

8.5 大容量のファイルとフォルダーを検出して削除する 47

8.6 データを確実に削除する 52

8.7 未使用プログラムをアンインストールする 54

9. 問題の修正 56

9.1 PC ヘルス 57

9.2 典型的な問題を修正する 58

9.3 ハードディスク エラーを検査 58

9.4 削除されたファイルの復元 60

10. すべての機能 **64**

10.1 レジストリをクリーンアップする 69

10.2 iPhone、iPad、iPod touch をクリーンアップする 74

10.3 レジストリをデフラグする 77

10.4 ハードディスクをデフラグする 78

10.5 レジストリを編集する 81

10.6 更新の確認 82

10.7 Windows の外観を変更する 83

10.8 Windows の設定を変更する 95

10.9 破損したショートカットを削除する 114

10.10 AVG最適化レポートを表示する 115

11. プログラムの評価機能 **116**

12. AVG PC TuneUpガジェット **118**

13. AVG PC TuneUpタスクバー通知領域の **120**

1. AVG PC TuneUp へようこそ！

AVG PC TuneUp をお選びいただき、ありがとうございます。これはPC を最適化するための、30以上にわたる様々なツールの総合セットでございます。このソフトウェアを使用すると、PC やノートパソコン、あるいはネットブックをあまり費用をかけることなく最適な状態にできます。

AVG PC TuneUp を使用することで、オペレーティングシステム、ゲーム、プログラムなどのパフォーマンスを最高レベルへ復元できます。**AVG PC TuneUp** を使えば、ハードディスクやレジストリのクリーンアップなど、重要なメンテナンスタスクを自動で、またはユーザーが手動で行えます。乱雑で動作の重いコンピュータはユーザーにとってはもはや過去のものです。**AVG PC TuneUp** は、システムに問題があるかどうかを識別し、シンプルな解決方法を提案します。**AVG PC TuneUp** では、Windows システムの表示画面をカスタマイズできます。

AVG PC TuneUp を使って、最適な状態の PC をお楽しみください。

1.1. システム要件

AVG PC TuneUp をインストールして起動するには、お使いのコンピュータが次の要件を満たしている必要があります：

- Windows XP（32ビット バージョンのみ、Service Pack 3 以上）、Windows Vista、Windows 7、Windows 8 および 8.1、Windows 10（すべて 32ビットまたは 64ビット バージョン）
- 300 MHz 以上のプロセッサ
- 256 MB の RAM
- 1024x768 ピクセル以上の画面解像度
- オンライン版：150MB 以上のハードディスク空き領域
- CD 版：400MB 以上のハードディスク空き領域（および CD-ROM または DVD のドライブ）
- Internet Explorer 6 以上

1.2. ヘルプ＆サポート

ヘルプとサポートはオンライン（www.avg.com/customer-support）でご利用いただけます。そこからサポート オプションの詳しい情報もご覧いただけます。

2. ダッシュボード

新しいAVG PC TuneUpダッシュボードは、すべての機能と最適化オプションにアクセスできます。

全体的な最適化のステータス

全体的な最適化のステータス（画面上の丸部分）は、**AVG PC TuneUp** により提供されたオプションをどの程度すでに使用しているかを示します。表示されるパーセンテージは、各チューニングカテゴリーの最適化の合計です（メンテナンス、速度アップ、空き領域を増やすおよび問題を修正する）。

PC モード

PC モードの領域では、Windows のオペレーション システムのためにはどのモードをオンにするべきかを決めることができます。

詳細は、PC モードをご覧ください。

フライトモード

このエリアはノート型パソコンのみで有効で、その他はグレーとなります。シンプルなスイッチにより、ノート型パソコン上のすべてのワイヤレス ネットワークをオフにできます。

詳細は、フライトモードをご覧ください。

レスキューセンター

このボタンを使用し、**AVG PC TuneUp**で行った変更を元に戻すか、システムリカバリを行います。

詳細は、システム保護をご覧ください。

メニューバー

メニューバーでは **AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログやこのプログラムと個々のモジュールについての情報にアクセスできます。

詳細はメニューバーをご覧ください。

5 つのカテゴリタイトル

AVG PC TuneUpダッシュボードのメイン領域は 5つのカテゴリからなり、**AVG PC TuneUp** の重要な機能にすばやく、テーマごとにアクセスできます。

メンテナンス

このカテゴリでは、1回のクリックで、最適化したシステムパフォーマンスを維持し、コンピュータをクリーンアップすることができます。

詳細については、メンテナンスをご覧ください。

速度アップ

このカテゴリでは、不要なプログラムを無効あるいはアンインストールし、システムやデータをクリーンアップすることができます。

詳細については、速度アップをご覧ください。

空き領域を増やす

このカテゴリでは、システマティックに不要なデータをシステムから削除できます。

詳細については、空き領域を増やすをご覧ください。

問題の修正

このカテゴリでは、万が一生じた問題の簡単な解決法が見つかります。

詳細は問題の修正をご覧ください。

すべての機能

この最後のカテゴリリストでは、**AVG PC TuneUp**で使用するすべての機能をアプリケーション領域ごとに整理して一覧表示します。

詳細はすべての機能をご覧ください。

2.1. システム保護

以下の章では、**AVGRescue Center** モジュールを使用して、**AVG PC TuneUp**で行われた変更を元に戻す**方法**を説明します。**AVG Rescue Center** を使って、システムの復元、すなわち**AVG PC TuneUp**を**使わず**に行った変更を元に戻すことができます。

システム復元

AVG Rescue Center は、**AVG PC TuneUp** だけでなく他のアプリケーションで行った変更も取り消すことが可能です。**AVG Rescue Center** は、Windows システムの復元機能との組み込みが可能です。

Windows は定期的に復元ポイントを作成します。システムの調子がおかしくなった場合は、いつでもこの復元ポイントのうちの 1つに戻れます。するとその時のシステムの状態が復元され、それ以後に加えられた変更はすべて無効となります。

AVG Rescue Center はどこにありますか？

AVGRescue Center は常に手元にあります。**AVG Rescue Center**にアクセスし、 Dashboardの右下にある **Rescue Center** ボタンをクリックします。ボタンは各モジュールにあります。

2.1.1. 変更を元に戻す

ダッシュボードの右下にある **Rescue Center** ボタンをクリックし、**AVG Rescue Center** モジュールを起動します。

または、ダッシュボードの**すべての機能**に進み、**AVG PC TuneUpの Rescue Centerを開く**を選択して、モジュールを起動することもできます。

AVG Rescue Center の右側の欄には、保存されているすべてのバックアップがモジュール名または日付順で一覧表示され、各項目について、変更された設定の数、変更日時、および変更によって解放されたディスク領域が示されます。

詳細を表示

[**詳細**] ボタンをクリックすると、実行された変更の詳しいログに移動します。ただし、このログは表示専用です。選択した変更のみを元に戻すことはできません。そのため、誤って削除してしまったファイルを 1つ復元したいがために、多数の不要なファイルを同時に復元しなければならないこともあります。

削除

バックアップが必要ないことが確実である場合、このボタンを使用して完全に削除することができます。

復元

このボタンは、システムの状態を選択したバックアップ以前の状態に戻します。

2.1.2. システムの復元

ダッシュボードの右下にある **Rescue Center** ボタンをクリックし、**AVG Rescue Center** モジュールを起動します。

または、ダッシュボードの**すべての機能**に進み、**AVG PC TuneUpの Rescue Centerを開く**を選択して、モジュールを起動することもできます。

システムの復元をクリックします。

AVG Rescue Center の右側の欄には、保存されているすべてのバックアップのリストが表示され、各バックアップの変更日時も表示されます。

バックアップを作成

このボタンを使用して、システム復元ポイントを作成します。復元ポイントには、システムの状態を後で判別できるような名前を付けてください。

システム復元ポイントには設定ファイルやシステムファイルの状態が保存されるため、システムに大幅な変更（プログラムのインストールなど）を加える前に、復元ポイントを作成することをお勧めします。そうすれば、インストール時に何かトラブルが生じたり、その後コンピュータがいつものように動作しなくなった場合、システムをいつでもオリジナルの状態に戻すことができます。

削除

バックアップが必要ないことが確実である場合、このボタンを使用して完全に削除することができます。

復元

このボタンを使用して、システムを、選択したバックアップ以前の状態に戻します。それには、システムの再起動が必要です。

この機能は、システムに変更を加えた後でコンピュータが正常に動作しなくなった場合に役立ちます。

まず、元に戻すシステム変更の数を最小に抑えるため、最新の復元ポイントを選択します。

2.1.3. 設定の変更

AVG Rescue Center の設定を変更することができます。**AVG Rescue Center** で、**設定**ボタンをクリックします。

また、ダッシュボードから設定にアクセスする方法もあります。メニューバーで、**設定**をクリックし、**Rescue Center** 保護項目（新たにトリガされた設定ダイアログの左側のリスト）をクリックします。

Rescue Center 保護

各 **AVG PC TuneUp** モジュールは、標準で**AVG Rescue Center** により保護されています。この関連チェックボックスのチェックを外すと、各モジュールへのサポートを無効にできます。

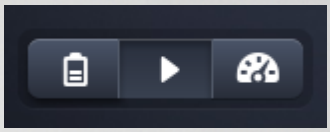
バックアップ

ここでは**AVG Rescue Center** の個々のバックアップを保存する期間を指定します。既定では、バックアップは 2 週間後に自動的に削除され、最大 60 のバックアップが保存されます。

ディスク領域を節約したいという理由で*AVG Rescue Center *保護を過度に制限しないでください。この保護機能は問題が生じた際の最終的な復旧手段としてとても有用で、通常ハードディスクのディスク領域を多少節約するよりも重要です。

3. PC モード

PC モードの領域では、Windows のオペレーション システムのためにはどのモードをオンにするべきかを決めることができます。



エコノミー モード

AVG エコノミーモードを使って、ディスプレイやハードウェア コンポーネント、あるいは不要な機能をオフにすることにより、コンピュータの電力消費を低減させることができます。

詳細は、エコノミー モードをご覧ください。

スタンダード モード

スタンダード モードは、Windows の通常オペレーションでもあります。

詳細は、機内モードをご覧ください。

ターボ モード

AVGターボ モードを使って、システムにいつでもパーフォマンス強化を追加でき、個人のニーズに合わせてカスタマイズすることができます。

詳細は、ターボ モードをご覧ください。

3.1. エコノミー モード

この章では、**どんなときにエコノミーモードが便利であり、エコノミー モード**をオンにすると何が起こるか**を説明します。 さらに、どのようにエコノミー モード**をオンにし、設定するのかの手引きも得られます。

エコノミー モードとは？

エコノミーモードは、電力を節約する **AVG PC TuneUp**のインテリジェントなモジュールです。**エコノミー モード**では、必要なときにすぐに省電力に配慮できます。コンピュータを**エコノミー モード**に切替えると、現在バックグラウンドで実行されているけれども、特に必要ではないハードウェアやタスク、プログラム、機能が消費している電力が低下します。これらはオフになるので、消費電力（電気代も）が明らかに低下します。

エコノミー モードをオンにするのはどんな場合ですか？

エコノミー モードを使えば、デスクトップ PCの電力消費を明確に低減したり、コンセント電源が利用できない時にラップトップのバッテリー稼働時間を長くすることができます。エコノミー モードをオンにすることで、いくつかの機能がオフになりますが、エコノミー モードをオフにすると再び使用できるようになります。

エコノミー モードでどのくらい電力が節約できるか、どこでわかりますか？

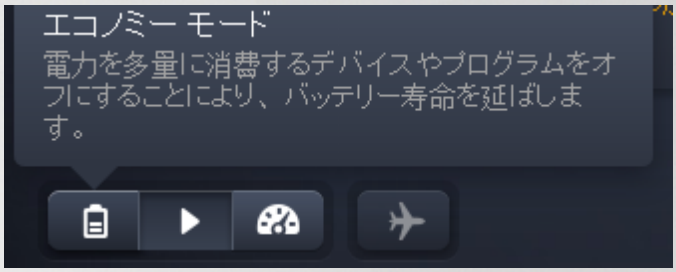
ランプ方式を使って、**エコノミー モードのウィザード**は、その設定によって実際にどのくらい電力を節約しているか

を表示します。全体的節約の右隣のバーが緑の場合は、省電力が高いことを示しています。黄色いバーは省電力が中レベル、赤は低いレベルであることを示しています。

例えば、**サービス**の領域で省電力がどの程度かは、領域の右隣にあるナビゲーション バーにバーの色で直接表示されます。

コンピュータをエコノミー モードに切り替える方法

AVG PC TuneUp ダッシュボードの左下に 3つのスイッチがあります。左側のスイッチがエコノミー モード用です。このスイッチをクリックすると、コンピュータがエコノミー モードに切り替わります。AVG アイコンがタスクバーの通知領域に表示され、エコノミーモードがオンであることを知らせます。



また、エコノミーモードのスイッチには、タスクバーの通知領域にある**AVG PC TuneUp** アイコンから直接アクセスすることもできます。それには、アイコンを左クリックします。ポップアップ ウィンドウが開き、左下にエコノミー モードのスイッチが表示されます。

エコノミー モードがオンになっているかどうかを知る方法

エコノミー モードがオンになると、**AVG PC TuneUp**アイコンがタスクバーの通知領域（右下隅の時刻の隣）にエコノミー モードがオンになっていることが表示されます。さらに、ダッシュボードのスイッチでもそれがわかります。

ユーザー独自の AVG エコノミー モードを設定する方法

最初にエコノミー モードをオンにするとウィンドウが開き、そこでカスタマイズしたエコノミー モードが設定できます。ここでエコノミー モードにプリセットされたオプションを適用するか、あるいはニーズに合わせて自分で設定するかどうかを決めます。

詳細は、エコノミー モードの設定をご覧ください。

3.1.1. エコノミー モードの設定

ダッシュボードにあるメニュー バーで [**設定**] をクリックしてから、[**エコノミーモード**] エリアを選択し、そこにある [**設定ウィザードを開く**] ボタンをクリックして、**AVG エコノミーモード** を設定するためのウィザードを起動します。または、ダッシュボードの**すべての機能**を開き、**コンピュータ**で**エコノミーモードをオンにする**エントリの隣にある小さいギアウィールボタンをクリックします。

'エコノミー モードがすでにオンになっている場合、ウィザードを再度実行する必要はありません。エコノミー モード設定は、AVG の中央設定ダイアログ（エコノミー モード項目）で直接変更できます。適切なボックスをチェックし（もしくはチェックを外し）、[適用] をクリックするだけです。

エコノミー モードを自分なりに構成するには、エコノミー モードがオンになっている間、どのハードウェア コンポーネント、サービス、機能が省電力のため一時的にオフにしてよいかを選択します。オフにする項目が多ければ多い

ほど、省電力が顕著になります。

一般設定

ここでは、システムのパフォーマンスを低下させ、視覚的効果をオフにする設定機能も利用可能にするかどうか指定できます。さらに、コンピュータが再起動したときに、エコノミー モードはオンのままにするかどうかも選択できます。

画面

コンピュータの画面は、ハードディスクやプロセッサなどのハードウェア コンポーネントより多くの電力を消費することがあります。画面の明るさを下げたり、コンピュータを現在使っていないときに画面を早めにオフにすると、電力消費は明確に低減します。

画面の明るさ (ノート型パソコンのみ)

全般 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合に全般的な画面の明るさをどの程度下げるか指定します。

暗くする場合 :この設定では、エコノミー モードがオンのときに画面を暗くする場合、明るさをどの程度下げるか指定します。

画面の動作

オフにする :この設定では、エコノミー モードがオンの場合に画面をオフにするまでの時間を指定します。

調光 (ラップトップのみ) :この設定では、エコノミー モードがオンの場合に画面を暗くするまでの時間を指定します。

ハードウェア

ハードウェア コンポーネントを一時的にオフにすると、コンピュータの電力消費量は低下します。また、すべてのコンピュータでは接続されたデバイスを検出したり、そのデバイスを使用するために必要な機能を提供したりする多数のサービスがバックグラウンドで稼動しています。コンピュータの電力消費を下げるため、このサポートを制限することができます。

ハードウェア コンポーネント

ハードディスクのスタンバイ :この設定では、エコノミー モードがオンの場合にハードディスクがスタンバイ モードになるまでの時間を指定します。

プロセッサの省電力設定 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合にプロセッサの省電力をどの程度にするか指定します。

ワイヤレスアダプタの省電力設定 (Windows Vista および 7 のみ) :この設定では、エコノミー モードがオンの場合にワイヤレス アダプタの省電力をどの程度にするか指定します。

外部デバイスとの接続

モバイル デバイスとの同期 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合は住所、メール、音楽ファイルなどが携帯電話や携帯用メディア プレイヤーと同期されず、デバイスが接続されたときに関連するプログラム

が自動的に起動する機能もオフになります。

デジタル カメラおよびスキャナのサポート :この設定では、エコノミー モードがオンの場合、デジタル カメラから画像をインポートしたり、画像をスキャンしたりできません。

サービス

オペレーション システムは、大部分のユーザーが認識しているよりはるかに多くのタスクを実行しています。必ずしも必要ではない多数のプログラムやサービスがバックグラウンドで常時実行され、電力を浪費しています。これらの機能の中でまったく使用しないものがある場合は、無効にして、コンピュータの電力消費量を恒久的に低減することができます。

バックグラウンド機能

メディア ライブラリのネットワーク共有 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合、他のネットワーク デバイスはユーザーのメディア ライブラリにある画像、ビデオ、音楽にアクセスできません。ただし、エコノミー モードはネットワーク上のフォルダの共有には影響しません。

インデックス作成による簡易検索 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合、Windows はファイルやメールの索引を作成しません。この設定をオフにすると、検索は大幅に遅くなります。

エラー報告 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合にエラーに関するデータは収集されず、クラッシュしたプログラムやその他のエラーは Microsoft に伝達されません。

仮想マシンのサポート : (この設定は、仮想マシン用のソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合のみ選択できます。) このオプションでは、エコノミー モードがオンの場合、仮想マシンを利用するためのバックグラウンド機能をオフにすることができます。

さまざまなサービス

ほとんど使用しないサービス :この設定では、エコノミー モードがオンの場合、特定の環境 (社内ネットワークなど) または状況 (新しいプログラムのインストールなど) でのみ必要となるサービスがオフになります。

特殊な暗号化サービス : エコノミー モードがオンの場合、この設定により、ドメインにログオンするためのサービスがオフになります。

ネットワーク通信サービス : エコノミー モードがオンの場合、ファックスやピアツーピア サービスなど、まれにしか使わないネットワーク通信サービスが、この設定によりオフになります。

ディスプレイ

視覚効果を利用すると、Windows のインターフェイスが洗練された外観になりますが、貴重なメモリが大量に消費されてしまいます。特にビデオ カードの性能が高くない場合は、視覚効果をオフにすればコンピュータのパフォーマンスが向上します。

ヒント :これは、ネットブックのユーザーの間で、パフォーマンスを長期的に改善する方法として広く使用されています。

視覚効果

ウィンドウの視覚特殊効果 :この設定では、エコノミー モードがオンの場合にウィンドウの透明効果や影付き、タスクバー上のプレビュー ウィンドウ、およびウィンドウ間の 3D ナビゲーションがオフになります。

クラシックなウィンドウ スタイル :クラシック ウィンドウ スタイル :このオプションでは、エコノミー モードがオンである場合に、ウィンドウ、メニューおよびボタンの外観にクラシックな Windows のデザインが使用されます。また、Windows XP ではカラフルな Windows インターフェイスが無効になり、より新しいバージョンの Windows ではタスクバーでのウィンドウの透明効果とサムネイルが無効になります。

デスクトップの背景

スライドショー :この設定では、エコノミー モードがオンの場合にデスクトップの背景のスライドショーはオフになります。

3.2. スタンダード モード

スタンダード モード はデフォルトでオンになっています（エコノミー モードまたはターボ モードに変更していない場合）。

スタンダード モードでは、**AVG PC TuneUp**のすべての機能が制限なしに使用できます。

3.3. ターボ モード

この章では、**どんなときにターボ モードが便利であり**、ターボ モード**をオンにすると**何が起こるか**を説明します。 さらに、どのようにターボ モード**をオンにして設定するのかの手引きも得られます。

ターボ モードとは？

ターボ モード では、必要なときにすぐにパフォーマンスを強化することができます。 コンピュータを**ターボ モード**に切り替えると、現在バックグラウンドで実行されているタスク、プログラム、機能のどれが必ずしも必要でないが分析されます。必ずしも必要でないプログラムは停止または低速にされ、その分得られた処理能力は、ユーザーが実際に作業を行っているプログラムだけに割り当てられます。

ターボ モード動作の詳細

以下の図に、コンピュータの内部と現在使用中のプログラム（緑色）、バックグラウンドで実行中のプロセス（青色）を示します。 ターボ モードをオンにしたときにコンピュータの負荷がどのように軽減されるかがわかります。

緑の円は、ターボ モードによってスピードアップしたいプログラムを表します。 ブルーダイアモンドは、ターボ モードがオンの時にまったく必要ないプログラムと機能です。 そのため、これらのプログラムと機能は、それらが必要とする全計算能力が使えるように、オフになります。

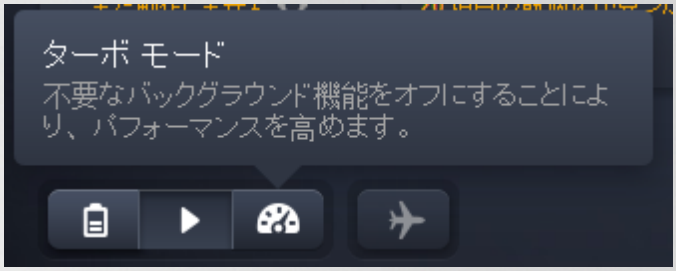
コンピュータ上では、ユーザーが現在使用しているプログラム（緑色）の他に、ユーザーの作業にとってそれほど重要でない多数のプログラムがバックグラウンドで実行されています（青色）。バックグラウンド プロセスの中に、コンピュータの能力を過剰に消費するものがあった場合、他のプログラムがスムーズに続行できるよう、その優先度が下げられます。

ターボ モードをオンにするのはどんな場合

例えばターボ モードを使用して、コンピュータ ゲームの速度を上げたり、性能を低下させるプログラムへの対処、また動画の再生中に止まったりフリーズすることを防ぐことができます。ただしターボ モードをオンにすることで幾つかの機能はオフになり、それらはターボ モードが再びオフになって初めてまた利用できるようになります。

コンピュータをターボ モードに切り替える方法

AVG PC TuneUp ダッシュボードの左下に 3つのスイッチがあります。ターボ モードの右側スイッチ このスイッチをクリックすると、コンピュータがターボ モードに切り替わります。AVG アイコンがタスクバーの通知領域に表示され、ターボ モードがオンであることを知らせます。



また、ターボ モードのスイッチには、タスクバーの通知領域にある**AVG PC TuneUp**アイコンから直接アクセスすることもできます。それには、アイコンを左クリックします。ポップアップ ウィンドウが開き、右下にターボ モードのスイッチが表示されます。

ターボ モードがオンになっているかどうかを知る方法

ターボ モードがオンになると、**AVG PC TuneUp**アイコンがタスクバーの通知領域（右下隅の時刻の隣）にターボ モードがオンになっていることが表示されます。さらに、ダッシュボードのスイッチでもそれがわかります。

ユーザー独自の AVG ターボ モードを設定する方法

ターボ モードを初めてオンにした場合は、**ターボモード設定ウィザード**が開き、ユーザー個別のターボ モードを作成できます。ウィザードは、**AVG PC TuneUp**. の新しい中央設定ダイアログに統合されています。

詳細は、ターボ モードの設定をご覧ください。

3.3.1. ターボ モードの設定

ダッシュボードにあるメニュー バーで [**設定**] をクリックしてから、[**ターボ モード**] エリアを選択し、そこにある [**設定ウィザードを開く**] ボタンをクリックして、**AVG ターボ モード**を設定するためのウィザードを起動します。または、ダッシュボードの**すべての機能**を開き、**コンピュータ**で**ターボ モードをオンにする**エントリの隣にある小さいギアウィールボタンをクリックします。

ターボ モードが既にオンになっている場合、ウィザードを再度実行する必要はありません。ターボモード設定を、AVG の中央設定ダイアログ（ターボモード項目）で直接変更することができます。適切なボックスをチェックし（もしくはチェックを外し）、[適用] をクリックするだけです。

ターボ モード設定ウィザードで、個人的なターボ モードを 6つの簡単なステップで作成するには、ターボモードがオンになっている間パフォーマンス強化のために一時的にオフにしてもよいタスク、プログラム、機能を選択します。オフにする項目が多ければ多いほど、パフォーマンスの強化が顕著になります。ここで提案される機能やタスクは

すべて、一時的にオフにしても問題が生じません。インターネットセキュリティのため、あるいはウィルスから保護するためのソフトウェアの機能はオフにされません。

ステップ 1:自動メンテナンスタスクを延期する

バックグラウンドで自動実行されるメンテナンス措置は、コンピュータを手入れするうえで重要ですが、通常は急を要しません。そのため、メンテナンス措置の実行を延期し、使用中のプログラムのためにリソースを解放することができます。

予定したデフラグの延期 このオプションでは、Microsoft やその他大手のメーカーによるスケジュールされているハードディスクのデフラグを、ターボモードがオンである場合に起動させないようにできます。

スケジュールされたメンテナンスタスクを延期する:このオプションでは、Microsoft やその他大手のメーカーによるスケジュールされたメンテナンス措置を、ターボモードがオンである場合に起動させないようにできます。これに該当するのは、**AVG自動メンテナンス**やバックアップの自動作成です。

自動更新を延期する:このオプションでは、ターボモードがオンである場合にもプログラム更新の利用可能性は通知されますが、自動的にダウンロードやインストールはされません。

ステップ 2:外部デバイスとの接続を制限する

どのコンピュータでも、バックグラウンドでは多数のサービスが働いていて、接続されたデバイスを認識したり、そのデバイスの使用に適した機能を提供しています。こういったサービスの数を制限することで、使用中のプログラムのためにリソースを解放することができます。

モバイルデバイスとの同期をオフにする:この設定では、ターボモードがオンの場合は住所、メール、音楽ファイルなどが携帯電話や携帯用メディアプレイヤーと同期されず、デバイスが接続されたときに関連するプログラムが自動的に起動する機能もオフになります。

デジタルカメラおよびスキャナのサポートを制限する:このオプションでは、ターボモードがオンである場合に、デジタルカメラの画像は取り込みやスキャンができません。

ステップ 3:視覚効果を削減する

視覚効果を利用すると、Windows のインターフェイスが洗練された外観になりますが、貴重なメモリが大量に消費されてしまいます。特にビデオカードの性能が高くない場合は、視覚効果をオフにすればコンピュータのパフォーマンスが向上します。

ヒント:これは、ネットブックのユーザーの間で、パフォーマンスを長期的に改善する方法として広く使用されています。

ビジュアル特殊効果をオフにする:この設定では、ターボモードがオンの場合にウィンドウの透明効果や影付き、タスクバー上のプレビューウィンドウ、およびウィンドウ間の 3D ナビゲーションがオフになります。

クラシックウィンドウデザインに切り替える:クラシックウィンドウスタイル:このオプションでは、ターボモードがオンである場合に、ウィンドウ、メニューおよびボタンの外観にクラシックな Windows のデザインが使用されます。また、Windows XP ではカラフルな Windows インターフェイスが無効になり、より新しいバージョンの Windows ではタスクバーでのウィンドウの透明効果とサムネイルが無効になります。

ステップ 4:パフォーマンスが最適になるようコンピュータのリソースを設定する

コンピュータのリソースは、貴重な資源です。リソースの上手な分配は、コンピュータのパフォーマンスの向上に大きく貢献します。

ヒント:この設定は機能に制約を加えるものではないため、継続的な使用をお勧めします。

電力消費量を考慮せずに最適なパフォーマンスを実現する:このオプションでは、ターボ モードがオンである場合、Windows の省電力プラン"高パフォーマンス"が使用されます。これは最適なパフォーマンスを目ざし、省エネは全く考慮していません。

ステップ 5:バックグラウンド機能を無効にする

オペレーション システムは、大部分のユーザーが認識しているよりはるかに多くのタスクを実行しています。バックグラウンドで、必ずしも必要でない多数のプログラムやサービスが常時実行され、貴重なリソースを消費しています。これら機能が全く必要でない場合は、機能をオフにして、コンピュータのパフォーマンスを長期的に向上させることができます。

ローカルネットワークのメディアライブラリ共有を無効にする:この設定では、ターボ モードがオンの場合、他のネットワーク デバイスはユーザーのメディア ライブラリにある画像、ビデオ、音楽にアクセスできません。ターボ モードは、ネットワーク上のフォルダの共有には影響しません。

インデックス作成による簡易検索をオフにする:この設定では、ターボ モードがオンの場合、Windows はファイルやメールの索引を作成しません。この機能をオフにすると検索はかなり遅くなります。

エラー報告をオフにする:この設定では、ターボ モードがオンの場合にエラーに関するデータは収集されず、クラッシュしたプログラムやその他のエラーは Microsoft に伝達されません。

仮想マシンのサポートをオフにする:(このオプションは、仮想マシン用のソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合のみ選択できます。)このオプションは、ターボ モードがオンの場合、仮想マシンを利用するためのバックグラウンド機能が、オフになるようにすることができます。

ステップ 6:追加のパフォーマンス強化

Windows がアップロードされるたび、ごくたまに、あるいは全く使われないサービスも起動します。このようなサービスは大きなシステム リソースを必要とし、PCを低速化します。このようなサービスが必要になったときに機能しなくなるのを防ぐため、パフォーマンス強化を追加するために、一時的にオフにすることもできます。

ほとんど使用しないサービスをオフにする:この設定では、ターボ モードがオンの場合、特定の環境(社内ネットワークなど)または状況(新しいプログラムのインストールなど)でのみ必要となるサービスがオフになります。

特殊暗号化サービスをオフにする:ターボ モードがオンの場合、この設定により、ドメインにログオンするためのサービスがオフになります。

ネットワーク通信サービスをオフにする:ターボ モードがオンの場合、ファックスやピアツーピア サービスなど、まれにしか使わないネットワーク通信サービスが、この設定によりオフになります。

ステップ 7:ターボ モードをオンにしておく時間

ターボ モードは、コンピュータのシャットダウン時に自動的にオフにするか、または手動でオフにするまでオンのままにすることができます。ターボモードを長い間オンのままにしておくと、起動プロセスが速くなることもあります。

ただし、システムのパフォーマンスを向上させるために、設定ウィザードで選択した機能をオフにすることを検討してください。ターボモードをオンにしているときに、必要な機能が実行されない場合は、ターボモードをオフにして設定を変更し、もう一度ターボモードをオンにしたとき、その機能がまた利用できるようにします。

終了**をクリックして**ウィザードを閉じます。

4. フライトモード

この機能はノート型パソコン上でのみ有効で、それ以外ではセクション全体がグレーで表示されます。

フライトモードスイッチは、ノートパソコン上のネットワークアクティビティを部分的にオフにすることができます。詳細は次の通りです：

- *Wifi* ？電子デバイスがデータの交換をできるようにする、またはインターネットに電波を使用してワイヤレスに接続できるようにする技術です。
- *Bluetooth* ？短波長無線を使用して短距離間のデータ通信を行うワイヤレス技術規格です。

この機能を初めて使用される際は、**フライトモード**を本当にアクティベートするかどうかを尋ねるダイアログが表示されます。しかし、このメッセージは次回から表示しないように選択できます（該当するチェックボックスにチェックすることで行えます）。

5. メニューバー

メニューバーでは **AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログやこのプログラムと個々のモジュールについての情報にアクセスできます。

[設定]メニュー

設定をクリックすると、**AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログに移動します。ここでは、プログラムを必要に応じて調整し、メンテナンス設定を適用し、**AVG ライブ最適化**、**AVG ターボ モード**、**AVG PC TuneUp**の更新確認とその他多数のモジュールを設定することができます。

[ヘルプとサポート] メニュー

ヘルプとサポート メニューではこのプログラム ヘルプへのアクセスができます。また、リンクを使ってそこから直接AVGウェブサイトに移動することもできます。**情報**を入力すると、ウィンドウが開き、**AVG PC TuneUp** の詳しいバージョン情報が表示されます。バージョン情報は、技術サポートと連絡を取る際などに必要です。**更新の確認**をクリックすると、**AVG Update Wizard** モジュールが起動し、**AVG PC TuneUp** に新しい更新があるかどうかをチェックします。

6. メンテナンス

この章では、システムが素早く確実に動作できるように、**ワンクリック メンテナンス** または **自動 メンテナンス**が、**システムのパフォーマンスが最適化された状態** および**コンピュータがクリーンな状態** をどのように維持するのかについて説明します。

6.1. ワンクリック メンテナンス

ワンクリック メンテナンス は、メンテナンスの実行時刻を自分で決め、メンテナンスの進行状況を確認したいというユーザーに適しています。ワンクリック メンテナンスを開始するには、ダッシュボードの一番左にある **メンテナンス** タイルをクリックします。**ワンクリック メンテナンス**を実行した後、さらに見つかった問題の詳細が表示されます。

デフォルトでは、次のタスクが **ワンクリック メンテナンス** で実行されます：

- レジストリをクリーンアップします

  時間が経つにつれて、中心の Windows レジストリは不要なエントリでいっぱいになります。不要なエントリとは、存在しないファイルへの参照、以前に削除されたプログラムの残り、誤ったエントリなどです。レジストリをクリーンアップすることで、Windows を迅速かつ安定した状態に維持できます。

- レジストリをデフラグ

  上記のクリーンアップが行われた後でも、レジストリは自動的に縮小するわけではありません。なぜなら、クリーンアップによって空になったディスク領域も、すぐには使用可能な状態にならないからです。デフラグにより初めて隙間がなくなり、レジストリが縮小されます。

- 破損したショートカットを削除

ワンクリック メンテナンスは、デスクトップ、スタートメニュー、クイック起動バーに壊れたショートカットがないかどうかチェックし、それを全自動で削除します。同時に、Windows Media Player や Microsoft Office といった各種プログラムの履歴リストに壊れたエントリがないことを調べます。

- 不要なファイルを削除してディスク領域を解放

  いわゆる"一時"ファイルは困りものです。Windows とプログラムはハードディスク上に一時ファイルを作成し、特定の設定やデータを一時保管します。プログラムが終了するたびに、本来はこれらのファイルはプログラムから削除するべきです。しかし各プログラムは後片付けをよく忘れるため、ハードディスクには長い間にデータのごみが溜まります。**ワンクリック メンテナンス**は、ハードディスク上の一時ファイルと一時フォルダをすべて確実に削除します。

- ブラウザをクリーンアップ

  インターネットの閲覧中に、インターネット ブラウザは多数のさまざまなデータをコンピュータに保存します。ワンクリック メンテナンスはブラウザのキャッシュとダウンロード履歴をクリーンアップします。

- システムの起動とシャットダウンを最適化

  システムが起動するたびに実行されるプログラムの中には、コンピュータの起動速度を無駄に低下させるものがあります。その中でも不要なことが確実であるものがオフにされます。

- ハードディスクをデフラグ

  バックグラウンドで、**AVG PC TuneUp** は読み込みが早くなるようにファイルとフォルダの配置を変更します。最適化は定期的に実行しなければなりません。ハードディスクのデータ構造が頻繁に変更される（たとえば、ファイルの移動と削除や新しいプログラムのインストールによって）場合は特にそうです。ただしデフラグは、必要な場合のみ実行されます。さらに、必要性が検出された場合、徹底的なデフラグとクイック デフラグのどちらを実行するか、また、それを分析結果に応じて決定するかどうかが指定できます。

  ソリッドステートドライブ（SSD）は **AVG PC TuneUp** に検出されます。デフラグによる SSD ドライブの最適化は不可能で、それよって損傷するため、SSD は分析もデフラグもされません。

6.2. 自動メンテナンス

自動 メンテナンスは、コンピュータのメンテナンスの心配をしたくないというユーザーに便利です。名前のとおり、**自動 メンテナンス** は完全自動で定期的にシステムの重要なメンテナンス タスクを行ない、Windows を迅速かつ安定した状態に保ちます。

自動 メンテナンス機能も、すべてのメンテナンス タスクを実行できるように設定されています。ただし、自動メンテナンスはバックグラウンドで実行されるので、バルーンによる通知が表示されて初めて、実行されたことがわかります。

メンテナンスの実行

自動 メンテナンスについては、バックグラウンドで全く自動的に実行するかどうか、またいつ実行するかを指定することができます。特別なのは、アイドル時にのみ実行させることもできることです。つまりメンテナンスは、コンピュータで作業しておらず、プログラムがバックグラウンドで必要でないときにのみ起動します。そのため、**自動 メンテナンス**のために作業を中断する必要がありません。このオプションを選択すると、指定した日数を経た後に、コンピュータがアイドル状態になり次第、メンテナンスが実行されます。標準では 3日 が選択されています。

コンピュータに十分アイドル時間がなくて、1週間が過ぎてもメンテナンスを完全に実行することができなかった場合は、強制的にメンテナンスが行われます（このオプションを有効にしてある場合）。これにより、コンピュータが長期にわたってメンテナンスされない事態を避けることができます。

スケジュールに従ったメンテナンスの実行を選択した場合も同様です。メンテナンスが予定されている日時にコンピュータが起動していない場合は、次回の起動から5分後に**自動メンテナンス**が実行されます。このオプションも無効にすることができます。

ポータブルのコンピュータで作業している場合は、バッテリーの駆動時間をむやみに短くしないよう、もう一つオプションを指定して、バッテリー使用の時にはメンテナンスを行わないようにすることができます。このオプションは既定では有効になっています。

6.3. メンテナンス設定を変更する

ダッシュボードで、（一番左にある）**メンテナンス**タイルのギアホイールボタンをクリックします。**AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログが開きます。これには**自動メンテナンス**と**ワンクリックメンテナンス**の各領域が備わっています。ここでそれぞれの設定を行います。

または、ダッシュボードの**すべての機能**へ進み、**AVG PC TuneUpで設定**エントリを選択するか、ダッシュボードでメニューバーの**設定**をクリックし、領域の**自動メンテナンス**または**ワンクリックメンテナンス**を選択することもできます。

AVG PC TuneUp はコンピュータの総合的なメンテナンスを行うことを目指しているため、**自動メンテナンス**と**ワンクリックメンテナンス**のどちらも、メンテナンスタスクがデフォルトで有効になっています。特定のメンテナンスタスクを実行したくない場合は、そのタスクをメンテナンス対象から除外することができます。たとえばハードディスクのデフラグを別に行いたい場合は、**ハードディスクをデフラグ**のチェックボックスをオフにします。

7. 速度アップ

コンピュータはときどき、思うように機能しないことがあります。ときたま個々のプログラムあるいはファイルのメモリの呼出しには永遠と思えるほどの時間がかかることがあり、コンピュータの能力を疑いたくなります。しかしくハードウェアのせいではないことがよくあります。問題は、ユーザーが気が付かないうちに起動しているプログラム、あるいはアンインストールの際にコンピュータから完全に削除されなかったプログラムの残骸です。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Center によって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。

速度アップの可能性

この画面では、グラフを使って**AVG PC TuneUp** のオプションをどの程度すでに使用しているかを確認し、パフォーマンスを上げシステムを保ち、また、最適化可能な残りの領域を確保することができます。

グラフでは、左側の青いセクションがこれまでに最適化を進めるために使用したモジュールを示し、右側の薄いグレーのセクションはまだ行っていない最適化の可能性を表しています。グラフの各セクションにはメッセージが割り当てられています。青いセクションのメッセージは純粋に情報提供を目的としており、すでに完了した最適化について通知します。グレーのセクションにあるメッセージは、実施できる最適化の可能性を示す、よりインタラクティブなメッセージであり、ユーザーが問題に直接アクセスしてすぐに対処できるものです。

グラフの下には、すでに完了した最適化と、まだ利用されていない可能性についての最新メッセージがあります。各セクションにマウスのカーソルを動かすと、対応するメッセージが表示されます。セクションに未使用の可能性が含まれている場合、いくつかのボタン (**[今すぐスキャン]**、**[今すぐ解決]**、**[詳細を表示]**など) が使用できるようになります。ボタンをクリックすると、未使用の可能性を利用するために使用できる適切な **AVG PC TuneUp** モジュールが開きます。

速度アップの可能性算出の際に考慮されるものとは？

速度アップの可能性は次のセクションの分析結果に基づいて計算されます。

メンテナンス

このセクションが最適化済みとみなされるには、以下の条件が満たされなければなりません：

- 自動メンテナンスで必要なすべてのメンテナンスタスクが有効であるか、
- ワンクリックメンテナンスで必要なすべてのメンテナンスタスクが、使用日数14日以内に実行されるか

ライブ最適化

このセクションを最適化済みとみなすには、**ライブ最適化**の両方のオプションを有効にします。その際両方のオプションの重きは同等におかれます。

詳細は、ライブ最適化を設定をご覧ください。

推奨事項

システムに対する適切な推奨事項を入手するには、ユーザーのプロファイルに関する質問に答える必要があるのでご注意下さい。

このセクションを最適化するには、すべての推奨を承諾するか非表示にする必要があります。

30日間非表示にした推奨事項は、期間終了後にふさわしいステータスの新規格付けを行ない、推奨事項を新たに表示する。

詳細は、システム要件をご覧ください。

ターボモード

セクションを最適化とみなすには、ターボモードプロファイルの設定を正しく行う必要があります（ターボモードは、オンにしなくてもよいですが、使用する用意をしておく必要があります）。

バックグラウンドプログラムを無効にする

最適化の可能性は存在するバックグラウンドプログラムがメモリなどのシステムリソースをどれくらい使用しているかを分析して、**AVGProgram Deactivator**による最適化を推奨します。その際最適化の可能性は、システムの負荷になっているにもかかわらず多くのプログラムがユーザーに重要と格付けされており、有効のままにしておくべきことを考慮に入れます。それゆえ、グラフのこのセクションは、無効化のある特定の比率にしたがって、最適化済みとみなされます。

詳細は、バックグラウンドプログラムを無効にするをご覧ください。

スタートアッププログラムを無効にする

最適化の可能性は存在するスタートアッププログラムがメモリなどのシステムリソースをどれくらい使用しているかを分析して、**AVGStartUP Manager**による最適化を推奨します。その際最適化の可能性は、システムの負荷になっているにもかかわらず多くのプログラムがユーザーに重要と格付けされており、有効のまま

にしておくべきことを考慮に入れます。それゆえ、グラフのこのセクションは、無効化のある特定の比率にしたがって、最適化済みとみなされます。

詳細は、スタートアップ プログラムを無効にするをご覧ください。

その他の便利なモジュール

速度アップの可能性の計算には含まれない便利なモジュールもあり、さらにシステムパフォーマンスを向上させることができます。これらはこのダイアログの下のリボンに表示されます。

- *CPUを使用するプログラムを表示する*
- *システム情報を表示する*
- *起動とシャットダウンを最適化する*

7.1. ライブ最適化を設定

以下の章では、**なぜ**また**どのようにAVGライブ最適化をオンにすることでコンピュータのパフォーマンスを向上させることができるのかを説明します。**

AVGライブ最適化は、2つのインテリジェントな最適化措置で構成されています。これらの措置は、コンピュータの使用状況をリアルタイムで監視し、必要に応じてコンピュータの低速化を防ぐ措置を講じます。両方の最適化措置は、一方でコンピュータの応答速度を、他方ではプログラムの起動速度を、それも必要なときだけ、スピードアップするのに役立ちます。

これは、実行中のプログラムをインテリジェントに優先付けすることで生じます。コンピュータの負荷が大きい状況でプログラムを起動すると、そのプログラムは、すばやく起動できるように一時的に高く優先づけされます。あるバックグラウンド プログラムが一旦度を越し、特にコンピュータの能力を過剰に要求すると、いま使用中のプログラムがスムーズに続行できるよう その優先度が下げられます。それにより、コンピュータの負荷が大きい場合でも、迅速な作業が可能となります。

速度アップ画面に進み、**速度アップの可能性**グラフの**ライブ最適化**セクションをクリックして、**AVG Live Optimization**モジュールを起動します。

モジュールを開く別の方法として、ダッシュボード**すべての機能**から、**AVG PC TuneUp**の**ライブ最適化を設定**を選択します。また、ダッシュボードでメニューバーの**設定**をクリックし、**ライブ最適化**を選択することもできます。

ここで、2つの最適化措置を選択できます。どちらの最適化措置も、リアルタイムでインテリジェントに実行されるため、直ちに効果が現れるわけではありません。その代わりに、必要に応じてどちらの最適化にも取りかかれるよう コンピュータの使用状況を監視することに重きをおきます。

必要に応じて実行する最適化措置を選択してください：

応答速度を向上

この最適化措置は、すべてのバックグラウンド プロセスを監視し、コンピュータの計算能力を過剰に消費しているプロセスの優先度を下げます。それによって応答速度が最適なレベルに維持され、ウィンドウやプログラムの動作がスムーズになります。この優れた最適化は、ニーズを認識して常にコンピュータの応答速度を最適に維持します。

以下の図は、オプション**応答速度を改善**を有効にする前とその後のコンピュータの内部です。PCの負荷がどの

ように軽減されるのかを説明します：

コンピュータ上では、ユーザーが現在使用しているプログラム（緑色）の他に、ユーザーの作業にとってそれほど重要でない多数のプログラムがバックグラウンドで実行されています（青色）。バックグラウンドプロセスの中に、コンピュータの能力を過剰に消費するものがあった場合、他のプログラムがスムーズに続行できるよう、その優先度が下げられます。

プログラムの起動を高速化する

コンピュータの負荷が大きいときにプログラムを手動で起動すると、この最適化措置が実行されます。プログラムの起動直後のわずかの時間に対し、コンピュータの計算能力が一時的に分配し直され、起動しているプログラムは別々のパフォーマンスの押し上げを得られます。その際、起動するプログラムが一時的に最優先されます。

以下の図は、オプション**プログラムの起動を高速化する**を有効にする前とその後のコンピュータの内部です。新たに起動したプログラムでパフォーマンスの向上がどのように行われるのかを説明します：

プログラムの起動直後（オレンジ色）のわずかの時間に対し、コンピュータの計算能力が一時的に分配し直され、起動しているプログラムは別々のパフォーマンスの押し上げを得られます。その際、起動するプログラムが一時的に最優先されます。その他すべてのプログラム（緑色と青色）には影響が及びません。

ライブ最適化がアクティブであったことは、どのようにわかるのでしょう?

ライブ最適化の特長は、バックグラウンドでインテリジェントに実行されることです。バックグラウンドでいずれかの最適化措置が実行されているときはいつも、タスクバーの通知領域にあるアイコンでわかります。

7.2. バックグラウンドプログラムを無効にする

この章では、**どのように**AVG Program Deactivator モジュールを使用して、様々な状況でシステムに負荷を与えるプログラムを無効化するのか、また**なぜそれが有用であるのか**を説明します。

現在まで、不要なプログラムに対するユーザーの対応方法は2種類のみでした。プログラムを丸ごとシステムから削除するか、またはバックグラウンドのプログラムがシステムに負荷をかけるのを黙認するかです。アンインストールの後ではいつでも、そのプログラムに割り当てられているファイルがもう起動できなくなる危険性がありました。プログラムがコンピュータに入ったままだと、いつでも必要なときに利用できますが、システムのパフォーマンスが持続的に低下します。

AVG Program Deactivator はシステム起動時だけではなく、実行中やシャットダウンの際にも、プログラムに付

随するサービスやタスクから生じる、プログラムの負荷を軽減します。

AVG Programs-on-Demand Technology

AVG Programs-on-Demand Technology により3つ目のオプションができました :必要がなくなったプログラムをまず無効にし、それらのプログラムなしでも作業に差し支えないかどうか見てみましょう。プログラムがまた必要と分かっても、もう問題はありません。**AVG Programs-on-Demand Technology** は、まるで今まで無効になっていなかったかのように、バックグラウンドで再び有効にするので、プログラムをいつも通りに起動できます。改良された **AVG Programs-on-Demand Technology** では、プログラムは使用後に自動的に無効となるため、システムの負荷は常時可能な限り最小限に保たれます。

AVG Program Deactivator の設計

AVG Program Deactivator は、**インストールされたすべてのプログラム**、**インストールされたプログラムによる負荷**、**詳細**の3つの領域に分かれています。メニューバーに追加された**はじめに**ボタンで、**AVG Program Deactivator** へのスタートガイドをいつでも開くことができます。

インストールされたすべてのプログラム

インストールされたすべてのプログラムの領域には、システムにインストールされたすべてのプログラムとその負荷状態を一覧できるリストがあります。**名前**の欄にはプログラムが、システムへの負荷 -高、中、低 -に従って並んでいます。システムに負荷をかけていないプログラムは、ステータスが "なし "で、名前は挙げてありません。負荷の値としては、常に起動時、実行中、シャットダウン時に最も高い値が出てきます。**ステータス**の欄では、プログラムの現在のステータスが見られます。

インストールされたプログラムによる負荷

インストールされたプログラムによる負荷領域に、3つのグラフがあり、システムの負荷をビジュアルで確認できるようになっています。左のグラフがシステム起動時、中央がPCの通常の作業中、右がシャットダウンの際の負荷を表しています。グラフの下にはグラフの凡例と説明があります。リストにあるプログラムが1つ選択されると、それがグラフの隣のプログラム記号の表示で反映されます。

詳細

詳細パネルでは、選択したプログラムの名前、その現在のステータス、プログラムによるシステムの負荷が読み取れます。スイッチを使って、プログラムをそれぞれ有効または無効にすることができます。どのプログラムも選択されない場合は、どれだけの数のプログラムが有効 無効、あるいはシステムに必須か、その一覧が表示されます。複数のプログラムが選択された場合は、詳細パネルに異なるステータスのプログラム数が表示されます。スイッチの隣に表示されたステータスは、優勢であるステータスに合致しています。その隣りの欄では、各プログラムの現在のステータスが見られます。

可能なプログラム ステータス

AVG Program Deactivator には、4つの異なるプログラムステータスがあります。

希望のステータス

希望のステータスの欄には、どのステータスがプログラムのために選択されたかが表示されます。希望のステータスは、スイッチをクリックして変えることができます。

有効

プログラムは完全に有効化され、コンピュータに負荷をかけています。

無効

バックグラウンドで常に実行されているプログラムのサービスはオフです。

システムに必須

これは **AVG PC TuneUp** がセキュリティのため、あるいはシステムの正常な動作のために必須であると格付けしているプログラムであり、これを無効化すると重大な結果を招く可能性があります。そのようなプログラムを変更するのは不可能なので、スイッチはグレー表示になっています。

負荷なし

プログラムはシステムに負荷がかかっていないので、無効にできません。この理由から、スイッチはグレー表示で変更不可です。

現在のステータス

現在のステータスの欄には、右隣にプログラムの現在の各ステータスについての詳細があります。

常時有効

プログラムは完全に機能可能で、今使用されていなくてもシステムには負荷がかかっています。

プログラムの起動まで無効

プログラムは完全に無効になり、手動で再び起動されるまでシステムに負荷はかかりません。その後にプログラムはまた無効になります。

アイドルあるいは再起動後に無効

稼働中にはプログラムはオフにできず、次回のアイドル時あるいはシステムの再起動時に、**Program Deactivator** が無効化を自動的に実行します。

再起動後に無効

稼働中にはプログラムはオフにできず、次回のシステムの再起動時に、**Program Deactivator** が無効化を自動的に実行します。

無効にできません

これは、**Program Deactivator** がセキュリティのため、あるいはシステムの正常な動作のために必須であると格付けしているプログラムで、それを無効化すれば重大な結果を招く可能性があります。それゆえ無効にできません。

システムに負荷がかかりません

プログラムはシステムに負荷がかかっていないので、無効にできません。

設定の変更

設定 でProgram Deactivator の **オプション終了後自動的に再び無効にする（推奨）**をオフにすると、プログラムは次のようなステータスになります：

現在のステータス

有効

プログラムは完全に機能可能です。

無効

バックグラウンドで常に実行されているプログラムのサービスはオフです。

無効化スケジュール済み

可能になり次第、プログラムは自動的に無効になります。

システムに必須

バックグラウンドで常に実行されているプログラムのサービスはオフです。

負荷なし

プログラムはシステムに負荷がかかっていないので、無効にできません。

ステータスの説明

現在のステータス の欄の右隣の**ステータスの説明** に、各プログラムの現在のステータスについての詳細情報があります。

7.2.1. プログラムを無効にする方法

プログラムを無効にする方法

速度アップ画面に進み、**速度アップの可能性** グラフの**バックグラウンドプログラムを無効にする**セクションをクリックして、**AVG Program Deactivator**モジュールを開始します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードで**すべての機能**の**インストール済みのプログラム**にある**バックグラウンドプログラムを無効にする**を選択します。

AVG Program Deactivatorモジュールは、AVG Programs-on-Demand Technology を使用しており、システムの負荷を軽減し、システムパフォーマンスを向上させます。

プログラムを無効にする方法

1. **有効** になっているプログラムをリストから一つ選択します。

2. プログラムを無効にするには、ステータス欄あるいは詳細パネルのスイッチで、またはツールバーのボタン

無効にするをクリックします。

プログラムを有効にする方法

1. ステータスが**無効**になっているプログラムを、リストから一つ選択します。
2. プログラムを有効にするには、ステータス欄あるいは詳細パネルのスイッチで、またはツールバーのボタン**有効にする**をクリックします。

複数のプログラムを有効化、あるいは無効化する方法

複数のプログラムを同時に選択すると、おこる動作はステータスが優勢である方に従います。例えば選択した2つのプログラムが無効で、1つのプログラムが有効だと、プログラムは有効にしかできません。これに対し、有効なプログラムが2つで無効が1つの場合は、プログラムを無効にしかできません。

操作に引き続いて視覚化の領域の左にウィンドウが現れ、操作の結果を通知します。

7.2.2. Program Deactivator を設定する方法

Program Deactivator を設定する方法

スタートセンターの右上にメニューバーがあります。**設定**をクリックすると、**AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログが開き、モジュールごとのオプションに加え、**AVG PC TuneUp** の最も重要な設定のリストが表示されます。

左側の **Program Deactivator** をクリックすると**AVG Program Deactivator の設定が開きます**。

7.2.3. 負荷ポイント

負荷ポイント

AVG Programs-on-Demand Technology™ はシステムの負荷を内部の点数システムに基づいて計算します。このため、**AVG PC TuneUp** は、各プログラムのバックグラウンドプログラムを検出します。つまり、プログラムの本体と一緒にインストールされて、ユーザーが知らぬ間に絶えず実行され、システムの計算能力を「盗んでいる」プログラムやサービスです。1つのプログラムに対しバックグラウンドプログラムが多ければ多いほど、そのプログラムはコンピュータにより重い負荷をかけます。**AVG TuneUp Programs-on-Demand Technology™** は、起動時、実行時、シャットダウン時など異なる時点で実行プログラムの量を計算します。**負荷**の欄には、この3つで最も高い値が表示されます。

7.3. スタートアッププログラムを無効にする

この章では、**AVG StartUp Manager** モジュールを使って、コンピュータの起動と作業の速度をスピードアップさせる**方法**と**なぜその必要があるのか**を説明します。

コンピュータのスイッチを入れると、多数のプログラムがバックグラウンドで自動的に実行されます。このスタートアップは、重要な機能やサービス（ウイルススキャンプログラムやサウンドカードの構成コンソールなど）の場合にはとても有用です。

しかし多くの場合、たまにしか必要にならないプログラムや、まったく必要でないプログラムも自動実行されています。

スタートアッププログラムが1つ増えるたびに、一方では Windows のシステム起動が遅れ、他方ではバックグラウ

ンドで常時実行されている個々のプログラムが、コンピュータの動作速度を低下させています。さらに、広告を表示してユーザーの作業を妨げるプログラムもあります。

スタートアップ プログラムについての詳細

スタートアップ プログラムには、インストールの際に [スタート] メニューの中に登録されるものがあり、[スタート] メニューからプログラムを削除するのは簡単です。しかし、大部分のスタートアップ プログラムは、直接レジストリに登録されるため、スタートアップ フォルダには表示されません。システムの起動時やユーザーのログオン時に、プログラムの自動実行が、スケジュールされたタスクという形で実行されることが多くあります。

AVG StartUp Manager は、スタートコマンドがいかにうまく隠されようと、自動的に起動するすべてのプログラムを見つけることが可能です。また、各スタートアップ プログラムについての詳しい**説明**と自動実行の必要性に関する**評価**もご覧いただけます。

AVG StartUp Manager は、スタートアップ プログラムを有効または無効にできるだけでなく、各プログラムについての情報を報告し、自動起動の各項目に対し推奨事項も提示することができます。

自動起動を無効化しても、プログラムはアンインストールされるわけではないのでご注意ください。単に自動起動を無効にして、コンピュータのシステム起動と作業速度を向上させるのです。

7.3.1. システムの起動を設定する方法

システムの起動を設定する方法

速度アップ画面に進み、**速度アップの可能性**グラフの**スタートアッププログラムを無効にする**セクションをクリックして、**AVG StartUp Manager** モジュールを開始します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードで**すべての機能**の**インストール済みのプログラム**にある**スタートアッププログラムを無効にする**を選択します。

場合によっては、プログラム起動の前にプログラムの評価機能のスタートアップ ダイアログが現れることがあります。ここでこの機能を有効化するかどうかを決定しOK をクリックします。

AVG StartUp Manager はすべてのスタートアッププログラムのリストを開きます。このモジュールを初めて使用する時は、すべての項目が有効になっています。つまり、システムを起動するたびにこれらのプログラムが自動的にバックグラウンドで実行されます。

AVG StartUp Manager では、次の機能を選択できます。

プログラムの自動起動を無効にする

これにより、そのプログラムは、次回のシステム起動時にバックグラウンドで自動起動されなくなります。それでもリストにその項目は残るので、再び自動起動をいつでも簡単に有効にできます。

1. リストからスタートアップ プログラムを選択します。
2. 直接、またはツールバーから無効にします。

システム起動の最適化のヒントにもかかわらず、プログラムの自動起動を無効にすべきかどうか判らない場合は、一度にスタートアップ プログラムは1つだけ無効にし、コンピュータを再起動して、利用しているプログラムをいつものように起動してください。そうすれば、自動起動が本当に不要であるかどうかが判断できます。再起動後にどこか不具合があれば、その項目を再び有効にします。まったく問題がない場合は、次のスタートアップ プログラムを無効にしてみます。

プログラムの自動実行を有効にする

これにより、そのプログラムは、システムが起動するたびにバックグラウンドで自動実行されます。その後、自動起動はまたいつでも簡単に無効にすることができます。

1. リストからスタートアップ プログラムを選択します。
2. スイッチ、またはツールバーにあるボタンを使って有効にしてください。

スタートアップ プログラムを追加する

システムの起動時に自動起動されるプログラムを増やしたいときは、リストにプログラムを追加します。

1. ツールバーの **追加** ボタンをクリックします。また、右クリックでコンテキスト メニューを開き、**プログラムを追加** をクリックする方法もあります。
2. リストから、システムの起動と同時に自動起動させるプログラムを選択します。該当するプログラムがリストにない場合は、[参照] をクリックして、開いたリストから選択します。

スタートアップ プログラムをリストから削除する

自動実行させたくないプログラムがある場合は、リストから削除することができます。**追加** をクリックするか、**AVG Rescue Center** を使用して、いつでも再びリストに追加することができます。

1. リストからスタートアップ プログラムを選択します。
2. ツールバーの **削除** ボタンをクリックします。または、右クリックでコンテキスト メニューを開き、**削除** をクリックする方法もあります。

7.3.2. システム起動を最適化するヒント

システム起動を最適化するヒント

スタートアップ プログラムとは、コンピュータの起動と同時に自動実行されるプログラムを指します。スタートアップ プログラムは、ユーザーがまったく操作を行わない場合でもバックグラウンドで常にアクティブな状態にあり、システムを負荷しています。これは、たとえばウイルス スキャン プログラムなどの場合にはとても意味があります。それに対し、その他のスタートアップ プログラムにはシステムを無用に負荷しているものもあります。

コンピュータにスイッチを入れた際にバックグラウンドで自動的に起動するプログラムが、少なければ少ないほど、起動のプロセスはより速く完了します。さらに、バックグラウンドに不必要なプログラムがアクティブになっていないとコンピュータはより速く動作します。

AVGここで StartUp Manager はどのように役に立つのでしょうか。

以下の情報を参考にして、それぞれのプログラムをバックグラウンドで自動実行すべきかどうかを決定してください。

評価

大部分のスタートアップ プログラムについて、**AVG StartUp Manager**は、**評価**を作成し、プログラムの自動起動が**必要**か、**不必要**、または**オプション**のいずれであるかを表示します。AVG チームがきちんとメンテナンスしているデータベースによって、例えばセキュリティ関連のプログラムはすべて必要なものと評価されます。必要でないスタートアップ プログラムは不要と判断されます。そのうえ、誤ってリストに表示されているプログラムも不要とされます。これはたとえば、リストのエントリがアンインストール済みのプログラムを参照している場合などです。

このように分類していくと、多数のプログラムが任意として評価されることになります。任意のプログラムについては、ユーザーが自分のニーズに合わせて決定を下します。詳しくは**オンライン検索**あるいは**プログラムの評価機能**の説明が役立ちます。

プログラムの評価機能がどのように判断に役立つかという情報は、プログラムの評価機能をご覧ください。

説明

リスト内でスタートアップ プログラムを選択すると、よく編集されたデータベースを元に、そのプログラムの**説明**が表示されます。ユーザーは、この情報を参考にして決定を下すことができます。

AVG StartUp Managerはあまり普及していないプログラムの場合、認識できないことがあります。その場合は、リンクをクリックして**オンライン検索**を開始し、そのプログラムに関する情報を探すことができます。

また、AVGにプログラムの情報を**レポート プログラム**リンクを介して送り、今後そのプログラムの説明を表示させることもできます。

評価

有用性の列では、本人もしくは他の **AVG PC TuneUp** ユーザーがこのプログラムの有用性をどう評価しているか、情報を得ることができます。ご自分でまだ評価していなかったら、そのプログラムをここで評価できます。**AVG PC TuneUp** がサーバーデータベースから他のユーザーの評価を呼び出して表示します。これらの評価は定期的かつ自動的に更新されます。

この判断ヘルプを読んでもまだ、プログラムの自動起動を無効にすべきかどうか判らない場合は、一度にスタートアップ プログラムを1つだけ無効にし、コンピュータを再起動して、利用しているプログラムをいつものように起動してください。
再起動後に不具合が生じた場合は、スタートアップを再びオンにします。何も問題がない場合は、また次の項目を1つ無効にし、システムの起動をさらに高速にします。

7.4. システム推奨事項

この章では、**システム要件**を使用して不必要なタスクやサービスをオフにすることで、システムのパフォーマンス向上を実現する**重要性**、また**どのようにできるのか**について説明します。

システムのパフォーマンスは、バックグランドで実行されていて、日常めったに使わない、あるいは全く必要でないタスクやサービスをオフにすることによって、向上します。タブレット PC との互換性（つまり、コンピュータを画面からペンで操作する可能性）のため、あるいはネットワーク サーバーのためのテクノロジー。さらに、プログラムをアンインストールすることで、コンピュータのパフォーマンスは向上させることができます。それゆえ、忘れてしまうほど長いこと使用していないプログラムや、システムを無用に低下させているプログラムを探し出します。**AVG PC TuneUp** は、コンピュータのハードウェアがパフォーマンス不足である場合も認識します。

インターネットの設定が原因で、インターネット接続の通信速度や処理能力が最適な状態で活用できないことがあります。同時に並行してダウンロードやインターネット サイトの転送をすると、Windows の基本設定により

低速になります。この領域でも、最適化の可能性が表示されます。

コンピュータが不必要な**ビジュアルエフェクト**のせいで、低速になった場合には表示されます。

AVG PC TuneUp は、コンピュータ上でそのようなパフォーマンス低下の原因を検出し、パフォーマンスを改善するための推奨事項を表示します。

AVG PC TuneUp が総合的な推奨事項を提示できるように、初めてソフトウェアを起動する前にプロファイルへの入力を行う必要があります。プロファイルの入力後、高速かつ簡単なパフォーマンスの改善が可能になります。

速度アップ画面に進み、**速度アップの可能性**グラフの**推奨** セクションをクリックして、**AVG Increase Performance** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**推奨**の**速度アップ推奨を表示**を選択します。

このウィンドウを初めて開いた時には、まずプロファイル ウィザードによる簡単な質問に答える必要があります。それにより、最適化をくわしくユーザーのニーズや状況にカスタマイズすることができます （プロファイルを参照）。

概要

タブの**概要**で詳細ウィンドウが開き、そこでチェックした領域にパフォーマンス向上の可能性があるかどうかがわかります。**インターネットの設定** と**視覚効果** の領域では、**すべて最適化**のボタンをクリックし、最適化の推奨事項をすべてまとめて実行することができます。その際、ユーザーにとって重要な機能は制限を受けません。

それに対し**ハードウェアとソフトウェア**の領域では、推奨事項はユーザーの使用の仕方に強く関わっています。この理由から、個別にしか適用できません。

タブの切り替え

推奨事項の1つをクリックするか、**詳細**のボタンをクリックすると、別のタブに切り替わり、各推奨事項の詳細が表示されます。もう一つの方法として、タブの名前をクリックすることもできます。

推奨事項を実行

インターネットの設定 と**視覚効果** のタブでは、**すべて最適化**のボタンをクリックし、最適化の推奨事項をすべてまとめて実行することができます。また、左側の列にある推奨事項をクリックする方法もあります。ウィンドウの右側に詳しい説明が開き、右下にあるボタンをクリックすると、推奨事項が適用されます。

ハードウェアとソフトウェアタブでは、各推奨事項について簡単な質問に答えると、続行に見合った可能性が表示されます。答えられない質問があるときや、決定を延期したいときは、右下にある**推奨事項を非表示**のボタンをクリックしてその推奨事項を非表示にできます。

ハードウェアに関連する推奨事項は、もちろん簡単に適用できないので、適用しないときは非表示にします。

推奨事項の表示と非表示

推奨事項を適用したくない場合は、**推奨事項を非表示**をクリックします。その後ずっと非表示にするか、30日間だけ非表示にするかを指定します。非表示にした推奨事項の数は、常に下部バーの右側に表示されます。この表示を1クリックするだけで、推奨事項を再び**表示する**ことができます。

プロファイルを変更

右上にある**プロファイルを変更** ボタンをクリックすると、最適化の推奨事項の基礎となるプロファイルが開きます。

7.4.1. プロファイル

最初に **AVG PC TuneUp** を使用するときに、プロファイルの入力が求められます。これにより、ユーザーに合わせたパフォーマンスを向上させるための推奨事項が表示されます。プロファイルには、以下の質問が含まれます：

通常どのようにコンピュータをインターネットに接続していますか？

インターネット接続の種類をリストから選択してください。それによりネットワークやインターネット、ブラウザの設定（パケットサイズなど）をインターネット回線に最適になるよう調整されます。

ビジュアルエフェクトを最適化するための条件とは？

最大のパフォーマンス（表示品質とは関連なし）を選択すると、すべての効果とカラフルな Luna のテーマ（Windows XP）、または Aero ガラスのテーマ（Windows の最近のバージョン）は無効になります。パフォーマンスが低下したコンピュータでは特に、これを選択することを強くお勧めします。精巧なインターフェイスを表示すると、処理能力が大幅に下がるからです。

コンピュータの画面が少し揺れたり、ウィンドウの表示が遅い場合は、まず **バランスの取れたパフォーマンスとデザインに設定します。** このオプションでは、しゃれたインターフェイスは維持されますが、出力を多く必要とする効果はオフになります。

高性能なビデオカードが搭載されたシステムでは、Windows Aero をオフにしてもパフォーマンスは上がりません。

使用されていないプログラムは何日が経過した時点で削除対象の候補としますか？

長期間使用されていないプログラムがないかコンピュータをチェックします。それらがコンピュータを無用に低速化させないよう、アンインストールの推奨とともに表示されます。ここでユーザーの使用行動に従って、使用していないプログラムを何日後に不要なプログラムとみなしアンインストール推奨に表示すべきかを入力します。

プロファイルを変更

プロファイルの設定は後でいつでも変更できます。それには**パフォーマンスの向上 -詳細**のウィンドウの左上の**プロファイルを変更**のボタンをクリックします。

プロファイルは、すべての項目を入力しないと承認されません。

7.5. 実行中のプロセスを管理する

この章では、**どのように**AVG Process Managerモジュールを使用して、実行プロセス、システムキャパシティと開いたファイルを監視・管理できるのか、**さらに、なぜそれが重要なのかを説明します。**

AVG Process Managerを使用すると、システムで実行中のプログラムやプロセスを常に把握し、システムの活動を概観することができます。

これにより、現在どのプロセスによってどのメモリが使用されているのかを見つけ出し、数多くの詳細情報を把握し、不要なプロセスをクリック1回で終了できます。

絶えず更新されるリアルタイムグラフィックで、プロセッサ使用率やメモリ使用率の変化を観察し、システムの現在の状態に関するさまざまなデータを見ることができます。

7.5.1. 実行中のプロセスを管理する方法

速度アップ画面に進み、追加モジュールリボン（画面右下）から**CPUを使用しているプログラムを表示する**をクリックし、**AVG Process Manager**モジュールを起動します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**Windows**の**実行中のプロセスの表示と終了**を選択します。

AVG Process Managerは、システムの現在のステータスに関する様々な情報を表示します。個々のファクトは3つのタブにまとめてあります：

プロセス

モジュールの起動後、**プロセス**のタブに現在実行中のすべてのプログラムとプロセスが表示されます。このとき、プロセス名とその優先度、そして当面のCPU使用率を一覧にて確認できます。このモジュールでは、各プロセスがメモリ内でどれだけの場所を使用しているかも表示されます。

一覧からプロセスを1つ選択すると、**詳細を表示**によって各アプリケーションの詳細情報を表示できます。**プロセスを終了**をクリックすると、アプリケーションは強制的に閉じられます。これは少々大胆な方法ですが、プログラムがクラッシュしたあと、あるいはスパムのダイアラーを除去したい場などに役立ちます。

ユーザーアカウント制御が有効な場合は、ユーザーが自分で起動したプロセスだけを最初に表示することができます。その他のユーザーのプロセスとシステムプロセスそのものを表示するには、この場合ウィンドウの下のへりにある**すべてのプロセスを表示**のボタンをクリックしてください。

リストでプロセスを選択すると、**編集**メニューの**プロセスの優先度を設定**で、Windowsがそのプロセスにパフォーマンスをどのくらい割り当てるか指定することができます。

開いているファイル

開いているファイルのタブには、現在開いているファイルとフォルダの一覧があります。一覧にはファイルの種類、ファイルやフォルダがどこに存在するか、また現在どのプロセスによって開かれているかが表示されます。

リストにファイルが複数回表示されることがあります。ファイルやフォルダは、同時に複数のプロセスにより開かれることがあります。さらに、明らかに"開いている"ファイルがリスト表示されないことも珍しくありません。Microsoft WordやテキストエディタのNotepadのようなアプリケーションは、コンテンツを読むまたは保存のために少しの間だけ開き、作業中ずっと開いておくことはすべきではありません。

ヒント：ヒント：ファイルを削除しようとして、現在使用中というエラーメッセージが出る場合は、どのプロセスが関係しているかをここで見つけ出し、終了することができます。こうすることで、その後正常に削除できます。

パフォーマンス

パフォーマンスのタグには、システムに関する多数のファクトがあります。

現在のプロセッサー使用状況と、過去数秒間のプロセッサー使用状況をグラフで閲覧できます。過去数秒間のメモリ使用状況を示すグラフも表示されます。ページファイルとメモリの現在の使用状況がキロバイトで表示されます。

また、メニューバーとツールバーも用意されています。ここで使用できる機能の一部は、アクティブなタブの内容に合わせて動作します。これについては、上記のそれぞれの項目に説明があります。**ファイル、、ツール、**ヘルプの各メニューには、一般的な機能が常に表示されています。

メニューバーの一般機能

メニュー "ファイル "

ファイルメニューの **新規アプリケーション**をクリックすると、Windows の [ファイル名を指定して実行] ダイアログ ボックスが開き、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりできます。**Windows を終了**では、コンピュータをシャットダウンしたり、再起動したり、新しい設定を有効にすることができます。

特に注目の機能は**タスクマネージャを置換する**で、システム上の Windows タスクマネージャを **AVG Process Manager** に置き換える働きをします。これはショートカット キーの Ctrl+Alt+Del で呼び出すか、タスク バーの何もないところを右クリックしてコンテキスト メニューから選択できます。タスク マネージャを置換を再び元に戻したい場合は、同じメニュー項目をクリックし、表示されているチェック マークを取り除いてください。

[ツール] メニュー

ツールメニューでは、コンピュータ上での**AVG Process Manager**の表示形式を設定できます。たとえば、システム実行時のプロセッサ使用率を監視するために、常に手前に表示させることができます。ウィンドウを最小化したときに、デスクトップ右下の通知領域に**AVG Process Manager**が表示されるように設定できます。通知領域に表示されたアイコンをクリックすると、いつでもすばやく最大化できます。

[ヘルプ] メニュー

ヘルプメニューでは、いつでもプログラム ヘルプを開いたり、AVGウェブサイトにアクセスしたり、**AVG PC TuneUp**の更新の有無を確認したり、**AVG PC TuneUp**のバージョン情報を表示することができます。

7.6. システムの起動とシャットダウンを最適化する

この章では、コンピュータの起動とシャットダウンをどのように簡単に**瞬く間に**最適化するかを説明します。

ここでは不要なスタートアッププログラムを無効化する推奨事項が得られます。これらの推奨事項は、システム起動ならびにシャットダウンの最適化に役立ちます。

たとえば、システムの起動直後に必要ではないスタートアップ サービスは、起動のタイミングが後にずらされます。それにより、機能自体は失われることなく、同時にシステムの起動速度が上がります。さらに、サービス終了の待ち時間も短縮されます。そのようにしてシャットダウンの際、サービスは迅速に終了し、シャットダウン自身も迅速に完了します。

これらの推奨事項は、すべてまとめてすぐ適用することもできれば、まず詳細な説明を読んでから個別に適用を決定することもできます。

7.6.1. システムの起動とシャットダウンを最適化する方法

システムの起動とシャットダウンを最適化する方法

速度アップ画面に進み、追加モジュールリボン（画面右下）から**スタートアップとシャットダウンを最適化する**オプションをクリックして、**AVG StartUp Optimizer**モジュールを起動します。**AVGStartup Optimizer** ウィンドウが表

示されます。

このモジュールを起動するも追う一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**推奨事項**にある**システムの起動とシャットダウンの最適化**を選択します。

ユーザーの状況にあった推奨事項を表示するには、場合によってはここでまずユーザーの**プロファイル**の情報を入力する必要があります：

コンピュータ上でどのサービスとデバイスを使用していますか？

ここで、使用していない機能をオフにすることができます。設定済みの機能やサービスのうち、現在必要とされていないものが表示されます。

たとえば、プリンタを使用しない場合は、バックグラウンドで実行されているプリンタ関連のプログラムをすべてオフにできます。それをここで指定します。

会社のネットワークまたはドメインへのアクセスが必要ない場合は、それ関連するサービスおよびバックグラウンドプログラムをオフにできます。それについても、リストで該当する回答を選択します。

不要な機能をここで無効にすればするだけ、コンピュータはより迅速に起動し動作します。Windows がこの最適化に従って、自動起動して常にアクティブなバックグラウンドプログラムを放棄するからです。

AVG StartUp Optimizer の右上に位置する"プロファイルの変更"をクリックして、いつでも設定の変更を行えます。

コンピュータ上でどのサービスとデバイスを使用していますか？

ここで、使用していない機能をオフにすることができます。設定済みの機能やサービスのうち、現在必要とされていないものが表示されます。

たとえば、プリンタを使用しない場合は、バックグラウンドで実行されているプリンタ関連のプログラムをすべてオフにできます。それをここで指定します。

会社のネットワークまたはドメインへのアクセスが必要ない場合は、それ関連するサービスおよびバックグラウンドプログラムをオフにできます。それについても、リストで該当する回答を選択します。

不要な機能をここで無効にすればするだけ、コンピュータはより迅速に起動し動作します。Windows がこの最適化に従って、自動起動して常にアクティブなバックグラウンドプログラムを放棄するからです。

AVG StartUp Optimizer の右上に位置する"プロファイルの変更"をクリックして、いつでも設定の変更を行えます。

概要

このビューでは、見つかった最適化の推奨事項の概要が表示されます。**すべて最適化をクリックするだけで、全推奨事項をまとめて適用できます。**

詳細

推奨事項のいずれか、あるいは**詳細**のリンクをクリックすると、個々の推奨事項の詳しい説明が表示されます。また、**詳細**タブに切り替えることもできます。このタブでも、**すべて最適化**をクリックするだけで全推奨事項をまとめて適用できます。

"最適化の推奨事項"の欄でいずれかの推奨事項をクリックしてください。ウィンドウの右にプログラムの説明と推奨事項が開きます。最適化を許可する場合は、右下の**推奨事項を適用**をクリックします。

推奨事項の表示と非表示

推奨事項を適用したくない場合は、**推奨事項を非表示**をクリックします。その後ずっと非表示にするか、30日間だけ非表示にするかを指定します。非表示にした推奨事項の数は、常に下部バーの右側に表示されます。この表示を1クリックするだけで、推奨事項を再び**表示する**ことができます。

7.7. システム情報を表示する

この章では、**どのようにAVG システム情報**モジュールを使用してシステム情報を表示するのかを説明します。

AVG システム情報は、コンピュータの内部を調べ、ハードウェアやソフトウェア、コンピュータの性能についてさまざまな統計と情報をまとめます。

これらの情報は、コンピュータをアップグレードしたいときや、コンピュータに特定のコンポーネントが内蔵されているかどうかを知りたいときなどに役立ちます。

7.7.1. システム情報を表示する方法

速度アップ画面に進み、追加モジュールリボン（画面右下）から**システム情報の表示**をクリックし、**AVG System Information** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**コンピュータのシステム情報を表示**を選択します。

システムについて個々のデータが次のような新しいタブに表示されます：

概要

ここではコンピュータの主要なコンポーネントについての情報がまとめて表示されます。どんなプロセッサが内蔵されているか、メモリの状態、ビデオカードの性能、使用しているマウス、ドライブについて表示できる統計データの種類などが一目でわかります。

Windows

ここで、Windows のバージョン、前回コンピュータを起動したのはいつか、Internet Explorer のバージョンがわかります。

ディスプレイ

ここではすべての基本情報、モニターとビデオカードによってサポートされている表示モードや機能が表示されます。

メモリ

ここで現在のメモリ使用量が見られ、現在読み込まれている各アプリケーションのメモリ使用量が表示されます。

パフォーマンス

プロセッサ使用率、物理メモリ、ページングファイルのサイズについてすべてのデータが表示されます。これら

の情報は、3つのリアルタイム グラフで表示されます。

ドライブ

ここではメモリ使用領域とハードウェアのドライブごとの情報が得られます。**ファイルシステム**では、ドライブのファイル編成についての情報が表示されます。

I/O デバイス

ここでは、主要なポート、インストールされているプリンタ、オーディオ デバイスが表示されます。

通信

オンライン接続中、2つのリアルタイム グラフによって毎秒の送受信データがキロバイト単位で表示されます。

システム デバイス

ここにはプロセッサとBIOS に関する情報が表示されます。**プロセッサの詳細**のリンクをクリックすると、プロセッサ性能の特徴を詳細に見ることができます。

8. 空き領域を増やす

お部屋と同じように、コンピュータにも時が経つにつれて貴重なメモリを消費する不要なちりが溜まってきます。時々大掃除をして、不要なファイルをシステムから削除することをお勧めします。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Center によって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。

クリーンアップの可能性

この画面では、グラフを使ってAVG PC TuneUp のオプションをどの程度すでに使用しているかを確認し、システムをクリーンアップしてディスク領域を空け、また、最適化可能な残りの領域を確保することができます。

グラフでは、左側の青いセクションがこれまでに最適化を進めるために使用したモジュールを示し、右側の薄いグレーのセクションはまだ行っていない最適化の可能性を表しています。グラフの各セクションにはメッセージが割り当てられています。青いセクションのメッセージは純粋に情報提供を目的としており、すでに完了した最適化について通知します。グレーのセクションにあるメッセージは、実施できる最適化の可能性を示す、よりインタラクティブなメッセージであり、ユーザーが問題に直接アクセスしてすぐに対処できるものです。

グラフの下には、すでに完了した最適化と、まだ利用されていない可能性についての最新メッセージがあります。各セクションにマウスのカーソルを動かすと、対応するメッセージが表示されます。セクションに未使用の可能性が含まれている場合、いくつかのボタン（**[今すぐスキャン]**、**[今すぐ解決]**、**[詳細を表示]**など）が使用できるようになります。ボタンをクリックすると、未使用の可能性を利用するために使用できる適切な **AVG PC TuneUp** モジュールが開きます。

クリーンアップの可能性算出の際に考慮されるものとは？

クリーンアップの可能性は次のセクションの分析結果に基づいて計算されます。

オートクリーニング

このセクションを最適化するには、自動メンテナンスを有効にし、必要なメンテナンスタスクをすべて有効にする必要があります。

重複したファイルを削除

このセクションを最適化するには、**AVG Duplicate Finder** モジュールスキャニングを最近 30日以内に実施し、すべての検出結果を消去　または無視設定）しておく必要があります。

詳細は、重複したファイルを削除をご覧ください。

システム キャッシュとログ

このセクションを最適化するには、**AVGディスククリーナー**モジュールスキャニングを最近 30日以内に実施し、すべての検出結果を消去　または無視設定）しておく必要があります。

詳細は、Windows キャッシュとログをクリーンアップする参照してください。

ブラウザ データ

このセクションを最適化するには、**AVGブラウザクリーナー**モジュールスキャニングを最近 30日以内に実施し、すべての検出結果を消去　または無視設定）しておく必要があります。

詳細はブラウザのクリーンアップをご覧ください。

Windows の機能

このセクションを最適化するには、不要な Windows 機能のすべてを無効にする必要があります：

詳細は、Windows の機能を無効化をご覧ください。

その他の便利なモジュール

クリーンアップの可能性の計算には含まれない便利なモジュールもあり、さらにディスク領域を空けることもできます。これらはこのダイアログの下のリボンに表示されます。

- *大容量のファイルとフォルダーを検出して削除する*
- *未使用プログラムをアンインストールする*
- *データを確実に削除する*

8.1. Windows キャッシュとログをクリーンアップする

以下の章では、どのようにして**Windows とプログラムを整理する**で貴重なハードディスク領域を増やすことができるのか、**またなぜそれが重要なのか**を説明します。

Windows とプログラムを整理するでは、システムに悪影響を及ぼすことなく安全に削除できるWindows ファイル、古いバックアップ、使用できないログやレポート、不要な機能などのアイテムを体系的なリストとして見ることができます。

AVG PC TuneUp は、削除しても問題なく、不要と思われる多くの種類のファイルを検索します。次に、ディスク領域をどれだけ解放できるかを表示します。まず最初に削除対象の候補となる全ファイルのリストが表示され、どのファイルを削除するかをユーザー自身が決定できます。

セキュリティは特に重視されます。その結果、特定のパターンに従ってハードディスク内を「闇雲」に探していたこれまでの方法とは異なり、突然エラーメッセージが表示されたり、プログラムの不具合が生じたりするトラブルは生じません。

8.1.1. Windows とプログラムを整理する方法

空き領域を増やす画面に進み、**クリーンアップの可能性**グラフの**システムキャッシュとログ**セクションをクリックして、**AVG Disk Cleaner** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**へ行き、**利用データ**にある**システムキャッシュとログをクリーンアップする**を選択します。

不要なファイルと古いバックアップを削除し、Windows の機能を無効にするか、削除することができます。

不要なファイルまたは古いバックアップを削除する方法

1. リストから項目を選択します

   検出ファイルまたは古いバックアップのすっきりと整理されたリストが表示されます。どれだけのディスク領域がそれぞれ節約できるかが一目でわかります。クリーンアップの対象から除外したいファイルまたはバックアップの種類がある場合は、該当する種類のチェックボックスをオフにします。

   また、それぞれのファイルまたはバックアップの種類を選択し、その説明をウィンドウの右側に表示することができます。

   アイテムの表示ボタンをクリックしても、削除を勧められたファイルまたはバックアップの完全な一覧を表示できます。

2. **クリーンアップ**をクリックします。

   クリーンアップは、数分かかることがあります。クリーンアップの実施中、時として **AVG PC TuneUp**は応答していません、と表示されることがあります。これは技術上必要なものなので、心配ありません。クリーンアップが完了するとすぐ動き出し、完了メッセージが表示されます。このダイアログボックスは、閉じてもかまいません。

8.1.2. 削除が推奨されるファイルの種類は？

AVG PC TuneUpは、通常問題なくハードディスクから削除できる、次の種類のファイルやバックアップを検索します。

種類	説明
Windows の一時ファイル	Windows はファイルの一時保存を作成しますが、もともとこれは編集終了後に再び削除されるべきものです。これらのファイルは、削除しても問題がありません。
Windows のレポートとプロ	Windows は、エラー分析、プログラムやサービスの行動についてなど、さまざまな

トコル	レポートとプロトコルを保存します。
Windows の不要なファイル	フォルダとキャッシュのプレビューのカテゴリは、ディスク領域を解放するためにクリーンアップできます。
Windows のバックアップ ファイル	CHKDSK のような修復プログラムがハードディスクの損失クラスタを探し出し、安全のためにバックアップを取ります。また、Windows を新しいバージョンにアップグレードする場合は必ず文書、設定、およびプログラム データのバックアップが作成されます。これらのバックアップはほとんど使われないため、安全に削除できます（ただし、Windows アップグレードのバックアップを削除した後は、以前インストールされていた Windows のバージョンから古い文書や設定を復元することはできなくなります）。
Windows の履歴リスト	Windows は、前回どのファイルを編集したかなどを記録する履歴リストを作成します。これは、レジストリ内に参照の形で保存されます。これらのエントリは、該当するファイルを削除または移動した場合に無効になります。
プログラムの一時ファイル	多くのプログラムはファイルの一時保存を作成しますが、もともとこれは編集終了後に再び削除されるべきものです。これらのファイルは、削除しても問題がありません。
プログラムのレポートとプロトコル	多くのプログラムでは、行った動作の追跡に役立つログファイルを書き込みます。それにより、生じた問題を確認できます。このような利用をしない場合は、ファイルを破棄することも可能です。
プログラムの不要なファイル	画像のサムネイルはすばやくプレビューを表示するためにさまざまなプログラムで使用されています。不要になったサムネイル、プログラムのキャッシュおよびスクリーンショット（コンピュータ画面または開いているアプリケーションのウィンドウのキャプチャ画像）をクリーンアップして使用可能なディスク領域を増やすことができます。
プログラムのバックアップ ファイル	多くのプログラムでは、自動的に使用ファイルのバックアップが作成されます。また、プログラムによっては、プログラムが損傷を受けた場合に再インストールできるように、インストール ファイルのバックアップが作成されます。これらのバックアップ ファイルが不要になったと考えられる場合は、ファイルを安全に削除してディスク領域を開放することができます（ただし、インストール ファイルを削除した後は、そのソフトウェアを再インストールする場合、またはインストールに変更を加える場合にインストール ディスクを使用する必要が生じることがあります）。
プログラムの履歴リスト	多数のプログラムは、前回どのファイルを編集したかなどを記録する履歴リストを作成します。これは、レジストリ内に参照の形で保存されます。これらのエントリは、該当するファイルを削除または移動した場合に無効になります。

8.2. ブラウザのクリーンアップ

インターネットの閲覧中に、インターネット ブラウザは多数のさまざまなデータをコンピュータに保存します。

保存されたこれら閲覧の形跡は、もはやブラウザを使って自分で面倒な削除をするのではなく**AVG Browser Cleaner**が検索を行います。不要になったデータを選択するだけで、**AVG Browser Cleaner**がすぐさまそれを削除します。

以下の章ではAVG Browser Cleanerモジュールを使って、キャッシュ、クッキー、履歴を瞬く間に消去し、インターネット ブラウザを実にすばやくクリーンアップする方法を紹介します。.

8.2.1. ブラウザをクリーンアップする方法

空き領域を増やす画面に進み、**クリーンアップの可能性**グラフの**ブラウザデータ**セクションをクリックして、**AVG Browser Cleaner** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**へ行き、**利用データ**にある**ブラウザデータをクリーンアップする**を選択します。

ブラウザで、クリーンアップを実施するインターネットブラウザを選択します。ここで選択できるのは、Internet Explorerxx、Mozilla Firefox、Google Chrome、Opera、Safari 並びにプラグインの Adobe Flash Player と Microsoft Silverlight です。

AVG Browser Cleaner は選択したブラウザの削除できるアイテムを検出します。ブラウザ名の下に、クリーンアップできるカテゴリがリストされます：

種類	説明
キャッシュ	インターネットで閲覧の際にブラウザに読み込まれた全ての画像、テキスト、アニメーションはキャッシュに保存されます。ホームページを再度訪れると、ネット上から再度読み込む時間を短縮するために、これらのテキストや画像がすばやくキャッシュから表示されます。それでも時々これらのキャッシュを空にするとよいでしょう。
クッキー	クッキーは閲覧した Webサイトについての情報を含み、ネット閲覧をしている間に要求なくしてインターネット ブラウザによって保存されます。クッキーには Webサイトのログオン データあるいはユーザーのインターネット行動に関する情報が含まれていることがあります。
データベースを最適化する	ディスク領域を解放するため、Mozilla Firefox データベースが最適化されます。
ダウンロード履歴	ダウンロード履歴にはダウンロードしたファイルのリストが含まれています。
Webサイトのプロパティ	テキストサイズのような、Webサイトの特定のプロパティはブラウザに保存されます。
フォームデータ	例えばアドレスデータのような、Webフォームに入力されたデータはブラウザに保存されます。
保存されたパスワード	特定の Webサイトのパスワードは保存されることがあります。そのパスワードの削除は上級ユーザーのみが対象です。
Index.datファイル	Internet Explorer の URL キャッシュはいわゆる Index.datファイルに保存されます。これらのファイルのクリーンアップは上級ユーザーのみが対象ですので、ご注意下さい。
インターネット履歴	インターネット履歴には閲覧したすべての Webサイトのアドレスが保存されます。

前回のダウンロード保存先	ここにはファイルのダウンロードのため、前回手動で入力された保存パスが保存されます。
セッション	Mozilla Firefox は前回と現在のセッションを、セッションごとに開かれたタブとWebサイトとともに保存します。
一時ファイル	ここにはブラウザの一時利用データが保存されます。
その他の Mozilla ファイル	Mozilla Firefox はその他のファイルとして、バックアップ、更新、クラッシュとエラーのレポート、そしてプロトコル ファイルを保存します。
その他の Operaファイル	クリーンアップできるその他の Opera ファイルには、アイコン、サムネイル、VPS、一時ダウンロード、アプリケーション キャッシュがあります。
前回入力した URL	ここには前回手動で入力したWebサイトのアドレスが保存されます。

例外に指定してクリーンアップから除外することにより、特定のWebサイトのクッキーを保護することができます。そのためには、**特定のWebサイトのクッキーを保護**オプションの前にチェックを入れます。新しいダイアログが開くため、**削除**の下のリストからクッキーを保護したいWebサイトを選択します。選択したら、両方のリストの間にある右方向の矢印をクリックするだけです。選択したWebサイトのクッキーはただちに保護されます。

オプション**1週間以内のアイテムを保護する**を使って、新しい日付の保存されたデータを保護できます。そのためには、このオプションにチェックマークを入れるだけです。そうすれば 1週間以内のアイテムはクリーンアップから除外されます。

8.3. Windows の機能を無効化

空き領域を増やす画面で、**クリーンアップの可能性**グラフの **Windows の機能**セクションをクリックして、各機能の**ステータス**を確認します。

各機能に説明が表示されるので、それに基づいて処理を決定することができます。機能が有効な場合は、それがどれだけのディスク領域を使用しているかが表示されます。

次のオプションの Windows の機能は、無効あるいは、削除することができます：

休止状態のファイル

いわゆる休止状態ではコンピュータがシャットダウンされますが、開いているウィンドウ、プログラム、または文書を終了する必要はありません。コンピュータのメモリにあるデータはすべて、ハードディスクに保存されます。コンピュータを再びオンにすると、中断した状態から作業を続行できます。以前に開いていたウィンドウ、プログラム、および文書がすべてただちに復元されます。

休止状態が必要ない場合でも、休止状態のファイルは貴重なハードディスク メモリを消費します。その量はメモリのサイズに正確に対応します。お使いのコンピュータに 4GB のメモリが備わっている場合、休止状態のファイルは最大 4GB まで領域を占領します。これは、休止モードでは、メモリのコンテンツ全体が保存される必要があるためです。

休止状態機能を利用しない場合は、ここで無効にすれば、ディスク領域が解放されます。休止状態機能は、いつでもまた有効にすることができます。

Windows Messenger

プログラムの **Windows Messenger** を使用すると、友人とインスタント メッセージをやり取りできます。**Windows Messenger** を使用しない場合は、ここで簡単にコンピュータから削除することができます。

Windows デスクトップ検索のインデックス

デスクトップ サーチは、ファイルとフォルダをすばやく検索するための Windows 機能です。これは、ファイルとフォルダのエントリを使用して検索インデックスを作成します。検索の問合せは（例えば Windows Explorer や Outlook で）ハードディスク全体ではなく、この検索索引のみを探します。したがって処理がより速くなります。このインデックスはサイズがハード ディスク上のファイルの数に比例するため、多くのメモリを必要とします。

Windows デスクトップ サーチを使用しない場合は、検索をオフにすることで、ディスク領域を解放できるだけでなく、コンピュータのパフォーマンスを上げることもできます。

8.4. 重複ファイルを検索して削除する

この章では、ハードディスクにある様々な重複したファイルやフォルダを見つけて削除する**AVG Duplicate Finder** モジュールの使用について紹介します。

ハードドライブとはまるでファミリーガレージのようです。不要なものが場所を取っています。SSD ドライブも比較的小さいと思われますが、同様です。一目見ただけではわかりませんが、詳しく調べると、ハードドライブにある数十もの重複ファイル（あるいはフォルダ全体）が大切なディスク領域を占領していることが明らかになります。

AVG Duplicate Finder は、コンピュータから重複したフォルダを削除する、面倒だけれども大切な作業の助けとなります。これにより、デジタル ジャンクの割合が顕著に減少するはずです。同じ名前、同じサイズ、または同一の内容のファイルやフォルダを検索します。各ファイルまたはフォルダを調べ、どれを保持するかを決定するために役立ちます。最後に、小さなファイルは無視して、無駄の大きい重複ファイルだけに集中することも可能です。

8.4.1. 重複ファイルの検索方法

1. 空き領域を増やす画面に進み、**クリーンアップの可能性** グラフの**重複ファイルを削除する**セクションをクリックして、**AVG Duplicate Finder** モジュールを起動します。

2. **重複をスキャン** ボタンをクリックし、ハードドライブ上の重複ファイルまたは重複フォルダの検索を開始します。デフォルトでは、ディスク全体がスキャンされます。ハードドライブの特定の領域を指定することで、スキャン対象を絞り込むことが可能です。スキャンは通常数秒で完了します。完了すると、**AVG Duplicate Finder** に新しいダイアログが表示され、ユーザーはスキャンで検出された重複をすべて見ることができます。

3. この時点で検出された重複を保持するか削除するかを判断できます。すべての重複はカテゴリごとに並んでいます（フォルダ、画像、音楽、動画、文書、その他）。また、2つの特別なカテゴリがあります。

   - *すべての重複*：検出された重複をすべて含むグローバルカテゴリ
   - *選択済み*：削除するために選択した重複が含まれています（下記を参照）。このカテゴリは、選択済みのものがある場合のみ表示されます。

   右側のコラムにある名前をクリックすると、カテゴリ表示を切り替えることができます。

   ロールダウン メニューを使用して、各カテゴリのファイルを（サイズや名前などにより）並べ替えることもできます。ファイル（例えば、画像）の中には、簡素なプレビューがあるものもあり、ファイルの取扱いを判断する上で便利です。

重複ファイルを含むフォルダは、重複したフォルダとみなされます。フォルダ内にある複数のファイルが同一の場合、それらのファイルは各カテゴリごと(画像、音楽など)に表示されますが、フォルダ全体はスキャン結果ダイアログに表示されません。さらに、フォルダに含まれるファイルが無視するように設定されている場合、そのフォルダが重複としてマークされることはありません。

4. 削除するファイルまたはフォルダを選択します。非常に簡単です ?ダイアログの右側にある名前のボックスにチェックを入れるだけです。

   また、[**すべて自動選択**] ボタン (ダイアログの下部の [**選択済みのものを削除**] ボタンの左側にあります) も利用できます。 このボタンをクリックすると、新たなロールダウンメニューが表示され、***最も古いコピーを保持する***か、***最も新しいコピーを保持する***かを選択できます。これらのオプションのいずれかを使用すると、最も古い/新しいファイルを除き、検出された重複ファイルがすべて (削除のために) 選択されます (選択をすべて解除するには、[***すべて選択解除***] オプションをクリックします)。 「自動選択」機能は、個別のカテゴリ (上記を参照) または各カテゴリの個別のファイルにも適用できます。カテゴリまたは重複ファイルの名前にマウスのカーソルを重ね、その右側に表示される小さな矢印をクリックするだけです。これにより、最も古い/新しいコピーを保持するためのロールダウンメニューが表示されますが、この場合はこの 1つのカテゴリまたはファイルのみが対象となります。

   同じファイルまたはフォルダのすべてのコピーを選択した場合、警告メッセージが表示され、本当にすべて削除してよいかどうかを尋ねます。これはオリジナルバージョンを誤って削除してしまわないための安全対策です。

5. 1つまたは複数の重複ファイルかフォルダを選択すると、ダイアログの右下にある [**削除**] ボタンが有効になります。クリックして、選択した項目を Windows のごみ箱に移動させることを承認します。通常、削除プロセスは数秒で終わります。

6. カテゴリおよびファイル/フォルダのリストは適切に更新されます。モジュールを閉じるか、またはダイアログの左上にある矢印ボタンをクリックして、新たに重複したものがないかスキャンを開始します。

8.4.2. AVG Duplicate Finder

AVG PC TuneUp の中央設定ダイアログにより、ユーザーは**AVG Duplicate Finder** の動作を調整できます。

これらの設定にアクセスするには、**AVG PC TuneUpダッシュボード** のメニューバーの**設定** をクリックし、ナビゲーションバー左側にあるモジュール名をクリックします。同じダイアログに**AVG Duplicate Finder** モジュールからでもアクセスできます ?画面右上の**設定** リンクをクリックするだけです。

これより小さなファイルを無視 :テキストフィールドを使用して、**AVG Duplicate Finder** が無視するファイルサイズの最大値 (KB) を設定します。そのようなファイルは **AVG Duplicate Finder** 検索に含まれないため、モジュールはより大きく問題のある重複に的を絞ることができます。

非表示のファイルとフォルダを無視 チェックボックスを使用して、**AVG Duplicate Finder** 検索から、非表示のファイルとフォルダを例外として外すことができます。

これらのファイル拡張子を無視 :テキストフィールドを使用して、スキャンしないファイルの種類 (拡張子) を指定します。単純にテキストフィールドにそれらの拡張子を入力し、各項目をコンマで区切ります (例、xls, .doc)。

8.5. 大容量のファイルとフォルダーを検出して削除する

この章では、**AVG Disk Space Explorer** モジュールを使って、ハードディスクのメモリの使用状況をすばやく把握し、効率的に整理する方法を紹介します :

ここ数年で、ハードディスクやメモリカードの容量は大幅に増大しました。しかし同時にユーザーの要求度も高まったため、最新型の大容量ドライブでもいっぱいになってしまうことがあります。

デバイスが進化するにつれ、そのような膨大なデータ量の概要をとらえておくのは容易ではなくなってきました。これだけ多くのファイルがあり、フォルダ構造が複雑になっている中で、どうすれば大量のメモリ領域を（場合によっては無駄に）消費しているファイルを見つけることができるでしょうか。

AVG Disk Space Explorer は大容量ファイルを検出します。見つかったファイルは、CD、DVD、外付けハードディスクなどにコピーしてアーカイブできます。場合によっては、ファイルが不要であり、削除しても問題がないことに気付くかも知れません。この方法で、簡単に大量のメモリ領域が解放できます。

8.5.1. 分析を実行する方法

Free Up Space 画面へ進み、追加のモジュールリボン（画面右下）から**大容量ファイルとフォルダの検索**オプションをクリックして、**AVG Disk Space Explorer** モジュールを起動します。

または、ダッシュボードの **すべての機能** へ進み、**ハードディスクの大容量ファイルとフォルダの検索** エントリを選択して、モジュールを起動することもできます。

分析する場所を選択してください。

ドライブを分析

コンピュータに接続されているドライブのリストから、大容量ファイルの検索の際に対象となるドライブを選択します。各ドライブの合計サイズと空き容量も表示されます。特に空き容量の少ないドライブを選んで分析することをお勧めします。

フォルダを分析

個々のフォルダを分析するには非常に時間がかかります。個々のフォルダを分析するには、**フォルダを分析**を有効にします。**選択**ボタンをクリックすると、すべてのフォルダを含むツリー構造が開くので、その中からフォルダを選択し、**OK**をクリックします。

次へをクリックして、分析を開始します。

分析にかかる時間は、選択されたドライブあるいはフォルダの容量と使用量によってはしばらくかかります。分析が完了したら**終了**をクリックすると、メインウィンドウに結果が表示されます。

8.5.2. 分析結果

フォルダ構造

分析後、**AVG Disk Space Explorer** のメインウィンドウが開きます。サービスは2つの領域に分かれています。ウィンドウ左側にはドライブとフォルダのツリーが、Windows エクスプローラと同様の形式で表示されています。ツリー表示で保管場所を選択すると、そこにあるデータは、ウィンドウ右の領域に表示されます。既定では最近分析されたドライブがまず表示されます。

中断のボタンをクリックして分析を停止した場合は、メインウィンドウは開きますが、個々のドライブに関する情報は表示されません。ここからも分析を開始できますが、一度に分析できるドライブは1つに限られています。

情報の表示

ウィンドウ右側のデータの表示については、上部の各タブをクリックすればいろいろな表示を選択できます。

どの表示形式でも、リストの列名をクリックするだけで列を昇順または降順に並べ替えることができます。特に、サ

イズを基準に並び替えると、大容量のファイルが見つけやすくなります。

次のビューは、ディスク領域の使用量の表示に使用されます。

- **概要**

  既定で有効になっているビュー**概要**は、ディスクのクリーンアップを行うときの最初の手順として最適です。その他すべてのビューからの最も重要な情報がまとめられており、全体的な概要が把握できます。ウィンドウ上部にある、背景に色が付いた領域では、選択した要素についての情報をいつでもツリービューで見ることができます。ここでは個々のドライブについてサイズとメモリ領域の使用率が表示されます。一方、フォルダを選択した場合、この領域にはサブフォルダやファイルをすべて含めたフォルダのサイズが表示されます。また、フォルダの作成日や前回使用の情報も表示されます。

  コンピュータ（または、Windows XP の場合はマイコンピュータ）ビューは、**サイズの大きいファイルとフォルダの概要**ではなく、各ドライブの使用領域が表示されるため、1つ目の表に関する、ある種の例外を表します。

  - ***サイズの大きいフォルダとファイルの概要***

    ここでは、選択したドライブまたはフォルダのメモリの使用領域が円グラフとして表示されます。表示されたフォルダとファイル最高 10個までのそれぞれについて、ここでサイズとメモリ使用率を読み取ることができます。10個以上の表示要素を見たい場合は、リンク**内容を表示**をクリックすれば、**内容**の表示に切り替えられます。

  - ***ファイルの種類***

    この表は選択された要素に含まれるファイルを各ファイルの種類に従ってまとめたもので、どんな種類のファイルが（例えば文書、音楽ファイル、ビデオあるいは画像）最もメモリを使用するかが一覧で確認できる実用的な表です。

    この表示は選択したドライブまたはフォルダに直接位置しているファイルだけでなく、そこに含まれるサブフォルダの中のファイルも対象となることに注意してください。ツリービューで枝分かれの各レベルを選択することで、表示される情報をいつでも限定できます。

    特定のファイルの種類でまとめられた個々のファイルを見たい場合は、テーブルで該当するファイルの種類名をクリックしてください。すると、該当する表示のカテゴリ**ファイルの種類**に切り替わります。

  - ***上位 10個のファイル***

    このテーブルは、メモリ領域を最も多く使用している上位 10個のファイルをリストしているので、特に急にディスク領域が不足した場合に役に立ちます。以前のテーブルのように、この表示は選択したドライブまたはフォルダに直接位置しているファイルだけでなく、そこに含まれるサブフォルダの中のファイルも対象となっています。テーブルに表示されているファイル名、または **上位 100個のファイルを表示**のリンクをクリックすると、**上位 100個のファイル**の表示に切り替わります。そこではファイルの移動、アーカイブ化、削除もできます。

- **目次**

  この表示では、ツリービューで選択したコンテンツの要素のリンクに直接ジャンプできます。名前や種類といった Windows エクスプローラにあるような基本情報の他に、各要素に対しそのサイズや潜在的なメモリ使用率も表示されます。見やすい棒グラフで、どのファイルやフォルダが大部分の領域を使用しているかがすぐにわかるようになっています。

フォルダをダブルクリックすると、下のレベルに移動しコンテンツの詳細が表示されます。

- **ファイルの種類**

  概要とファイルの種類

  既定では便利なファイルの種類の概要が開き、最も多くメモリ領域を使用しているファイルが一目でわかります。

  ウィンドウの上端に、**画像**、**ドキュメント**、**圧縮されたファイル**、**音楽ファイル**、**ビデオファイル**と**その他**のボタンが表示されます。これらのボタンの1つをクリックするか、概要で該当するエントリをクリックすると、各ファイルの種類にあるすべてのファイルが表示されます。

  詳細 :対象となるファイル拡張子は？

  各ファイルの種類の後には、例えば画像の場合は bmp, .jpg, .gif, .tif und .png. のような多数のさまざまな **ファイル拡張子**が隠されています。対象となる拡張子の詳細リストは、**AVG Disk Space Explorer**により自動的にシステムに適合するように調整されます。ウィンドウの右上にある**詳細**のボタンをクリックすると、リストが表示されます。これは、チェックボックスを無効にするだけで合わせることができます。

  その他には、どのファイルの種類にも分類できない他のファイルがすべて表示されます。

  ここでは、**詳細**ボタンで表示できるファイル拡張子のリストは、下のリストにどのファイルを表示するか設定できるので、特に役立ちます。

  コンテキストメニュー（ファイル拡張子のリストを右クリックして開く）では、すばやくすべて選択したり現在の選択を反転したりできます。

  探求の好奇心を働かせ、利用できる表示をクリックして、ディスク空き領域が確保できる候補を識別してみてください。ファイルのサイズや最後にアクセスした日付順に並べ替えることで、興味深いファイルが見つかることもあります。それにはマウスで該当する欄のグレーのタイトルをクリックします。

  クリーンアップのヒント *特定のファイルの種類に限定して最近アクセスした日付ごとに分類すると、例えばもう視聴しないような古いMP3 ファイルやビデオを掘り出すことができます。*

- **上位 100個のファイル**

  多くのユーザーにとって、この表示が最も興味深いかもしれません。ここでは、ツリービューで選択された場所にあるファイルのうち、サイズが大きい順に 100個が表示されます。その際、すべてのサブフォルダの中身も対象になるので、システムのデータ量により数百メガバイトから数ギガバイトまでを、わずかなクリックだけで解放できます。

8.5.3. AVG Disk Space Explorer を設定する方法

AVG Disk Space Explorer は、システムの外観をパーソナライズするオプションを提供します。選択可能なオプションをカスタマイズするには、[**ファイル**]、[**設定**] の順にクリックします。

非表示のファイルとフォルダ

[**非表示のファイルとフォルダ**] セクションでは、非表示のファイルとフォルダを**AVG Disk Space Explorer** で表示するかどうか指定できます。デフォルトでは、Windows Explorer 設定が適用されます。Windows Explorer 設定とは異なる設定を行う場合は、[**ユーザー定義の設定を使用する**] をクリックし、必要に応じて選択肢を変更します。デフォルトでは、重要なシステム ファイルを誤って削除したり移動したりしないよう **AVG Disk Space Explorer** がシステム フォルダ内のすべての要素を保護します。ユーザーがシステムに関して完璧に精通している

場合は、[**保護されたシステム要素**] セクションで、この保護を無効にできます。[**保護を無期限に無効にする**] チェックボックスにチェックを付けます。

削除方法

[**削除方法**] セクションでは、ファイルやフォルダを削除する際に、**AVG Disk Space Explorer** がデフォルトで使用する方法を指定できます。標準の削除方法 [**ごみ箱へ移動**] は、誤って削除したファイルを復元できるため、特に初心者のユーザーにお勧めします。

ただし、Windows のごみ箱に入れることができるデータの量は限られていることにご留意ください。ごみ箱の保存容量を超過した場合、または Windows がより多くの空き領域を必要とする場合は、ごみ箱にあるファイルが古いものから順に完全に削除されます。

削除方法として [**完全に削除**] を選択すると、ファイルは Windows のごみ箱には入らずに直接削除されます。削除されたファイルを後で復元できるのは、**AVG Undelete** などの特殊なソフトウェアを用いて、運よくうまくいった場合に限られます。

他の 3つの削除方法では、削除されたファイルの復元が実質的に不可能になるように **AVG Shredder** を使用します。

これらの削除方法とその設定についての詳細は「データを確実に削除」および「削除方法」を参照してください。

AVG Shredder の削除方法では [**削除の繰り返し**] ボックスが利用できます。ボックス内の数（デフォルトでは **1**）は、完全に削除するためにデータを上書きする回数を **AVG Shredder** モジュールに指示します。一般的に、回数を増やせば、データが永久に削除される可能性がそれだけ高くなり、復元される可能性がなくなります。ただし、繰り返し回数が多くなると、データ全体の削除処理にかかる時間も大幅に長くなります。

8.5.4. ファイルをアーカイブする方法

AVG Disk Space Explorer でファイルをアーカイブする

コンピュータの中を探すうちに、不要だがまだ削除したくないファイルが見つかった場合、**AVG Disk Space Explorer**はそのジレンマを解決する便利な機能を備えています。

Windows Explorer とのスムーズな連携により、例えば、見つけたファイルを削除の前にUSB スティックや外付けハードディスクに問題なくコピーすることなどができます。

1. 選択したファイルをクリックし、メニューの編集 **でコピー**を選択するか、ショートカットキー [Ctrl + C]を押します。

2. Windows Explorer でコピー先のドライブを開き、コピーしたファイルをメニューの**貼り付け**をクリック、またはキーボードで [Ctrl + V] を押して、そこに貼りつけます。

主要な CD/DVD 作成プログラムがすべてサポートされているため、ファイルを CD または DVD に簡単にコピーすることができます。希望のファイルをマウスキーを押しながら（ドラッグ & ドロップで）焼付けプログラムのリストに引き入れます。

アーカイブされたファイルをAVG Disk Space Explorerで削除する

ファイルを無事アーカイブ保存したら、**AVG Disk Space Explorer**で削除して、貴重なディスク領域を確保することができます。それには、ファイルを選択し、ツールバーの **削除** をクリックします。

8.6. データを確実に削除する

この章では、**どのようにAVG Shredder**モジュールを使用して、ファイルやフォルダ、ごみ箱を完全に削除するのか、**またそれがどうして重要であるのかを説明します。**

データを後から確実に削除する

機密のファイルを「通常」の方法で削除してある場合は、**AVG Shredder**を使用して削除しなおすことはできません。ただし、ここでヒントを紹介しましょう:

ハードディスクのデフラグを行うと、通常は、削除済みのファイルが上書きされてもはや復元不可能になります。後から通常の削除方式の確実性を高めるため、まずAVG Drive Defrag をお使いください。(ハードディスクをデフラグする方法を参照。)

削除したファイルは、通常、ごみ箱に移動します。Windows のごみ箱は、削除の対象であるファイルを集めたフォルダに過ぎません。ごみ箱からファイルを取り出すのは簡単で、頻繁にごみ箱を空っぽにしたり、ごみ箱に送ることなく直接ファイルの削除を行い、ファイルが安全に削除されたと思い込んでいます。

ファイルの削除を行う際、Windows は全体を削除するわけではなく、実際はハードディスクにコンテンツが残っています。Windows はファイルシステムからそのファイルを単に「削除済み」としてマークし、ファイルが取っていたスペースを再び使用できるようになるだけです。このディスク領域が新たに使用されない限り、(例えば、**AVG PC TuneUp** -> 削除されたファイルを復元するを使って)、そこにあったファイルを復元することは難しくありません。

大切なファイルを、プロでさえ復元不可能になるように確実に削除したい場合は、**AVG Shredder**を使って、ファイル、フォルダ、ごみ箱を完全に削除することができます。削除方法の中から適切なものを選択できます。

8.6.1. データを確実に削除する方法

空き領域を増やす画面へ進み、追加のモジュールリボン(画面右下)の **Securely delete files to prevent snooping** オプションをクリックして、**AVG Shredder** を起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**ハードディスクのファイルを安全に削除する**を選択します。

何を削除しますか?

ファイル

1. **ファイル**を選択します。

   このオプションでは、コンピュータにあるファイルを検索し、削除対象を選択することができます。

2. **追加** をクリックして、削除するファイルをリストに入れてください。

   Explorer が開きます。削除するファイルをダブルクリックすると、リストに追加されます。または、開いた Expolorer またはデスクトップからファイルをドラッグし、リストにドロップ(ドラッグ & ドロップ)することもできます。それには、ファイルを選択し、マウスボタンを押したままリストまで移動させます。

   割り当てられた空き領域を削除するのオプションは、ファイルの削除によって解放されたディスク領域を上書きし、削除の確実性を高めます。

   ファイルを誤ってリストに追加してしまった場合は、そのファイルを選択し、**削除**ボタンを押せば削除

できます。

3. 入力内容を確認し、**次へ**をクリックします。

次に、希望の削除方法を選択します（削除方式を参照）。

フォルダ

1. **フォルダ**の選択

このオプションでは、コンピュータにあるフォルダを検索し、削除対象を選択することができます。フォルダを削除すると、その中に含まれているファイルもすべて削除されます。削除するフォルダを選択する際、サブフォルダがあるかどうかが確認され、サブフォルダを検索対象から除外することができます。

2. **選択**をクリックします

フォルダのツリービューが開きます。削除するフォルダを選択し、**OK**をクリックします。また、削除するフォルダの完全パスをテキストボックスに入力する方法もあります。

割り当てられた空き領域を削除するのオプションでは、選択したフォルダのファイルのために保留されていたディスク領域が上書きされるため、削除の確実性が高まります。

選択したフォルダにサブフォルダがある場合は、サブフォルダを検索対象から除外することができます。**サブフォルダを含む**チェックボックスのチェックを外します。

3. 入力内容を確認し、**次へ**をクリックします。

次に、希望の削除方法を選択します（削除方式を参照）。

ごみ箱

1. **ごみ箱**を選択します。

このオプションでは、ごみ箱が表示され、空にすることができます。ごみ箱に入っているファイルの総数や、ごみ箱が使用しているディスク領域のサイズの情報が表示されます。また、削除する前に中身を表示することができます。

2. **内容を表示**をクリックします。

ごみ箱のサイズと中に含まれているファイルの総数が表示されます。ごみ箱の中に大切なファイルが含まれていないか確認するため、削除の前に中身を表示させることができます。

割り当てられた空き領域を削除するのオプションをオンにすると、ごみ箱の中のファイルのために保留されていたディスク領域が上書きされるため、削除の確実性が高まります。

3. 入力内容を確認し、**次へ**をクリックします。

次に、希望の削除方法を選択します（削除方式を参照）。

8.6.2. 削除方法

AVG Shredderには、次の 3つの削除方法が用意されています。3つの方法の違いは、削除にかかる時間と削除の確実性にあります。各削除方式の削除プロセスを繰り返すことで、さらに確実性を高めることができます。ただし、削除にかかる時間は長くなります。

すばやい削除

データが単一の文字で上書きされます。ファイルに保存されていた元のテキストは失われ、無限の縦の列に並べられた特定の文字に取って代わります。

DoD 5220.22-M 方式による確実な削除

米国防総省準拠方式　政府ガイドライン DoD 5220.22-M）が使用されます。ファイルは削除前に特定のデータパターンによって何度も上書きされ、これで元の内容は確実に破棄されるので、特別実験室で高価なドライブの磁気構造スキャンを行っても上書きされたデータは修復できなくなります。

Gutmann　グートマン）方式による確実な削除

考案者のペーター・グートマンにちなんで名付けられたこの削除方法では、削除するデータがランダムな値によって特殊なパターンに基づいて 35回上書きされた後、削除されます。この方法は最も確実だとされていますが、同時にソフトウェアによるデータ削除方法の中でも最も時間のかかる方法でもあります。

8.7. 未使用プログラムをアンインストールする

この章では、**AVG アインストールマネージャ**を使って、どのようにコンピュータにインストールされたプログラムを表示できるのか、また**なぜ**アンインストールすることが有用なのか、**どのように**それを行うのかを説明します。

コンピュータで作業を行っていると、時間とともにプログラムがどんどんたまっていきますが、その中には既に不要となっているものも少なくありません。Windows システムをすばやくスムーズに動作させるためには、使用されていないプログラムや不要なプログラムを定期的に削除することが大切です。

プログラムはすべて、コンピュータへのインストール時に Windows システムの奥深くに組み込まれ、完全にアンインストールするまでそこに残ります。プログラムが不要になった場合、それを開くために使っていたデスクトップ上のアイコンやプログラム ファイルを削除するだけでは十分ではありません。

大部分のプログラムは、ハードディスク上の複数の場所にファイルを分配して保存し、Windows レジストリにもエントリを残します。

AVG Uninstall Manager を使用すれば、使用頻度の低いプログラムや、特に大量のメモリを必要とするプログラムをすばやく検出できます。インストールされているプログラムを各種の基準で並べて**表示**できるので、プログラムのインストール日時、使用頻度などの追加情報を参考にしてそのプログラムがまだ必要か、それともすぐに**アンインストール**するかをすばやく決断できます。

8.7.1. プログラムをアンインストールする方法

プログラムをアンインストールする方法

空き領域を増やす画面に進み、追加のモジュールリボン（画面右下）から**使用していないプログラムをアインストールする**をクリックし、**AVG アンインストールマネージャ**を起動します。このモジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードで**すべての機能**の**インストール済みのプログラム**にある**使用していないプログラムをアン**

インストールするを選択します。

場合によっては、プログラム起動の前にプログラムの評価機能のスタートアップ ダイアログが現れることがあります。ここでこの機能を有効化するかどうかを決定しOKをクリックします。

AVG アンインストールマネージャ はアンインストールしたプログラムを一覧表示します。メニューで**整理する**をクリックすると、一覧が列ごとに並び替り、**表示**でフィルターを選択すると、選んだプログラムだけが表示されます。これにより、たとえば使用されていないプログラムや、ディスク領域を最も多く使用しているプログラムなどが一目でわかります。

リストの項目を選択すると、**詳細**の領域の右にプログラムの追加情報が表示されます。そこに表示されるのは、製造元、インストール日時、最後の利用日時、ハードディスク上のプログラム ファイルのサイズ、システム負荷、そしてプログラムの評価です。

AVG アンインストールマネージャが提示するこれらの統計データを参考にしても、そのプログラムのは背後に何があるのかわからず、アンインストールすべきかどうか判断できない場合は、ツール バーにあるオンライン検索をクリックします。リスト内で選択したプログラムをインターネットで検索した結果が表示されます。そこでプログラムについての詳細を参照することができます。これらの情報も、プログラムをアンインストールするべきかどうかを決めるのに役立ちます。

有用性の欄には、他にも判断補助材料があります。本人もしくは他の **AVG PC TuneUp** ユーザーがこのプログラムをどう有用だと考えているか、ここで情報を得ることができます。ご自分でまだ評価していなかったら、そのプログラムをここで評価できます。**AVG PC TuneUp** サーバーデータベースから他のユーザーの評価を呼び出して表示します。これらの評価は定期的に自動的に更新されます。

プログラムをアンインストールする場合は、**アンインストール**をクリックします。

プログラムをコンピュータからきれいに削除するには、該当する項目を選択して、ツールバーの**アンインストール**をクリックします。また、エントリをダブルクリックして削除することも可能です。

開かれるアンインストール ウィザードは、プログラムごとに異なります。共通しているのは、ハード ディスクからファイルを削除するだけでなく、それに付随するデスクトップ アイコン、[スタート] メニューの項目、そしてレジストリのエントリをすべて削除するということです。アンインストール ウィザードの指示に従って、プロセスを完了してください。

プログラムをアンインストールしたくなかったり、将来のためにこのリストには表示しないよう確保しておきたい場合は、コンテキスト メニューでオプションの**エントリを削除**を選択してください。これでこのプログラムは**AVG アンインストールマネージャ**でアンインストールすることができなくなりました。これでプログラムをアンインストール**するわけではないので**ご注意ください。

9. 問題の修正

コンピュータで作業をしていると、ときには思ったとおりに行かないこともあります。**問題の修正**は、AVG PC TuneUp に生じた問題を検出し修正する様々な機能を備えています。さらにこのプログラムは、誤って削除したファイルを復元するのにも役立ちます。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Center によって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。

この画面は複数の領域に分割されています：

PC ヘルス

この領域のステータスは、コンピュータが良好な状態にあるかどうか、システムの状態に悪影響があるような重大な問題が検出されたかどうかを示します。たとえば、Windows の重要な設定が正しく設定されているか、システムドライブに十分な空き領域があるか、重要なセキュリティプログラムがインストールされているかが検査されます。

問題が見つかった場合は、**表示**をクリックします。各問題の説明が表示され、問題をすぐに解決するか、非表示にしておくかを決定できます。すべての問題が解決されるか、非表示にされた時点で、その領域のステータスが再び緑色になります。

詳細は、PC ヘルスをご覧ください。

典型的な問題を修正する

コンピュータに快適性が損なわれ、生産性を低下させる問題がある場合、ここから問題を解決してください。**すべて表示**ボタンをクリックすると、問題ごとに考えられる解決策が表示されます。また、よく修正される問題の場

合、ボタンのすぐ上に、最もよく使うトラブルシューティング機能があり、クリックすることで簡単に開くことができます。

詳細は、典型的な問題の修正をご覧ください。

ハードディスクエラーを検査

AVG Disk Doctor モジュールは、システムのドライブを分析し、ファイルシステムに欠陥やエラーがないか検査します。問題が見つかった場合、**AVG Disk Doctor** がその問題を瞬時に修正します。

詳細は、ハードディスクエラーを検査をご覧ください。

削除されたファイルの復元

AVG Undelete モジュールで、既に削除したファイルをごみ箱から復元することができます。さまざまな基準で削除されたファイルを検索することができます。ここで特に興味深いのは、外部記憶媒体（USB スティックなど）にファイルを復元できることです。

詳細は削除されたファイルの復元をご覧ください。

9.1. PC ヘルス

この章では、**どのように**この機能を使ってシステムの状態を悪化させている問題を修正するか、そして**なぜそれが有用なのか**を説明します。

システムの健康に影響を与える問題があるかを検出するには、Fix Problems 画面に進み、**PC Health** タイトルの **Show** ボタンをクリックします。

たとえば、Windows の重要な設定が正しく設定されているか、システムドライブに十分な空き領域があるか、重要なセキュリティプログラムがインストールされているか、新しい Windows の更新プログラムあるかどうかが点検されます。問題を非表示にした場合は、問題があってもステータスは変わりません。

概要

詳細ウィンドウに見つかった問題が表示されます。リストから問題を選択すると、詳細パネルに問題の簡単な説明と、解決法の提案が表示されます。

問題の修正

検出された各問題に対し、それをすぐ解決するか、あるいは非表示にしたいかを決めることができます。最も簡単に問題を修正するには、提案された解決法のリンクをクリックします。

問題を非表示にする

すぐに問題を修正したくない場合は、**問題を非表示**をクリックします。その後ずっと非表示にするか、30日間だけ非表示にするかを指定します。

9.2. 典型的な問題を修正する

この章では、**なぜ典型的な問題の修正が有用なのか**、また**どのように**AVG Repair Wizard モジュールを使用して、簡単に典型的な問題を修正できるのかを説明します。どのような問題が生じたかを選択するだけで、**AVG Repair Wizard**が修正を実施します。

コンピュータで日常的に作業を行っていると、さまざまな問題が発生します。何もしていないのに予告なしで誤ったアイコンが Windows によって表示されたり、デスクトップに表示されているショートカットが消えたり、タスクバーが表示されなくなったりします。

お使いのコンピュータに同様の問題が生じ、自分で解決できない場合は、この機能が役立ちます。コンピュータの典型的な問題のリストから、お使いのPCに生じた問題を選び、**AVG Repair Wizard**は即座に修正します。

9.2.1. 典型的な問題を修正する方法

問題の修正画面に行き、**典型的な問題の修正**の**すべて表示**ボタンをクリックして、**AVG Repair Wizard** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**Windows** の**典型的な問題を修正する**を選択します。

修復したい問題を選択します。**AVG Repair Wizard** により、Windows に生じる典型的な問題をわかりやすくまとめた一覧が表示されます。一覧にある項目を選択すると、ウィンドウの右側に詳しい説明が表示されます。お使いのコンピュータで生じている問題のチェックボックスをオンにしてください。

次へをクリックすると修正が開始されます。選択した問題の一覧が表示されるので、確認してから**次へ**をクリックします。修復が開始されます。

終了 をクリックして、モジュールを閉じます。

9.3. ハードディスク エラーを検査

AVG Disk Doctor モジュールを使用してドライブを分析する**方法**と**なぜそれが重要であるかを説明します。**

コンピュータでの作業の際には、テキスト書類を編集するのでも、画像を見るのでも、ただアプリケーションを起動するにしても、常にファイルの読み取りと書き込みが行われます。そのためWindows は必要な情報にいつでもすぐアクセスできるように、特別なファイル システムの中にすべてのファイルを保存しています。

システム ファイルについての詳細

ファイル システムは、各ファイルとフォルダをドライブに記録して、名前・容量・最後に使用した日付・ファイルの保存場所などのリストを保存します。

ハードディスク、USB メモリスティック、メモリカード（例えばデジタルカメラの）、ディスケットのために Windows で使用されているファイル システムは FAT やNTFS と呼ばれています。 2つのファイル システムで新しい方の NTFS は FAT に比べ、アクセス許可のような追加の情報の保存が可能なので、大容量の最新のドライブにより適しています。

年月が経つにつれ、古くなったディスクの欠陥、停電、あるいはソフトウェアのクラッシュなど、知らないうちに複雑なシステム エラーが生じてきます。そのようなエラーを早めに見つけて修復しなければ、エラー メッセージやプログラムの問題が生じ、最悪の場合は大事なデータを完全に失ってしまいます。

AVG Disk Doctorは、ドライブとそこに含まれるファイルシステムの徹底的なスキャンを実行します。スキャン中にエラーが発見された場合には、自動的に修復されます。それにより、データの損失を防ぐことができます。

9.3.1. ハードディスクを検査する方法

問題の修正画面に進み、**各種**セクションの**ディスクのエラーをチェックする**ボタンをクリックして、**AVG Disk Doctor** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードで**すべての機能**に移動し、**ハードディスク**にある**エラーをチェック**を選択します。

AVG Disk Doctor によってどのドライブを検査するかを選択し、**次へ**をクリックします。

通常の分析または**詳細な分析**を選択します。

大容量ドライブの場合、**詳細な分析**には時間がかかるので、たいていの場合は選択したドライブの**通常の分析**を実行すれば十分です。これなら通常 1、2分で終了します。

それでもシステムにエラーが生じたり、Windows による読み取り・書き込み処理に問題がある場合は、**詳細な分析**実行してください。

次へをクリックして、分析を開始します。

分析実行中、**AVG Disk Doctor** が進行状況をグラフィック表示します。表示されたボックスは、各ドライブの使用領域を表しています。

エラーが検出されない場合、**終了**してモジュールを閉じます。

たいていの場合、分析を正しく行うため、あるいはコンピュータを修復するために再起動が必要となります。これは例えば、実行中のプログラムまたは Windows 自体が選択したディスクにアクセスしているため、**AVG Disk Doctor** の独占的なアクセスが妨げられている場合などに、起こることがあります。

再起動が必要になると、**AVG Disk Doctor** は対応するメッセージを表示します。その際、ただちに再起動するか、後で手動で再起動するかを決めることができます。

9.3.2. 標準 対 詳細な分析

標準分析

通常の分析 は約 1～ 2分で通常十分です。

通常の分析は複数のステップに分けて実行されます。以下の表にすべてのステップが示されています　通常の分析で行われるのは、最初の 3行のステップのみです）。

詳細な分析

詳細な分析ではまず**通常の分析**で行われるすべてのステップが含まれています。それに加えて、ドライブの物理的な問題が分析されます。

ドライブの空き領域は、通常　512バイトのいわゆる [セクター] に分かれています。ドライブの物理的な欠陥を調べるために、**詳細な分析**ではこの各セクターの機能のパフォーマンスを調査します。

この分析にかかる時間は、種々の要因、たとえばドライブの容量や断片化の度合いによって異なります。いずれにせよ、最低 5分から 20分かかります。

以下の表ですべてのステップを確認できます。

分析ステップ	説明
通常の分析と詳細な分析	
ファイルとフォルダを分析（NTFS とFAT）	ファイル システムの各要素を分析します。その際、すべてのファイルとフォルダの構造が正しいかどうかが検証されます。
インデックスの確認（NTFS のみ）	NTFS ファイル システムのフォルダのインデックスを確認します。インデックスが損傷している場合は、そのフォルダはファイル システムに表示されなくなります。ファイルあるいはフォルダが突然見えなくなった場合は、ファイル システムを修正すると解決できることがあります。
セキュリティ デスクリプターの確認（NTFS のみ）	NTFS ファイル システムのファイルおよびフォルダは、セキュリティ記述子によって保護されており、登録されていないユーザーからのアクセスを防ぎます。分析によりこの記述子にエラーが確認された場合には、修正されます。
詳細な分析のみ	
ファイル データを確認（NTFS のみ）	現在データが格納されているディスクのすべてのセクターが分析されます。これにより、ファイルを扱う際に読み取りエラーが起こらないようにします。データ読み取り時に複数回の読み取りが必要となったことが検出されると、そのセクターに含まれるファイルデータは、エラーが無いセクターに移動されます。そして一度で読み取りができなかったセクターを損傷ありとします。将来的な問題を軽減させることが可能となります。
ディスク領域の確認（NTFS とFAT）	ドライブ内の、ファイルの存在しないすべてのセクターを確認し、エラーなしで読み取りができるかどうかを調査します。この調査でエラーが確認された場合には、そのセクターは損傷ありとされ、それによりその後ファイルが使用されることを防ぎます。

9.4. 削除されたファイルの復元

この章では、**どのように AVG Undelete** モジュールを使用して、誤って削除したファイルを復元できるかを説明します。

誤って削除してしまった大切なファイルを復元したい。ごみ箱の中を調べても見つからない。

そんな場合は**AVG Undelete**の機能が役に立ちます。削除されたファイルが占めていたディスク領域を Windows が上書きしていない間は、復元が可能です。

ファイル復元の重要なヒント

おおまかな規則として、ファイルの削除から時間がたてばたつほど、その後コンピュータで行った作業が多ければ多

いほど、ファイルを完全に復元できる可能性は低くなります。それゆえ間違いに気付いたら、直ちに**AVG Undelete**で復元を試してください。

どんなことがあっても、削除済みファイルの復元のためにソフトウェアをシステムにインストールしないでください ソフトウェアをインストールする際に、重要なデータが上書きされ、永久に失われる可能性があるからです。

たとえアプリケーションを別のドライブにインストールしたとしても、一時インストール ファイルによって削除済みデータに危険が及びます。このため**AVG Undelete**のようなデータ復元ソフトウェアは、事前にインストールされ、いつでも使用できる状態でなければなりません。そうすれば、仮に問題が生じても準備万端の状態でいることができるのです。

9.4.1. 削除されたファイルを探し出す方法

問題の修正画面に進み、**各種**セクションの**削除したファイルを復元する**をクリックして、**AVG Undelete** モジュールを起動します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、ダッシュボードの**すべての機能**から、**ハードディスク**の**削除されたファイルを復元**を選択します。

削除されたファイルを検索したいドライブを選択します。

外部記憶媒体（USB スティックなど）のファイルを復元したいときは、それも選択肢に含まれます。

ファイルのあった場所が思い出せない場合は、すべてのドライブを選択します。

検索対象を絞ります。検索は、検索語を入力して対象を絞ることができます。これは、ファイル名やその一部を覚えているときに効果的です。

検索のヒント：検索のヒント :プレースホルダの "*"や "?"を使用しましょう。

検索単語を入力する際、いわゆる**プレースフォルダ**を使用することができます。使い方は一般の検索エンジンと同じです。

ファイルの明確な名前が思い出せないときや、特定の**ファイル拡張子**だけを探したいとき、検索にプレースホルダを使用すると便利です。

* および ?は、ワイルドカードとして使用でき、*は複数の文字を表し、?は個別の文字に代替します。

プレースホルダの使用例：

- **photo*** で検索すると、**photo** で始まる名前のすべてのファイルの種類が見つかります :photo_01.jpg、photo.bmp、photo_paris.tif など。
- **photo.***あるいは**photo**（プレースホルダなし）での検索では **photo** が名前につくすべてのファイルの種類が見つかります :photo.jpg、photo.doc、photo.tif など。
- ***.doc** で検索すると、拡張子が doc のファイルがすべて見つかります。
- **photo_??** で検索すると、photo_ で始まって名前にさらに2文字つく全てのファイルの種類が見つかります : pjoto_01、photo_09 など。

なぜ 0バイトのファイルを検索する必要があるのですか？

0 バイトのファイルは、ファイル名だけから成ります。そのようなファイルの内容を復元することはできません。たとえば、極秘のファイル名を持ったファイルを削除した後、そのファイルが絶対に人の目に触れないことを確実にしたい場合は、0バイトのファイルを検索対象に含めます。

状態の良いファイルだけを検索するのはなぜですか？

状態の良いファイルは、完全に復元できる可能性が高いからです。

次へをクリックすると検索が開始されます。

AVG Undeleteは選択された各ドライブを検索します。ハードディスクの容量が大きく、検索語を入力しなかった場合は、検索処理に多少時間がかかります。

検索結果は、ファイル名、元の保存場所（フォルダ）、サイズ、ファイルの種類、最後に変更を加えた日時、**ファイルの状態の査定**が表示されます。

9.4.2. ファイルの復元

削除されたファイルの状態

削除された各ファイルについて、**AVG Undelete**がどのような状態にあるのかを査定します。その時点でユーザーがもっとも知りたいこと、つまりファイルが完全に復元可能かどうかが、正確に予測されます。

良好な状態

ファイルの状態が良好と査定されるのは、そのファイルが占めていたハードディスクの領域がまだ別のファイルに使用されていないときです。この場合、高い確率でファイルを完全に復元することができます。

悪い状態

ファイルの状態が悪いと査定されるのは、そのファイルが占めていたハードディスクの領域が、一部すでに別のファイルによって上書きされている場合です。それでも、少なくともファイルの一部を復元できる可能性があります。ただし、復元の結果がどうなるかは、この時点では正確に予測できません。

ファイルの復元

1. 復元したいファイルを選択します。

   複数のファイルを選択する場合は、Ctrl キーを押しながら操作します。

2. **復元**をクリックして、ファイルの復元を開始します。

3. ファイルを元の場所に復元するか、別の場所に復元するかを指定します。

   別の場所を選択した場合は、フォルダ構造が開き、フォルダを選択するか、新しいフォルダを作成できます。入力内容を確認し、**OK**をクリックします。

AVG Undeleteにより、選択したファイルが指定の場所に復元されます。

ダイアログはいつでも**キャンセル**のボタンをクリックすれば閉じることができます。

復元が正常に実行されましたか？

復元処理が完了したら、そのファイルを通常の操作で開いてみます。うまく開いた場合は、ファイルの復元が成功したことになります。開かない場合は、そのファイルがすでに他のファイルによって上書きされていると思われます。

すべてを試みた後、他のプログラムを使って削除済みファイルを復元したい場合、対象のファイルが保存されているのと同じハードディスクにインストールしないことを強くお勧めします。

10. すべての機能

ダッシュボードの右端にある**すべての機能**のメニューをご覧ください。このメニューを開くと**AVG PC TuneUp**に備わっている全機能の一覧が、アプリケーション領域により分類されて表示されます。項目の後にあるスパナをクリックすると各項目の設定が開き、個人のニーズに合わせて設定することができます。

大抵のこれらの機能はこのビューにも、5つのカテゴリにもあります。

ですが以下の機能はこのメニューにしかありません：

インストール済みのプログラム

バックグラウンドプログラムを無効にする

現在使用しておらず、アンインストールしたくないプログラムを無効にできます。

プログラムを無効にする方法もご覧ください。

スタートアッププログラムを無効にする

システム起動時にバックグラウンドで自動的に起動するプログラムを無効にし、システム起動をスピードアップできます。

システムの起動を設定する方法もご覧ください。

未使用プログラムをアンインストールする

PCにインストールされているすべてのプログラムと詳細情報を表示し、アンインストールするプログラムを選ぶことができます。

プログラムをアンインストールする方法もご覧ください。

ハードディスク

デフラグ

ハードディスク内のデータブロックを新たに整理し、ディスクの空き領域を増やしてドキュメントやプログラムの読み込みをスピードアップします。

ハードディスクをデフラグする方法もご覧ください。

エラーをチェック

ハードディスク表面とそこに含まれるファイルシステムの構造を点検、エラーをチェックし、修正してデータの損失を防ぎます。

ハードディスクを検査する方法もご覧ください。

データを確実に削除

プロでさえ復元不可能なようにファイルやフォルダを末梢することができます。

データを確実に削除する方法もご覧ください。

削除されたファイルを復元

ハードディスクやポータブルドライブから消去したファイルを探し出して復元します。

削除されたファイルを探し出す方法もご覧ください。

重複したファイルを削除

ハードディスク上の重複ファイルを見つけ出し、削除できます。

重複ファイルの検索方法もご覧ください。

大容量のファイルとフォルダを検索

保存メディアにある大容量データを検出して削除し、ディスク領域を増やすことができます。

分析を実行する方法もご覧ください。

使用データ

システムのキャッシュとログをクリーンアップ

システムに障害なくハードディスクから削除できる、不要なファイル、プロトコル、履歴リスト、パックアップファイル、一時ファイルに的を絞って探し出します。

Windows とプログラムを整理する方法もご覧ください。

ブラウザデータをクリーンアップ

キャッシュ、クッキー、ブラウザのインターネット履歴をクリーンアップし、ネット閲覧の形跡を確実に削除します。

ブラウザをクリーンアップする方法もご覧ください。

破損したショートカットを削除する

システムをくまなく探し、無効になったショートカットや参照を削除します。これにより、そのような参照先を呼び出した際のエラーメッセージを回避できます。

無効なショートカットを削除する方法もご覧ください。

レジストリ

レジストリをデフラグ

Windows システムの中央データベース（レジストリ）を書き直し、隙間や構造エラーを除去してシステムを安定にします。

レジストリをデフラグする方法もご覧ください。

レジストリをクリーンアップ

Windows システムの中央データベース（レジストリ）で壊れたエントリを探し、修復または削除してシステムを安定にします。

レジストリをクリーンアップする方法もご覧ください。

レジストリを編集

AVG Registry Editorでレジストリキーやレジストリ値をすばやく楽に検索し、的を絞って変更することができます。ただし、この機能は経験を積んだユーザーのみが使用してください。

レジストリを編集する方法もご覧ください。

コンピュータ

エコノミー モードをオンにする

省エネの可能性を最も有用に活用してコンピュータの電力消費を低減させます。

エコノミー モードもご覧ください。

スタンダード モード

すべてのチューニング サービスと機能を制限なく利用できるようにします。

スタンダード モードもご覧ください。

ターボ モードをオンにする

不要なバックグラウンドのプログラムやメンテナンスを一時的にオフにして、コンピュータのパフォーマンスをさらに向上させることができます。

ターボ モードもご覧ください。

メンテナンスの開始

システム上で最適化の可能性をチェックし、引き続いてすぐ最適化を実行できます。

ワンクリック メンテナンスもご覧ください。

自動メンテナンスを設定する

メンテナンスの措置が、定期的間隔で自動的に実行されるように設定できます。

メンテナンス設定を変更もご覧ください。

システム情報を表示する

ハードウェアとソフトウェア及びコンピュータのパフォーマンスについて重要な情報を表示します。

システム情報を表示する方法もご覧ください。

推奨事項

速度アップ推奨情報を表示する

ハードウェアとソフトウェア、インターネット設定、視覚効果の領域での変更により、システム パフォーマンスを向上できる推奨事項を表示します。

コンピュータのパフォーマンスを向上もご覧ください。

PCヘルス問題を修正する

システムの状態に悪影響を及ぼす問題を表示し、問題修正の方法を提案します。

問題の修正もご覧ください。

システムの起動とシャットダウンを最適化

コンピュータを点検し、例えば不要なスタートアップ プログラムを無効にするなど、システム起動やシャットダウンをスピードアップするための推奨事項があるかどうかをチェックします。

システムを最適化もご覧ください。

Windows

典型的な問題を修正する

Windows のよくある問題の一覧を表示し、生じた問題を簡単に修正することができます。

典型的な問題を修正する方法もご覧ください。

Windowsの設定を変更する

視覚効果、ブラウザオプション、デスクトップ、ユーザーログオン、その他数多くを個々に設定できます。

オプションと動作を個々にカスタマイズもご覧ください。

Windowsのデザインを変更する

Windowsのインターフェイスを個人の好みにしたがってカスタマイズできます。

Windowsの外観をカスタマイズするもご覧ください。

CPUを使用しているプログラムを表示

実行中のプロセスや開いているファイルを見たり、問題が起こった場合にはそれらを中止したり終了することが可能になります。

実行中のプロセスを管理する方法もご覧ください。

モバイルデバイス

iPhone、iPad、iPod touchのクリーンアップ

iOSデバイスをPCに接続し、不要なファイルを一瞬のうちにクリーンアップできます。

「iOSをクリーンアップする方法」もご覧ください。

AVG PC TuneUp

レスキューセンターを開く

AVG PC TuneUpで行った変更を復元する、またはWindows復元ポイントまで復元することができます。

変更を元に戻すもご覧ください。

更新の確認

お使いのAVG PC TuneUpに新しい更新があるかどうかをチェックし、あればインストールします。

更新を確認する方法もご覧ください。

最適化レポートを表示する

最適化レポートはAVG PC TuneUpにより今までに何が最適化されたかを表示します。

AVG最適化レポートを表示する方法もご覧ください。

設定

AVG PC TuneUpを必要にあわせてカスタマイズし、メンテナンスを行い、ターボモード、AVG PC TuneUpの

更新確認を設定することができます。

ライブ最適化を設定

最適化措置を2つ有効にし、応答とシステム起動をスピードアップすることができます。

ライブ最適化を設定をご覧ください。

10.1. レジストリをクリーンアップする

以下の章では、**どのように AVG Registry Cleaner** モジュールがレジストリをクリーンアップできるか、**またそれがなぜ重要なのか**を説明します。

レジストリは、Windows システムの中核です。レジストリには、継続的にエントリ（値とキー）が保存されます。また、それぞれ新規にインストールされたプログラムや新規に接続されたハードウェアは適切にレジストリに報告し、レジストリにキーと値を残します。プログラムを起動する際、Windows がこのプログラムをよびだしますが、直接にではなく、プログラムのインストール時にすでにレジストリに作成されたキーから開きます。そのようなエントリは、このプログラムのアンインストールの際にもう必要なくなるので、本来はレジストリから削除されなければなりません。しかし Windows はこれらのエントリをきれいに削除しないことが多いので、時と共にそこに多量の無効なエントリが蓄積されます。

そのようなエントリは、プログラムのインストールの際だけではなく、他の多数のタスクの際にも作成されます。たとえば、スタートメニューに表示される最近使ったファイルの履歴リストなども、レジストリのエントリを利用しています。このような参照は、参照先のファイルを移動したり、削除したりした時点で無効になります。Windows は定期的にレジストリをクリーンアップしないので、**AVG Registry Cleaner**を使ってユーザーが自分で行うことをお勧めします。

定期的にレジストリをクリーンアップすると、システム全体とすべてのプログラムが安定します。それゆえ、これは **AVG PC TuneUp** が**自動メンテナンス**の一部として実行できる機能の一つです。

クリーンアップを実行するには、まずレジストリ内で問題を検出する必要があります。見つかった問題は、まとめて修正することも、1つずつ修正することもできます。

10.1.1. レジストリをクリーンアップする方法

レジストリをクリーンアップする方法

ダッシュボードの**すべての機能**に進み、**レジストリ**の**レジストリを修正**を選択して、**AVG Registry Cleaner** モジュールを起動します。

まずレジストリ内にある問題を検出する必要があります。 2つの分析方法から1つを選択してください：

1. 完全な検査

レジストリ全体でエラーが検出されるよう完全な分析を行うことをお勧めします。

2. ユーザー定義の検査

レジストリの分析は、数分かかることがあります。分析が行われている間、進行状況が表示されます。

問題が検出された場合は、2つの方法で修正できます。

ディスプレイの問題

ディスプレイの問題をクリックして詳しい説明を表示し、**クリーンアップの問題を排除します**（AVG Registry Cleaner メイン メニューのその他の機能を参照。）

問題を今すぐ解決する

見つかった問題すべてをすぐ修復するには、オプションの**問題をすぐ解決**を選択し、**続行**をクリックします。これにより、レジストリが完全に整理され、システムが安定します。

クリーンアップ終了後、**再び検索**ボタンが表示され、詳しい情報が見られます：

再び検索

場合によっては **再び検索** ボタンが表示され、ウィザードが検索のやり直しを提案することがあります。これはいつも、クリーンアップによってレジストリの新しいエントリが無効になった場合に起こります。これは、モジュールに問題があるわけではなく、特に **プログラムのコンポーネント**および **ファイルの種類** の各領域で起こりやすい連鎖反応によるものです。

例：

レジストリ内におけるエントリA からエントリB、つまり不明なファイル X を指します。1回目のスキャンで**AVG Registry Cleaner**はファイル X が見つからないと、エントリB は無効であることを判断します。そのため、クリーンアップの際に、エントリB を削除します。しかし、このクリーンアップによって、（削除済みの）エントリB を参照しているエントリA も無効になってしまいました。

1. 再び検索をクリックします。

上記の 2つのカテゴリのみで再び検索が行われます。

2. 終了 **をクリックしてウィザードを閉じます。**

クリーンアップは必要な回数だけ繰り返してください。メインウィンドウに問題がまったく表示されなくなれば、システムから古い重荷を取り除くことができたという、心地よい感覚とともにモジュールを終了できます。

問題が検出されない場合 **終了** をクリックします。**AVG Registry Cleaner** メインウィンドウが表示されます。

10.1.2. チェックの対象

チェックの対象

次の表は、完全点検の際、**AVG Registry Cleaner**がどの領域のレジストリを検査の対象としているのかを表したのもです。この中から、ユーザー定義の分析を選択できます。

領域	説明
検査可能な信号	エラーメッセージなどのシステムまたはプログラムイベントが発生すると、音が鳴ります。これは、レジストリ内の該当するエントリを呼び出すことで実行されますが、該当するサウンド ファイルが削除されると、エントリが無効になります。

スタートアップ プログラム	Windows と一緒に自動的に起動するプログラムは多数あります（ウィルス スキャンなど）。これは、レジストリのスタートアップ領域にあるエントリを通じて実行されます。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
ファイルの種類	レジストリのこの領域でのエントリは、さまざまな情報（たとえば、それを使って開くプログラムなど）を持つ1つあるいは複数の拡張子（txt や doc など）とリンクしています。そのようなエントリは、プログラムのアンインストールなどで無効になることがあります。
データベース ドライバ	多くのプログラムは、インストールの際にレジストリ内のデータベース ドライバおよびデータ ソースにエントリを残します。これらのエントリは、このプログラムのアンインストールあるいは移動、個々のデータソースの削除などによって無効になることがあります。インストールの際に無効なエントリが作成されることも珍しくありません。
共通ファイル	レジストリのこの領域には、複数のプログラムが使用するファイルおよびプログラム ライブラリ（DLL）への参照が含まれています。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
ヘルプ ファイル	プログラムの多くは、ヘルプ ファイルの保存場所についてのエントリをレジストリ内に残します。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
インストール済みのプログラム	プログラムは、レジストリのこの領域にエントリを残します。これらのエントリをもとに、[コントロール パネル] のすべてのプログラム一覧が作成されます。プログラムのアンインストール時にこれらのエントリが削除されず、一覧に不整合が生じることがあります。
プログラム設定	コンピュータにインストールされた各プログラムには、レジストリのエントリにプログラム特有の情報（データやプログラムのパスなど）が格納されています。これらのエントリは、プログラムのアンインストール時に削除されないことがあります。
プログラムの拡張子	レジストリのこの領域は、音声やビデオのコーディック、あるいは Internet Explorer アドオンのような、個々のプログラムの機能を拡張する拡張強化への参照が含まれています。これらのプログラムや拡張機能をアンインストールした場合に、対応するエントリが削除されないことがあります。
プログラム コンポーネント	Windows プログラムの多くは、レジストリのこの領域にあるエントリを通じて ActiveX コンポーネントや COM コンポーネントにアクセスします。これらのエントリは、プログラムのインストール時に作成されますが、プログラムをアンインストールしても削除されないことがあります。インストールの際に無効なエントリが作成されることも珍しくありません。
プログラム パス	一部のプログラムでは、[スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] で直接実行できるよう インストール フォルダがレジストリ内に保存されます。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
フォント	Windows では、コンピュータにインストールされているすべてのフォントに対し、レジストリのこの領域にエントリが作成されます。これらのエントリは、フォントをアンイン

	ストールしても削除されずに残ることがあり、Windows を起動するたびに存在しないフォントの読み込みが試行されます。
履歴リスト	Windows や多数のプログラムには、前回どのファイルを編集したかなどを記録する履歴リストがあります。これは、レジストリ内に参照の形で保存されます。これらのエントリは、該当するファイルを削除または移動した場合に無効になります。
Windows ファイアウォール	Windows ファイアウォールは、どのプログラムがネットワーク接続の受信を許可されているかを保存し、レジストリ内に各プログラムのエントリを作成します。これらのエントリは、そのようなプログラムのアンインストールによって破損したり無効になったりすることがあります。

この一覧から、削除済みファイルによってレジストリ内にたくさんの不要な〔抜け殻〕が残されることがわかります。**AVG Registry Cleaner**は、これらの不要となったエントリをすべて検出し、削除することができます。そのため、完全なスキャンを実行されることを推奨します。

10.1.3. AVGRegistry Cleaner メインメニューの追加機能

AVG Registry Cleaner メインメニューのその他の機能

クリーンアップ後の詳細の表示と問題の除去

左側の列で各領域をクリックすると、ウィンドウの上部に問題がどのようにして生じるのか詳しい**説明**が表示されます。

ある領域で問題が検出された場合は、さらに問題と詳細を表示した一覧が作成されます。一覧でエントリを選択すると、さらに詳しい問題分析が得られます。

また、一覧の中でチェックボックスをオフにすると、その問題がクリーンアップの対象外となります。

問題の説明が表示されていない場合は、ツールバーにある詳細をクリックする必要があります。

クリーンアップの実行

AVG Registry Cleanerのメインウィンドウからクリーンアップを開始するには、**クリーンアップを開始**をクリックします。クリーンアップの対象から除外した問題は、修正されません。

クリーンアップ終了後、**再び検索**ボタンが表示され、詳しい情報が見られます：

再び検索

場合によっては **再び検索** ボタンが表示され、ウィザードが検索のやり直しを提案することがあります。これはいつも、クリーンアップによってレジストリの新しいエントリが無効になった場合に起こります。これは、モジュールに問題があるわけではなく、特に **プログラムのコンポーネント**および **ファイルの種類**の各領域で起こりやすい連鎖反応によるものです。

例：

レジストリ内にあるエントリA からエントリB、つまり不明なファイル X を指します。1回目のスキャンで AVGRegistry Cleaner はファイルXが見つからないとエントリB が無効であるとを判断します。そのため、クリーンアップの際に、エントリB を削除します。しかし、このクリーンアップによって、 削除済みの）エントリB を

参照しているエントリAも無効になってしまいました。

1. **再び検索**をクリックします。

上記の 2つのカテゴリのみで再び検索が行われます。

2. 終了**をクリックして**ウィザードを閉じます。

クリーンアップは必要な回数だけ繰り返してください。メインウィンドウに問題がまったく表示されなくなれば、システムから古い重荷を取り除くことができたという心地よい感覚とともにモジュールを終了できます。

上級ユーザーのための機能

クリーンアップから除外すべき個々の領域がきちんとわかっている場合、あるいはレジストリ内のエントリを自分で確認し、編集もしたい場合は、以下の機能に注目です：

問題を無視

分析の時に見つからないように、個々の問題をリストから削除できます。

これには次の手順を実施します：

1. 該当する領域のリスト内で問題を選択します。

2. **編集**メニューで**問題を無視**をクリックします。

この機能は、リストの各項目のコンテキスト メニューにも表示されます。

無視した問題を再度含む

無視されていた問題を再び分析対象とすることができます。

これには次の手順を実施します：

1. メニュー ファイル で無視された問題をクリックします。

2. 表示されたリストからそれを選択し**削除する**をクリックします。

レジストリ内のエントリを表示

各領域の詳細な問題リストから、特定の問題に対応するレジストリ内のエントリを直接表示することができます。

これには次の手順を実施します：

1. リスト内で問題を選択します。

2. **編集**メニューで、**問題の詳細**、次に、**キーへジャンプ**を選択します。

この機能は、リストの各項目のコンテキスト メニューにも表示されます。

レジストリの編集

ツールバーで **Registry Editor** を直接クリックして**AVG PC TuneUp**モジュールを呼び出し、レジストリを編集します。

10.2. iPhone、iPad、iPod touch をクリーンアップする

この章では、iOS 用 **AVG Cleaner** モジュールを使用して、iPhone、iPad または iPod touch にある不要なファイルをスキャンし、その後でそのファイルをすばやく削除する方法について説明します。

iOS デバイス、すなわち iPhone、iPad または iPod は、現在非常に人気が高く、幅広く普及しています。人々は iOS デバイスをあらゆる目的で使用しています。音楽を聴いたり、ビデオを観たり、ニュースを読んだり、あるいは単にウェブを閲覧したりします。しかし、これらのことを行うにはさまざまな種類のアプリが多数必要となり、それによって不要でまったく役に立たない一時ファイルが多数作成されます。このような不要ファイルは、デバイスのメモリ領域を占有し、処理速度を大幅に低下させるため、大変なお荷物です。

iOS 用 **AVG Cleaner** は、シンプルでありながら極めて効果的で独特な解決策を提供します。必要な操作は、iOS デバイスを USB ケーブルで PC に接続し、スキャンを実行するだけです。このスキャンにより、使用可能なメモリ領域を増やすためにどのファイルをクリーンアップできるかが即座に分かります。このモジュールは、アプリケーションの一時ファイル、Cookie や画像のサムネイルなどのファイルを検出する能力を備えています。その後、メモリ領域を占有しているこれらのファイルをすばやく削除し、永遠に失われたと思っていたストレージ能力の一部を取り戻すことができます。

AVG PC TuneUp とApple iTunes がインストールされているコンピュータに iPhone、iPad または iPod touch を接続すると、通知バブルが毎回自動的に表示され、そのデバイスから不要なファイルを削除する方法があることをユーザーに通知します。このバブルをクリックすると、iOS 用 AVG Cleaner モジュールのウェルカム画面が開きます。もちろん、バブルを閉じて、後でモジュールを実行することもできます（その場合は AVG PC TuneUp のユーザーインターフェースから直接実行します）。

iOS 8.3 以降で動作しているデバイスは、Apple によりオペレーティング システムへのアクセスが制限されているため、iOS 用 AVG Cleaner モジュールは対応していません。

10.2.1. iOS デバイスをクリーンアップする方法

1. ダッシュボードの**すべての機能**へ進み、**モバイルデバイス**の **iPhone、iPad、またはiPod touchをクリーンアップ**エントリを選択し、**AVG Cleaner for iOS** モジュールを起動します。

2. **AVG iOS 用 Cleaner** モジュールが適切に機能するためには、PC に iTunes をインストールする必要があります。iTunes は Apple Inc. により開発されたメディア プレーヤー、メディア ライブラリ、およびモバイル デバイス管理アプリケーションです。パーソナル コンピュータでデジタル オーディオとビデオの再生、ダウンロード、および整理を行うために使用できます。

   iTunes がすでにインストールされているコンピュータでは、この手順を省くことができます。しかし、まだこのソフトウェアがない場合は、[**iTunes をダウンロード**] ボタンをクリックします（または次のウェブページ）。

   インターネット ブラウザで [**今すぐダウンロード**] ボタンをクリックします。インストール ファイルがダウンロードされるまで待ち、ファイルを実行します。その後は画面に表示される指示に従ってインストール プロセスを進めます。iTunes のインストールが完了したら、iOS 用 **AVG Cleaner** モジュールのダイアログに戻ります。画面を見て分かるとおり、次の手順に進むことができます。

   iTunes が必要となる理由は、iOS 用 AVG Cleaner モジュールがユーザーのデバイスに接続するために必要なファイルが iTunes に含まれているためです。スキャンやクリーンアップのプロセス中に iTunes を開く必要はありません。

3. お使いの iOS デバイスを USB ケーブルで PC に接続します。

iOS 8.3 以降で動作しているデバイスは、Apple によりオペレーティング システムへのアクセスが制限されているため、AVG iOS 用 Cleaner モジュールは対応していません。 そのため、iOS 8.3 以降を使用している場合はエラー メッセージが表示され、接続ができません。

iPhone、iPad または iPod touch の認識は、通常数秒で完了します。続行するには、お使いのデバイスをロック解除し、[**信頼する**] をタップします。接続が正常に確立されると、[***デバイスを接続***] というテキストが [***接続先：***] というテキストに変わり、その下にお使いのデバイス名が表示されます。これで、次の最終手順、「スキャンの実行」に進むことができます。

4. 安全に使用可能にできる領域のサイズを確認するには、[**今すぐスキャン**] ボタンをクリックします。これはクリーンアップではなく、単なるスキャンであるため、ユーザーの許可なしにデータが変更されたり削除されたりするのではないかと心配する必要はありません。あらかじめ結果を確認できるため、どのように処理するかをユーザーが決定できます。

   スキャン プロセスの所要時間は最大で数分間です。スキャン中に、クリーンアップ可能な項目の合計数とサイズを継続的に表示できます。このプロセスは、[キャンセル] ボタンをクリックするといつでも中止できます（その場合、検出結果はすべて破棄され、画面表示は以前のダイアログに戻ります）。

5. スキャン プロセスの終わり方は 2通りあります。不要なファイルが見つからない場合（従って、ユーザーは iOS 用 **AVG Cleaner** モジュールを閉じるのみ）と、いくつかのファイルが見つかった場合（この場合の方がはるかに多い）です。後者の場合は [スキャン結果] ダイアログが表示されます。お使いの iPhone、iPad または iPod touch で検出される可能性のある不要なファイルのさまざまな種類についての詳細を見るには、ここをクリックしてください。

6. 検証結果を確認した後（および場合によっては削除する項目を選択した後）で行う必要があるのは、[**今すぐクリーンアップ**] ボタンをクリックすることのみです。クリーンアップ プロセスが直ちに開始され、ユーザーはその進捗状況、すなわち、すでに削除された不要なファイルの数と、その合計サイズを確認できます。クリーンアップ中に iOS デバイスとの接続を解除しないでください。手順全体が中止されます。

   iOS 用 AVG Cleaner モジュールが AVG Rescue Center によって保護されており（この保護オプションはデフォルトによりオン）、バックアップの実行に十分な空き領域がハード ドライブにない場合は、クリーンアップ プロセスは開始されません。ハード ドライブの空き領域を増やすか、または Rescue Center の設定で自動バックアップをオフにする必要があります。iOS 用 AVG Cleaner モジュールでの自動バックアップについての詳細を読むか、またはRescue Center 保護の概要について学習することをお勧めします。

7. クリーンアップ プロセスの所要時間は数秒間です。その後、削除された不要なファイルの合計数と、そのサイズが表示されます。お疲れ様でした。お使いの iOS デバイスは正常にクリーンアップされ、パフォーマンスが向上し、使用可能なストレージ領域が増えました。[**閉じる**] ボタンをクリックし、iOS 用 **AVG Cleaner** モジュールを終了してください。

10.2.2. 検出できる不要なファイルの種類は？

スキャン プロセスが完了すると、[***スキャン結果***] ダイアログが表示されます。このダイアログはリボン形式で、それぞれ異なる色の付いたセグメント（不要なファイルのカテゴリに基づく）に分けられています。リボンの各セグメントは、比例的に表示されます。すなわち、各セグメントのサイズは、クリーンアップ可能な領域全体に占める割合によって異なります。

次の種類の不要なファイルをクリーンアップできます。

カテゴリ	**説明**
一時ファイル	このカテゴリには、アプリによって作成され、安全に削除できるすべての不要な一

	時 ファイルが含 まれます。
Cookie	このカテゴリには、アプリによって作 成 され、安 全 にクリーンアップできるすべての cookie が含 まれます。
キャッシュ ファイル	このカテゴリには、アプリによって保 存 され、安 全 に削 除 できる不 要 なキャッシュ ファイルが含 まれます。
システム ログ	このカテゴリには、お使 いのデバイスによって作 成 され、安 全 に削 除 できる不 要 なシステム使 用 レポートとアプリクラッシュ ログが含 まれます。
サムネイル キャッシュ	このカテゴリには、お使 いのデバイスでサードパーティ アプリによって作 成 され、安 全 にクリーンアップできる画 像 サムネイルが含 まれます。 ユーザー自 身 の写 真 に変 更 は加 えられません。
ダウンロード キャッシュ	このカテゴリには、中 断 されたダウンロードや不 完 全 なダウンロードが含 まれます。

特 定 のセグメントにマウス カーソルを重 ねると、そのセグメントの概 略 、およびそこにあるクリーンアップ可 能 な項 目 の合 計 数 とサイズが表 示 されます。

ウィンドウの左 下 隅 にある [**詳 細 を表 示**] ボタンをクリックすると、ダイアログが***詳 細 表 示***に切 り替 わります。 これにより、クリーンアップされる各 カテゴリにある個 別 のファイルを調 べることができます。 このビューでは、複 数 の色 で区 別 された不 要 なファイル カテゴリのリボンも表 示 されますが、各 カテゴリは左 側 の列 にも表 示 されるため （合 計 サイズおよびクリーンアップ可 能 な項 目 数 も併 せて表 示 ）、全 体 を選 択 または選 択 解 除 できます （名 前 の横 にあるチェックボックスを使 用 ）。 右 側 には、現 在 選 択 されているカテゴリの詳 細 な概 要 が表 示 されます。サブカテゴリ （すなわち個 々 のアプリケーション）のリストがあり、その中 にある特 定 の項 目 （ファイル）も表 示 されます。 どれでも選 択 （および選 択 解 除 ）できます。 [並 べ替 え] ロールダウン メニューを使 用 して各 カテゴリの項 目 を並 べ替 えることもできます （サイズ順 または名 前 順 ）。

カテゴリ （またはサブカテゴリ）の現 在 の状 態 は、その名 前 の横 にあるチェックボックスの表 示 によって識 別 できます。 チェックボックスが空 （☐）の場 合 は、カテゴリの項 目 が一 つも選 択 されていないことを示 し、チェックが付 いている （☑）場 合 は、項 目 がすべて選 択 されていることを示 します。 小 さな四 角 形 が付 いたチェックボックス （▣）は、一 部 の項 目 のみがクリーンアップのために選 択 されているカテゴリ （またはサブカテゴリ）を示 します。

[**詳 細 を非 表 示**] ボタンをクリックすると、ダイアログはシンプルな基 本 表 示 に戻 ります。 ただし、個 々 のカテゴリまたはサブカテゴリで以 前 に選 択 （選 択 解 除 されたすべての項 目 は、選 択 （選 択 解 除 されたままになります。

この後 、実 行 する必 要 がある操 作 は、[**今 すぐクリーンアップ**] ボタンをクリックしてクリーンアップ プロセスを開 始 することのみです。 クリーンアップ プロセスとその結 果 についての詳 細 は、ここをクリックしてください。

10.2.3. 自動バックアップ

他 のすべての **AVG PC TuneUp** モジュールと同 様 に、iOS 用 **AVG Cleaner** はデフォルトで Rescue Center によって保 護 されています。 これは、クリーンアップを行 う前 には毎 回 、削 除 されるすべてのファイルがまずハード ドライブにバックアップされることを意 味 します。 クリーンアップ プロセスによって重 要 なデータが失 われた場 合 （一 般 にはゲームの進 度 の記 録 など）、後 でデータを復 元 することを選 択 できます。

バックアップはクリーンアップ プロセスの前 （すなわち、[**今 すぐクリーンアップ**] ボタンをクリックした直 後 ）に行 われます。 バックアップを作 成 するのに十 分 なディスク領 域 がない場 合 、空 き領 域 を増 やす必 要 があります。 また、Rescue Center 設 定 で自 動 バックアップをオフにすることもできます。 オフにするには、[**設 定**] リンク （**AVG PC**

TuneUp ダッシュボードの右上にあるメニューバーの中）をクリックし、左側のリストで [**Rescue Center 保護**] の項目を選択して、[iOS 用 ***AVG Cleaner***] ボックスの選択を解除します。ただし、不要な変更を元に戻す方法を維持しておく方がはるかに安全であるため、この機能をオフにすることはお勧めしません。

iOS 用 **AVG Cleaner** のインターフェースで、Rescue Center 保護が有効かどうか簡単に確認できます。ダイアログの右上隅にある [**Rescue Center**] ボタンをご覧ください。ボタンが緑色の場合、モジュールは自動バックアップにより保護されています。グレーの場合、Rescue Center 保護は無効になっています。

失ったデータを復元する方法

これを行うには、**AVG Rescue Center** モジュールを起動する必要があります。起動は **AVG PC TuneUp** ダッシュボードから（***Rescue Center*** エリアで [**変更を元に戻す**] ボタンをクリックする）、または **AVGiOS 用 Cleaner** のインターフェースの右上隅にある [**Rescue Center**] ボタンを使用して行うことができます。

失ったデータの復元は iOS バージョンが 8.3より前のデバイスでのみ機能することにご注意ください。iOS 8.3 以降で動作しているデバイスは、Apple によりオペレーティング システムへのアクセスが制限されているため、iOS 用 AVG Cleaner モジュールは対応していません。

[***変更を元に戻す***] セクションの右側の列にある [**AVG Rescue Center**] には、保存されているすべてのバックアップのリストがモジュール名順または日付順に表示されます。iOS 用 **AVG Cleaner** バックアップの場合は、それぞれの作成日時、各バックアップに含まれている項目の合計数とサイズ、およびバックアップの作成元デバイス名を確認できます。これにより、使用するバックアップを簡単に見つけることができます。

バックアップを選択し、その復元を確認した後で、正しいデバイスを接続する必要があることを知らせるダイアログが表示されます。USB ケーブルを使用して接続が確立されるまで待ち、[**続行**] ボタンをクリックします。復元プロセスが開始されます。プロセス中、データの復元を完了するために iOS デバイスを再起動するよう指示するメッセージが表示されます（**AVG Rescue Center** では再起動を自動的に行います。[**再起動**] ボタンをクリックして再起動を許可してください）。

iOS デバイスの接続を解除したり、デバイスを使用したりしないでください。復元プロセスが中止されます。

プロセスが終了すると、最後の確認ダイアログが表示されます。お疲れ様でした。データの復元がすべて完了したため、iOS デバイスの接続を安全に解除できます。

10.3. レジストリをデフラグする

この章では**どのように**AVG Registry Defragモジュールを使用してデフラグすることでレジストリのサイズを小さくできるか、**またなぜRegistry Defragを実行することが重要であるのかを説明します。**

レジストリは、Windows システムの中核です。レジストリには、継続的にエントリ（値とキー）が保存されます。また、新しくプログラムがインストールされるたび、新しくハードウェアが接続されるたびに、レジストリにキーと値が作成されます。

そのため、レジストリは絶えず大きくなっていきます。レジストリが大きくなればなるほど、今プログラムによって要求されている保管の特定の情報をシステムが探し出すのにもっと時間がかかるようになり、Windows の動作が遅くなります。プログラムのアンインストール時やレジストリの整理の際に、キーと値が再び削除されることが多いのですが、レジストリ自体は小さくなるわけではありません。これはなぜでしょうか。それは、削除されたキーが使用していた場所は、例えその後使用されなくともそのままレジストリ内に残るからです。時間が経つうちに、レジストリは、エメンタール チーズのように穴ぼこだらけになってしまいます。

これはシステム パフォーマンスを犠牲にした、ハードディスクだけでなくメモリでの無駄遣いでもあります。**AVG Registry Defrag**は、レジストリを再び圧縮して大幅に小さくすることができます。小さくなることで、Windows シス

テムの安定性が向上します。

AVG Registry Defragは、まずレジストリの分析を行い、その結果を元に安全な形のデータだけを正しい順に並べた新しいバージョンを作成します。古いレジストリはこのステップ終了後に削除され、再起動によって自動的に新しいバージョンと入れ替えられます。

10.3.1. レジストリをデフラグする方法

レジストリをデフラグする方法

ダッシュボードの**すべての機能**に進み、レジストリの**デフラグレジストリ**を選択して、**AVG Registry Defrag** モジュールを起動します。

「ようこそ」という表示が現れます。**次へ**をクリックして、分析を開始します。

AVG Registry Defrag は、レジストリの断片化の度合いと、最適化が必要かどうかを検出します。

分析の前に、他のすべてのプログラムを閉じることを指示するメッセージが表示されます。分析が行われている間は、**AVG Registry Defrag** の画面がグレーになり、待機ウィンドウが開きます。また、待機ウィンドウの左上隅に、モジュールが作業中であることを示す小さな時計が表示されます。さらに進行バーも表示され、現在の状態が報告されます。この進行バーが数分間動かないことがあっても、何か問題が起きたわけではありません。

いつ最適化を実行したいかを選択します。モジュールによって、分析結果が表示されます。最適化を行うべき可能性があれば、レジストリの何パーセント、そしてキロバイトにしてどれだけのサイズを削減することができるのかがここに表示されます。

AVG Registry Defrag がレジストリを書き換えられるのは稼働中ではなく、Windows の起動時だけです。コンピュータを**今すぐ再起動する**か、最適化を自動的に**次回の Windows の起動時に**実行するかを選択してください。最適化は、数分かかることがあります。

急に最適化を実行したくなくなった場合や、分析結果だけを知りたい場合は、**キャンセル**をクリックしてプログラムを終了できます。

10.4. ハードディスクをデフラグする

この章では、**ハードディスクのデフラグが必要である理由**と**AVG Drive Defrag**を使用してどのようにハードディスクのデフラグを行うかを説明します。

時が経つにつれコンピュータの動作が遅くなるのには、さまざまな原因があります。普段目に見えないハードディスクの断片化もその原因のひとつです。次のように考えてみてください：

空のハードディスクがあります。まず、新しいファイルが一つ、そしてもう一つ次々に並べて配置されます。次に、中央にあるファイルを 1つ削除したとしましょう。それにより、ハードディスク上に隙間が生じます。Windows はあとでこの隙間を、ハードディスクに保存する次のファイルを入れるのに利用します。ファイルのサイズが隙間より大きい場合、Windows はファイルを分割し、後半部分を別の場所に配置します。時の経過とともにそのようにますます隙間ができ、ファイルはますます個々の部分（断片）に分割していきます。つまり、断片化の度合いが高くなります。

これは、コンピュータのパフォーマンスにブレーキをかけます。ファイルを呼び出すたびに、そのファイルがハードディスクから読み込まれますが、ファイルが 1つの完全な形で保存されていれば読み込みがもっと速くなるのは明らかです。技術的に表現すれば、「断片化の度合いが高いと、ファイルの断片を読み込むためにハードディスクの読み込みヘッドの向きを何度も調整する必要がある」ということです。

そのため、**ハードディスクをデフラグ**すれば、簡単にシステムがスピードアップします。従来のデフラグは非常に時間がかかることから、**AVG Drive Defrag**では、2種類のデフラグが用意されています。デフラグの方法は、ユーザーが自分で決めることもでき、また**AVG Drive Defrag**に判断を任せることもできます。

2つのデフラグモードの実行についての詳細は下記をご覧ください：

詳細なデフラグ

このデフラグ方法は、ファイルを新たに配列し、特にインテリジェントに配置します。たとえば、頻繁に必要となるシステム ファイルはハードディスクの頭の方に配置されるため、Windows が瞬時に見つけることができます。

このような最適化は、単なるファイルの整頓よりも多少時間がかかります。**AVG Drive Defrag**は、特別に優先度が低く設定されており、そのまま作業を行えるようになっています。このプロセスは Windows の起動を大幅にスピードアップします。頻繁に使用するプログラムの起動も速くなります。それにより、コンピュータのパフォーマンスも顕著に向上します。

高速デフラグ

このモードでは、すべてのファイルが完全な形に戻されるため、読み込みにかかる時間が大幅に短縮されます。

この方法の利点は、すばやく実行できることです。それによりハードディスクのパフォーマンスが短時間で改善されます。

10.4.1. ハードディスクをデフラグする方法

ハードディスクをデフラグする方法

ダッシュボードの**すべての機能**に進み、**ハードディスク**の**デフラグ**を選択して、**AVG Drive Defrag** モジュールを起動します。

ソリッドステートドライブ（SSD）は **AVG PC TuneUp** に検出されます。デフラグによる SSD ドライブの最適化は不可能で、それよって損傷するため、SSD は分析もデフラグもされません。

最適化の可能性を分析するハードディスクを指定します。

分析後にどのようにデフラグを実行するかを指定します。

AVGDrive Defragが行うデフラグの方法は 2種類あるため、デフラグの方法が分析に依存すべきかどうかを分析前に指定する必要があります。

4 つのオプションの 1つ目があらかじめ設定されていますが、これは分析後にユーザーへの推奨事項が表示され、デフラグを実行する方法を**ユーザー自身が決定する**ことができるためです。他の 3つのオプションでは、分析の完了後、直ちにデフラグが開始されます。ただし、分析の結果、デブラグの度合いが非常に低いと分かった場合、**AVG Drive Defrag** ではデフラグが不要だと判断するため、これら 3つのオプションではデフラグは実行されません。

結果が出てから決定する

このオプションをお勧めします。分析が完了した後で、各ハードディスクについて、高速デフラグと念入りなデフラグのどちらを実行するか決定します。また、デフラグを実行しない選択肢もあります。

確認なしで推奨どおりに

AVG Drive Defrag は自動的に判断を下し、分析の完了後、直ちに断片化の度合いに応じたモードで各ハードディスクをデフラグします。

確認なしで徹底的に

分析の結果とは無関係に、時間は多少かかってもハードディスクのパーフォーマンスが細かいところまで最適化されます。

確認なしで高速に

断片化の度合いとは無関係に、各ハードディスクが高速でデフラグされます。時間を節約したい場合に適したオプションです。

[**結果を待って決定する**] オプションを選択した場合はダイアログが表示され、各ハードディスクをデフラグする方法を選択できます。他のすべてのオプションでは、分析後にデフラグが自動的に実行されるため、ユーザー操作は必要ありません。

上の領域でハードディスクを選んでからデフラグのモードを選択します。

AVG Drive Defrag は処理速度と得られるメリットを勘案し、それに基づいて推奨事項を提示します。

コンピュータをデフラグ終了後にシャットダウンするかどうか、指定してください。どのハードディスクに対しても必ずデフラグの方法を選択してください。

次へをクリックするとデフラグが開始されます。

デフラグが行われている間、各ハードディスクをリアルタイムで観察し、使用領域の変化を確認できます。また、進度バーにはデフラグの進行状況と残り時間が表示されます。

詳しいヒントや詳細事項は、NTFS とFAT との比較

10.4.2. NTFS を FAT と比較

NTFS を FAT と比較

ハードウェアは、現在の Windows のバージョンで好んで取り入れられているような NTFS ファイル システム、あるいは最初の Windows のバージョンでサポートされている古い FAT システムを、選択的に使用しています。これから行うデフラグのためのドライブの分析は、NTFS ドライブでは明確により速く進行します。FAT システムの場合、ユーザーの待ち時間が長く、待っている間に休憩ができるほどです。これ以外にも、古い FAT システムをモダンな NTFS システムに変換した方が良い理由はいくつもあります。

NTFS ファイル システム（NTFS = New Technology File System）は Windows NT とそれ以降（例えば Windows 2000、Windows XP、Windows Vista）から Windows 7 に至るまでのファイル システムです。このシステムは ファイル レベルに絞ったアクセス保護を提供し、融通性のある権限管理や 4GB 以上のディスク容量が可能で、ファイル システムの自動エラー修正機能があり、今日普通のハードディスク サイズの場合で明白にメモリを効率的に利用できます。

お使いのハード ディスクで FAT ファイル システムが採用されている場合は、簡単に変換することができます。

変換は安全だとされていても、保存されているデータはすべて前もってバックアップを作成しておくべきです。

Windows のスタート メニューをクリックして、**すべてのプログラム**を開き、**アクセサリ**にある**コマンド プロンプト**をクリックします。コマンドラインに「CONVERT.EXE C:/FS:NTFS」というコマンドを入力すると、変換が始まります。

C: の代わりに他のドライブ文字を使用すれば、他のパーテーションを変換できます。システムのパティションが変わった場合は、コンピュータの再起動が必要です。この場合は画面の指示に従ってください。

10.5. レジストリを編集する

以下の章では、**どのように AVG Registry Editor** モジュールを使ってレジストリを編集できるかを説明します。

この機能は、上級ユーザーのみを対象としています。

Windows レジストリは巨大な中央データベースです。ハードウェアやインストールしたソフトウェアの新しいアイテムはここに「レジストリ」されます。そして、時が経つにつれてレジストリはどんどん大きくなり、複雑になっていきます。

問題を熟知し、Windows の内部構造を確認するための適切な手段を探し、手動で多数の設定を変更するようなユーザーは、**AVG Registry Editor**を使用できます。そのうえもちろん、行われたあらゆる変更をいつでも元に戻すことができる**AVG Rescue Center**保護も提供します。

10.5.1. レジストリを編集する方法

ダッシュボードの**すべての機能**に進み、**レジストリ**の**レジストリの編集**を選択して、**AVG Registry Editor** モジュールを起動します。

レジストリは、Windows システムの中核となる要素です。レジストリに関する知識を持ったユーザーだけが、レジストリに変更を加えるようにしてください。

左の欄にエディタがツリー ビューでレジストリを表示します。レジストリは、テーマごとにさまざまなカテゴリに分類された、数えきれないほどのキーによって成り立っています。それらのカテゴリはフォルダやサブフォルダで示されています。

キーを表示

左の欄のフォルダをダブルクリックすると、そのサブフォルダが表示されます。階層の最後のレベルに達した場合は、右側に個々のキーが表示されます。

キーを編集

キーのコンテキスト メニューでさまざまな編集機能を選択します。こうしてキーを**削除**し**名前を変更**して、クリップボードに**コピー**できます。また、キーの値を**変更**することも可能です。

新しいキーを作成するには、フォルダのコンテキスト メニューで **新規** をクリックします。

レジストリを閲覧

ツリー ビューにあるフォルダのコンテキスト メニューで、**検索**をクリックすると、レジストリ内で検索を開始できます。**AVG Registry Editor** は、包括的な検索オプションを提供します。

ブックマークを表示／設定する

ツリー ビューにあるフォルダのコンテキスト メニューで**ブックマークを設定**を選択すると、後で個々のフォルダをすばやく見つけられます。

その他の機能

メニューバーには、レジストリを編集するためのその他の機能が多数含まれています。たとえば、個々の領域またはレジストリ全体をエクスポートしたり、印刷したりできます。ツールバーの項目を使ってレジストリを編集することもできます。

10.6. 更新の確認

本章では**どのように**AVG Update Wizardモジュールを使用して **AVG PC TuneUp** を最新の状態に保つのか、また**それが重要である理由**を説明します。

AVG PC TuneUp は、個々の機能を拡張するだけでなく、最新の技術に合わせた調整や、エラーがあった場合のエラー修正など、常に改良が続けられています。新しいバージョンが利用可能になると、インターネット上で提供されます。

自動的に更新を確認させたり、手動で確認することもできます。

設定の変更

更新確認の設定を変更するには、メニューバーの**設定**、それから**更新**をクリックします。ここでは、**AVG PC TuneUp** が定期的な自動更新をするかどうかを決めることができます。さらに、どのくらいの時間間隔で見つかった更新の通知をもらうかも指定できます。

手動で更新を確認

AVG PC TuneUp に更新の確認を自動実行させない場合は、この機能をオフにしてください。オフにした場合は、定期的に手動で更新を確認することをお勧めします。

10.6.1. 更新を確認する方法

AVG Update Wizard モジュールを起動するには、ダッシュボードの**すべての機能**カテゴリから、**AVG PC TuneUp** の**更新の確認**を選択します。

AVG Update Wizard が起動し、更新の有無を確認するためにインターネット接続が確立されます。

更新がある場合

利用可能な更新のリストと、新機能または変更された機能の簡単な説明が表示されます。

見つかった更新をインストールするには、**[次へ]** をクリックしてください。

更新がない場合

更新がない場合は、**AVG PC TuneUp** はすでに最新の状態にあるので、**[終了]** をクリックしてウィザードを閉じます。

10.7. Windows の外観を変更する

以下の章では **AVG Styler** モジュールを使用して Windows の外観をカスタマイズする**方法**について説明します。

ただし、カテゴリの [ブート画面] と [ブートロゴ] は、Windows Vista でのみ使用できます。

グラフィックな ユーザーインターフェースなしには Windows の魅力が半減してしまいます。魅力的なユーザーインターフェースがどれだけ重要かは、Windows Vista や Windows 7 の新しいデザインに象徴されています：オペレーティング システム全体が新鮮で洗練された雰囲気となっています。

しかし、流行が移り変わる中で、最新のデザインにもそのうち飽きがきます。もちろん、最初から気に障る甘ったるいデザインに関しては言うまでもありません。

AVG Stylerを使って、Windows のさまざまな要素の外観を自分の好みに変更することができます。自分で設定できる要素は、実は驚くほどたくさんあるのです。詳細は、対応するサブチャプターをご覧ください。

1. Windows の外観を変更する方法
2. ブート画面
3. ブート画面の設定のヒント
4. ブートロゴ
5. ログオン画面
6. システム要素
7. アイコン パッケージの管理
8. ファイル システム
9. アイコンの外観
10. 修復
11. 視覚スタイル

10.7.1. Windows の外観を変更する方法

ダッシュボードの**すべての機能**へ進み、**Windows** の **Windows の表示を変更する**を選択し、**AVG Styler** モジュールを起動します。

AVG Styler のスタートページが開き、そこからモジュールの調整オプションのすべてにアクセスできます。

変更を行いたい領域をクリックしてください。創造力を働かせて Windows システムを自分の好みにデザインしてみましょう。

10.7.2. ブート画面

Windows の起動中、既定では黒い画面が表示されます。**AVG Styler** を使用すれば、マウスを何度かクリックするだけで、このブート画面を他のブート画面と交換することが可能です。あるいは創造力を自由に発展させ、好みの写真を入れるなどして **オリジナルのブート画面** を作成できます。

Windows 7 および 8ではブート画面は使われないため、この機能は利用できません。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windows の外観を変更する**の Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。**

ウィンドウの左側にあるナビゲーションバーで**ブート画面**をクリックします。

AVG Styler は使用可能なブート画面をリスト表示します。モジュールを初めて使用する場合、ここには Windows の既定ブート画面だけが表示されます。

新しいブート画面を、最終的にそれに決めるまで取りあえずリストに追加しておくことができます。これを実行するには次のオプションがあります：

既に作成されたブート画面をダウンロードする

左上の**ブート画面**にある**追加**をクリックします。

AVGオンラインから**ブート画面のダウンロードエントリを選択します。**

ウェブサイト上にさまざまなブート画面が表示され、これを利用して、起動プロセスを自分の好みに合わせてカスタマイズできます。

ブート画面をクリックします。

その画面が自動的に**AVG Styler**と同時に開き、リストに追加されます。

ファイルからブート画面を追加

左上の**ブート画面**にある**追加**をクリックします。

ブート画面をファイルから読み込むを選択します。

Explorer が開いたら、コンピュータ上の任意のファイルを選択します。使用できるファイル形式は、次のとおりです。

種類	ファイルの拡張子	説明
AVG ブート画面	.TBS	AVG Styler の個別フォーマット
Stardock Bootskin	.BOOTSKIN	www.wincustomize.com のような、Web サイトの多くのブート画面の形式
画像	.BMP; .PNG; .GIF; .JPG; .JPEG	これらの形式の画像を選択すると、自動的にブート画面を作成のダイアログが開き、画像が表示されます。そこで画像に調整を加えることができます。
Ntoskrnl.exe ファイル	.EXE	ブート画面が組み込まれた Windows XP のシステムコア

新しいブート画面を選択し名前を付けると、ファイルはその名前で**AVG Styler** のリストに表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したブート画面がリストに表示されます。さらに他のブート画面を追加することもできます。

ブート画面を作成する

ブート画面で**新規作成**をクリックします。

画像を検索し調整できるウィザードが開きます。コンピュータまたは外部記憶媒体にある画像を選択することができます。

また、カメラやスキャナから画像を転送したり、直接 **AVG Styler**からGoogle？画像検索を開始することもできます。どちらの場合も、希望の画像を見つけやすいようにひとつの場所に保存し、**ローカルドライブを検索**をクリックして、今保存した画像を読み込みます。

新しい画像の外観を最適化する

用意されている調整オプションは、画像がまだブート画面に適したサイズ（640x480 ピクセル）にされていない時にのみ、効果が示されます。**背景**では、画像で隠れない領域を何色で表示するかを指定できます。

技術上の理由から、プログレスバーの背景もこのうちに入ります。さらに、位置、前景色、フレームの色も全く好みに応じて設定できます。プログレスバーは、画像の全体的な印象の邪魔にならないように配置してください。

新しいブート画面は、名前を付けて **AVG Styler** リストに保存します。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したブート画面がリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しいブート画面を変更したくなった場合は、いつでもWindows 既定の画面に戻すことが可能です。

デフォルトに戻すボタンをクリックします。

リスト内で自動的に既定のブート画面が選択され、プレビューが表示されます。

適用するには、**適用**をクリックします。

ブート画面をプレビューするにはリストから選択します。**適用する**をクリックしてください。**AVG Styler** は新しいブート画面を承認します。

10.7.3. ブート画面の設定のヒント

これらは Windows XP のみに適用されることにご留意ください。

Windows XP の技術的条件下にあるブート画面はすべて16色しか利用できず、そのうち幾つかは指定できないものもあります（黒など）。**AVG Styler** もまた**ブート画面を保存**をクリック後、作成された画像を豊かな色彩（通常 1670万色）から極めて少ない色数に削減しなければなりません。

AVG Stylerでは、最も画像に適した 16色を自動的に突き止める、という実に優れた方法を使用することができます。画像内に異なる色が多数ありすぎる場合には、必ずしも満足のいく結果に仕上がらないこともあります。

経験則では、数色でのみ構成されたブート画面が最も良い結果となっています。ブルーを基調にした配色と数色のコントラストカラーからなる画像は、美しいブート画面になるでしょう。

画像の一部にある色をプログレスバーのフォアグラウンドカラーに入れてください。これにより、貴重な 16色 が進行バーのためだけに使用されるのを防ぐことができます。ブート画面に肌色を使用するのはできる限り避けてください。肌色を使用した画像は 16色だけでは上手く表示されないことがほとんどです (グラフィックデザイナーに尋ねてみてください)。ただし、時には偶然上手くいくこともあります。試す価値はあります！

10.7.4. ブートロゴ

Windows XP、Windows 7、および 8ではブートロゴは使用しないため、この機能を使用できるのは Windows Vista のみであることにご注意ください。

ログオンの直前に Windows ロゴの短いアニメーションが表示されます。**AVG Styler**を使用すると、これまではリスクの高い作業であったブートロゴの変更が、簡単に実行できます。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windows の外観を変更する**の **Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

ウィンドウの左側にあるナビゲーション バーで**ブートロゴ**をクリックします。

AVG Stylerは使用できるブートロゴをクリックします。ここで、他の作成済みのブートロゴをリストに**追加**するか、**独自のブートロゴ**が作成できます。

まず**新しいブートロゴ** をリストに追加してから、最終的に適用します。これを実行するには次のオプションがあります：

既に作成したブートロゴをダウンロードする

左上の**ブートロゴ**にある**追加** をクリックします。

AVGオンラインからブートロゴをダウンロードエントリを選択します。

> Web サイトに移動すると、さまざま幅広く揃ったブートロゴが表示され、これを利用して起動プロセスを全く自分の好みに飾ることができます。AVGWeb サイトでブートロゴをクリックします。その画面が自動的に AVG Styler と同時に開き、リストに追加されます。
>
> このスマートなブートロゴはファイルとしても (拡張子 tla)、例えば USB スティックなどに保存できます。保存したブートロゴは **AVG PC TuneUp**をインストールした任意のコンピュータ上で**追加**や**ファイルからブートロゴを読み込む**をクリックすることで Windows のシステムに組み込むことができます。

ファイルからブートロゴを追加

左上の**ブートロゴ**にある**追加** をクリックします。

ブートロゴをファイルから読み込むを選択します。

エクスプローラが開いたら、コンピュータにあるファイルの中から、ブートロゴとして使用したい画像を選択します。 300x300 ピクセルフォーマットで最高の画質が得られます。

新しいブートロゴを選択して名前を付けると、その名前で**AVG Styler**にリスト表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。追加したブートロゴがリストに表示されます。さらに他のブートロゴを追加することもできます。

独自のブートロゴを作成する

ブートロゴにある**新規作成**をクリックします。

エクスプローラが開いたら、コンピュータまたは外部記憶媒体にある画像を選択します。

新しいブートロゴを**AVG Styler** リストに名前を付けて保存します。

作成者の名前を付けることもできます。追加したブートロゴがリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しいブートロゴが気に入らなくなった場合は、いつでも Windows のデフォルトのロゴに戻すことが可能です。

デフォルトを使用をクリックします。

リスト内で自動的にデフォルトのブートロゴが選択され、プレビューが表示されます。

適用するには、**適用**をクリックします。

リスト内から選択して、候補のブートロゴをプレビューします。**再生**ボタンをクリックすると、プレビューがアニメーションとして表示されます。

適用するをクリックしてください。**AVG Styler**が新しいブートロゴを使用します。

10.7.5. ログオン画面

Windows 8 ではログオン画面を使用しないため、この機能は使用できません。

コンピュータのユーザーが複数存在する場合や、ユーザー アカウントがパスワードで保護されている場合、Windows のログオン画面が現れます。**AVG Styler**を使えば、ログオン画面を自由にカスタマイズすることができます。

ログオン画面には、すべてのユーザー アカウントの一覧が表示されます。ユーザーがこのリストから自分のアカウントを選び、パスワードを入力する（もし設定してあれば）と、システムにログインできます。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windows の外観を変更する**の **Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

ウィンドウの左側にあるナビゲーションバーで、**ログオン画面**をクリックします。**AVG Styler** は使用可能なログオン画面をリスト表示します。モジュールを初めて使用する場合、リストに表示されるのは、デフォルトの Windows ログオン画面のみです。

新しいログオン画面を、最終的にそれに決めるまで取りあえずリストに追加しておくことができます。これを実行するには次のオプションがあります：

すでに作成されたログオン画面をダウンロードする

左上の**ログオン画面**にある**追加**をクリックします。

AVGオンラインから**ログオン画面のダウンロードエントリを選択します。**

これにより、独自のスタイルでシステムを使用できるように、さまざまなログオン画面が見られるWebサイトにアクセスします。

ログオン画面をクリックします。

その画面が自動的に**AVG Styler**と同時に開き、リストに追加されます。

ファイルからログオン画面を追加する

左上の**ログオン画面**にある**追加**をクリックします。

ブート画面**をファイルから読み込む**を選択します。

エクスプローラが開いたら、コンピュータ上の任意のファイルを選択します。**AVG Styler**形式のファイル（拡張子 .TLS）だけがサポートされています。

また、Logonui.exe として用意されているログオン画面や Starlock LogonStudio 形式（.LOGONXP）は、直接読み込むことができます。

新しいログオン画面を選択し、名前を付けます。ファイルは、その名前で **AVG Styler** のリストに表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したログオン画面がリストに表示されます。さらに他のログオン画面を追加することもできます。

独自のログオン画面を作成する

Windows XP ではこの機能が利用できないのでご注意下さい。

ログオン画面**で、**新規作成**をクリックします。**

画像を検索し調整できるウィザードが開きます。コンピュータまたは外部記憶媒体にある画像を選択することができます。

また、カメラやスキャナから画像を転送したり、直接 **AVG Styler**から Google？画像検索を開始することもできます。どちらの場合も、希望の画像を見つけやすいようにひとつの場所に保存し、**ローカルドライブを検索**をクリックして、今保存した画像を読み込みます。Google？の画像検索で見つけた画像は、著作権によって保護されていることがあるのでご注意下さい。それゆえ、著作権によって保護されていない画像だけを使用してください。

新しい画像の外観を最適化する

用意されている調整オプションは、画像がまだログオン画面に適したサイズ（640x480 ピクセル）にされていない時にのみ、効果が示されます。**背景**では、画像で隠れない領域を何色で表示するかを指定できま

す。

新しいログオン画面は、名前を付けて **AVG Styler**リストに保存します。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したログオン画面がリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しいログオン画面が気に入らなくなった場合は、いつでもWindowsのデフォルト画面に戻すことが可能です。

デフォルトに戻すボタンをクリックします。

リスト内で自動的にデフォルトのログオン画面が選択され、プレビューが表示されます。

適用するには、**適用**をクリックします。

リスト内で任意のログオン画面を選択すると、プレビューが表示されます。

適用するをクリックしてください。

ログオン画面のほとんどは英語になっています。このため、選択されたログオン画面のテキストを適用すると、Windowsログイン時のメッセージがこれまでと違う言語になってしまうことがあります。その場合、例えば"ユーザー名をクリックしてログオン」"ではなく、"Klicken Sie auf Ihren Benutzernamen, um sich anzumelden」"と画面に表示されることがあります。

この場合、選択されたログオン画面にあるテキストを適用するか、あるは既定のログオン画面の日本語テキストを使いたいか、という質問をされることがあります。

AVG Stylerが新しいログオン画面を適用します。ここで、Ctrl+Altキーを押すと、ログオン画面がテストできます。

10.7.6. システム要素

このカテゴリでは、典型的なWindowsアイコンを新しいモチーフに置換えることができます。

動作の詳細について

AVG Stylerモジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windowsの外観を変更する**の**Windowsの外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

ウィンドウの左側にあるナビゲーションバーで、**アイコン**の**システム要素**をクリックします。

AVG Stylerにより、右側に以下の領域のタブが表示され、そこでシステム要素を変更することができます。

デスクトップ、スタートメニュー（Windows 8ではご利用いただけません）、エクスプローラ、コントロールパネルのすべての要素のアイコンが変更できます。また、ファイルの種類を示すアイコンもカスタマイズできます。

多数の要素には新しい名前を指定することもできます（例えば、ごみ箱やネットワーク環境など）。

たとえば、Windows XPで使用していた"マイ コンピュータ"という名称を復活させたい場合は、Windows Vistaの"コンピュータ"を"マイ コンピュータ"に変更することができます。

タブを 1つずつクリックし、変更したい要素を選択します。

アイコンを取り替えるをクリックします。

アイコン ライブラリが開き、そこには選択した要素の現在のアイコンがあります。たいていは既に Windows と一緒にインストールされたライブラリです。コンピュータに独自のアイコン ライブラリがある時は**参照**でそのライブラリの内容を読み込むことができます。

新しく使用したいアイコンを選択しておきます。

変更は、まずリストの各要素にオレンジ色の星印で表示されます。

まだ適用していない変更はいつでも破棄できます。それには、リストでそのような星印が付いた要素を選択し、**この要素に行なわれた未保存の変更を破棄**をクリックします。

変更を実際に実行するには、ウィンドウの右下端にある**適用**をクリックします。

変更を元に戻す方法

要素に対するまだ適用していない変更はいつでも破棄できます。それにはリストからそれを選択し、**この要素に行われた未保存の変更を破棄**をクリックします。

既に要素に適用した変更を元に戻したい場合は、要素を選択し、**要素を Windows の既定値にリセット**をクリックします。このリンクは、要素が実際に目下 Windows の既定のものと異なる場合にのみ表示される、ということにご注意ください。

一度に複数の変更を元に戻す場合は、**カテゴリをリセット**と**すべてのカテゴリをリセット**のリンクが用意されています。最初の要素では、現在選択されているタブの要素だけがリセットされ、**AVG Styler** で変更可能なシステム要素すべてが対象となります。

双方のリンクをクリックするとダイアログが開き、ここで全要素を Windows 既定のものにリセットするのか、またはこれらの要素にまだ保存されていない変更のみを取り消すのかを選択できます。後者の選択可能性は、まだ保存されていない変更があるときだけです。

10.7.7. アイコン パッケージの管理

Windows のアイコンをすべて、ひとつひとつ置換えるというのはもちろん大変骨の折れる作業です。**AVGStyler** はそのため、古くなった Windows アイコンすべてを、新しいアイコンと一気に置き換えることができるようにしました。

アイコンパッケージの追加

AVGStyler で、**アイコン**のウィンドウ左側から、**システム要素**をクリックします。それから下の**アイコン パッケージ**をクリックしてください。

新しいウィンドウが開き、使用できるアイコン パッケージが一覧されます。ここで、新しいアイコン パッケージをリストに追加するか、リストに含まれているものをインストールすることができます。

追加をクリックします。

このようにしてその他のアイコン パッケージをリストに入れることができます。その際、コンピュータ上にあるアイコン パッケージを使用するか、あるいは新しいパッケージをダウンロードするかを選べます。さまざまな趣向を凝らしたアイコン パッケージがダウンロード用に用意されています。

Web サイトでアイコン パッケージをクリックし、それを**AVG Styler**で開きます。数秒でパッケージがリストに表示されます。

新しいアイコン パッケージを作成

その他の方法として、お持ちの現在のアイコンの構成から独自のアイコンパッケージを作成し、保存したり友人と交換することもできます。

リストの上端にある**新規パッケージを作成**をクリックします。

ウィザードが開き、次のステップでアイコン パッケージの作成を行うことができます。

作成者に関する情報：ここでは希望に応じてアイコン パッケージに、ユーザーの名前やメール アドレス、そしてホーム ページ情報などを記入することができます。

パッケージ名と説明：ここに気の利いたパッケージ名を指定します。また**説明**フィールドにパッケージに関する補足情報を記入して保存することも可能です。

パッケージ サイズの最適化：このステップのオプションを使うと、アイコン パッケージのサイズが抑えられるので、メールでも支障なく送信できます。

アイコン パッケージを作成：アイコンが構成され、これらから続いてアイコン パッケージが作成されるよう、場合によっては最適化されます。

ウィザードの終了：アイコン パッケージ作成が正常に完了したら、アイコン パッケージ一覧の**終了**をクリックすることで追加されます。**フォルダを開く**をクリックすると、**AVG Styler**のアイコン パッケージフォルダに移動し、アイコン パッケージを別の場所にコピーしたりメールに添付することができます。

10.7.8. ファイル システム

Windows ではそれぞれのドライブ、ファイル、フォルダ、スタートメニュー フォルダ、そしてブックマーク エントリに既定のアイコンが割当てられています。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windows のデザインを変更する**の **Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

ウィンドウ左側にあるナビゲーションバーで、**アイコン**の**ファイルシステム**をクリックします。

ドライブおよびフォルダのツリー ビューが開きます。ツリー ビューの個々の要素をクリックして、それぞれのアイコンに付け加えたい要素を選択します。

アイデアとヒント：

- 最初の節の下に、例えば、ゲーム用ドライブには特に奇抜で面白いアイコン、オフィスのプログラム用ドライブにはむしろ地味なアイコンを割り当てることができます。
- フォルダも同様に扱うことができます。内容に合ったアイコンを割り当てておけば、ドライブがいっぱいになっても内容を簡単に一覧することができます。
- スタートメニューのフォルダのアイコンも、内容に合ったものに取り替えることができます。

- また、Internet Explorer の [お気に入り] にも独自のアイコンをつけることができます。これにより、たいてい長いリストとなっている [お気に入り] をすばやく見つけることが可能になります。

ツリービューのさまざまな要素をクリックして、クリエイティブなアイコンをにしたい要素を選択します。

アイコンを取り替えるをクリックします。

これに対しては、[コンピュータ]、[スタートメニュー]、[お気に入り]の3つの要素は取り替えられないのでご注意下さい。

アイコンライブラリが開き、そこには選択した要素の現在のアイコンがあります。たいていは既に Windows と一緒にインストールされたライブラリです。コンピュータに独自のアイコンライブラリがある場合は、その内容を**参照**で見つけることができます。

アイコンを選択します。

OKをクリックすると、変更が今すぐ適用されます。

個々の変更を戻す

変更を元に戻すには、リスト内で要素をクリックし、**要素を Windows のデフォルト値にリセット**をクリックします。

複数の変更を元に戻す

同時に複数の変更を元に戻したい場合は、場合によってはリンク**以前のセッションからバックアップを復元**が役に立つかもしれません。**AVG Rescue Center** が起動され、ある時点において **AVG Styler** で行った変更を元に戻すことができます。

10.7.9. アイコンの外観

ここでは、デスクトップ上のアイコンの表示を変更することができます。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windows の外観を変更する**の **Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

画面の左側の**AVG Styler**、**アイコン**の下から、**アイコンの外観**をクリックします。

AVG Styler は、デスクトップ上にある変更可能な要素のプレビューが表示されます。

デスクトップ上の要素のサイズ（Windows XP のみ）、要素間の間隔を設定し、ショートカットに矢印を表示するかどうかを指定します。

10.7.10. 修復

Windows のアイコンを変更し、そこに独自の設定を行うのは楽しいことでしょう。しかし、希望のアイコンが思ったような外観で表示されない、誤ったアイコンが表示されるなどのトラブルも生じることがあります。**AVG Styler** には2つの修復機能があります。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内のカスタマイズするカテゴリーから、**Windows の外観を変更する**の **Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

ウィンドウ左側の**AVG Styler** で、**アイコン**の**修復**をクリックします。

アイコンの再読み込みをクリックします。

通常は、この機能は混乱を整理し、Windows システムのスタイル変更を続行できるようにします。アイコンを再読み込みしても正常に表示されない場合は、アイコンのキャッシュに深刻な問題が生じている可能性があります。

アイコンのキャッシュを修復をクリックします。

アイコンのキャッシュとは、Windows により、かつて読み込まれたアイコンが将来いつでも使用できるように収納されているファイルです。このファイルにエラーが紛れ込むと、場合によってはすべてのアイコンが破損してしまいます。このエラーは、**AVG Styler**を使用すればすぐ修復することが可能です。

ただし、修復作業では再起動または再ログインが必要になることがあります。

10.7.11. 視覚スタイル

Windows 8 ではこの機能が利用できないことにご注意ください。

ここでは、視覚スタイルが変更できます。視覚スタイルとは、Windows のウィンドウとボタンの外観を定義したものです。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはダッシュボード内の**カスタマイズする**カテゴリーから、**Windows の外観を変更する**の **Windows の外観をカスタマイズする**エントリを選択します。

AVG Styler でウィンドウの左側にある**インターフェイス**の**視覚スタイル**をクリックします。

AVG Styler は利用できるすべての視覚スタイルのリストを表示します。右側にはプレビューとその他の詳細を、リスト上で選択された形で見ることができます。

新しい視覚スタイルはひとまずリストに追加し、その後最終的に適用します。これを実行するには次のオプションがあります：

AVGOnline から視覚スタイルをダウンロードする

左上の **視覚スタイル**にある **追加**をクリックします。

AVG Online から**視覚スタイルをダウンロードを選択します。**

これにより、多くの視覚スタイルが選べるウェブサイトにアクセスし、ここから無料でいつでもダウンロードできます。

特に気に入った視覚スタイルを選び、クリックしてください。

その画面が自動的に**AVG Styler**と同時に開き、リストに追加されます。

視覚スタイルをファイルから追加する

左上の **視覚スタイル**にある **追加** をクリックします。

ファイルから視覚スタイルを読み込むを選択します。

Explorer が開き、コンピュータまたは外部記憶媒体に保存されている視覚スタイルを選択することができます。標準的なファイル形式はほとんど**AVGStyler**で認識され、サポートされています：

種類	ファイルの拡張子	説明
AVG視覚スタイル	.TVS	AVG Styler の個別フォーマット
Microsoft Visual Styles	.MSSTYLES	この Microsoft フォーマットには、たいてい同じフォルダレベルやサブフォルダ内にあるその他のファイルが含まれています。
圧縮されたアーカイブ	.RAR, .ZIP	アーカイブファイルではリストされているファイルの種類のすべてが検査され、場合によっては自動的に解凍されます。
自己解凍型アーカイブ	.EXE	このファイルは、ファイルの種類の特徴に従って圧縮アーカイブが扱われる、RAR か ZIP フォーマットで保存されているアーカイブの検査がおこなわれます。

新しい視覚スタイルを選択し、名前を付けます。ファイルはその名前で**AVG Styler**リストに表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。追加した視覚スタイルがリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しい視覚スタイルが気に入らなくなった場合は、いつでも Windows 既定の画面に戻すことが可能です。

デフォルトに戻すボタンをクリックします。

既定値の視覚スタイルはそれに基づいて自動的にリストから選択され、プレビューもそれに応じて変更されます。

適用するをクリックしてください。

視覚スタイルをプレビューするにはリストから選択します。

適用するをクリックしてください。

AVG Styler によって、新しい視覚スタイルの適用処理が行われる間、一時的に画面が暗くなります。ほんの短時間、画面が暗くなった後、Windows システムが装い新たに表示されます。

視覚スタイルの削除

視覚スタイルを完全にコンピュータから削除したい場合は、それを選択して**削除**をクリックしてください。

10.8. Windows の設定を変更する

ダッシュボードの**すべての機能**へ進み、**Windows** の **Modify Windows settings** を選択し、**AVG System Control** を起動します。

AVG System Control ウィンドウの左側に、設定オプションを含むさまざまなカテゴリが表示されます。

各カテゴリはサブカテゴリに分かれています。サブカテゴリをクリックすると、右側に設定オプションを含んだタブが表示されます。

そこには、すべての設定オプションについての詳しい情報が、カテゴリ別にウィンドウの左側に表示されています。

ディスプレイ

ここでは Windows の視覚効果の詳細設定およびファイルの種類の扱いに関する設定、またフォルダウィンドウとエクスプローラの外観と動作の設定が実行できます。

ここでは、設定オプションの詳細な説明がサブカテゴリに分類されてウィンドウ左側に表示されます :ディスプレイ

操作

マウスとキーボードの設定、スタートメニューの要素やサブメニューを開く速度、タスクバーの外観と動作の設定を行うことができます。

ここでは、設定オプションの詳細な説明がサブカテゴリに分類されてウィンドウ左側に表示されます :操作

通信

このカテゴリでは、ネットワーク上の Windows の動作を設定でき、Internet Explorer や Outlook Express、Office Outlook などをニーズに合わせてカスタマイズ、Web上のサーフィンをスピードアップ、プライバシーを保護、そして特定のプログラムが自動的にユーザーの検索習慣を自動的に送信するのを阻止することなどができます。

ここでは、設定オプションの詳細な説明がサブカテゴリに分類されてウィンドウ左側に表示されます :通信

管理

AVG System Control のこのカテゴリを使用すると、システム内の多数の設定を管理できます。例えば起動プロセスやユーザー ログオンをカスタマイズし、CD の自動再生やシステム パス、ユーザー情報を設定し、またコマンドプロンプトのデフォルト設定もカスタマイズすることができます。

ここでは、設定オプションの詳細な説明がサブカテゴリに分類されてウィンドウ左側に表示されます :管理

ウィザード

ここに **設定をコピー**する] のウィザードがあります。 このウィザードは、ユーザーの設定を他のユーザー アカウントや Windows のログオン画面にコピーします。 ウィザード

10.8.1. ディスプレイ

アニメーションと効果

効果

ここでは Windows インターフェースの表示と操作方法に関連した設定を変更できます。

設定 のセクションでは、多数のオプションが一覧になっており、これらをチェックボックスで有効あるいは無効にすることができます。

それぞれのオプションの詳細を見るには、オプションをマウスで選択します。[**説明**] の項目では、数行の説明文が表示されます。

不要な効果をオフにすると、システムの性能によっては処理速度が高まることがあります。Windows で優れた視覚的表示を行うすべてのオプション選択するには、[**デザインを優先**] をクリックします。パフォーマンスを重視する場合は、[**パフォーマンスを優先**] をクリックします。[**デフォルト設定**] を選択すると、Windows のデフォルト設定に戻すことができます。

アニメーション

[**ウィンドウおよびメッセージのアニメーション**] の項目では、ウィンドウまたは Quickinfo をアニメーションで表示するかどうか指定します。 ここでは、ウィンドウを最大化や最小化するときにアニメーションをオンにすることができます。

[**Quickinfo にアニメーションを使用する**] がオンの場合、選択肢のリストで希望する効果を選択できます。

[**要素のアニメーション**] の項目では、どの表示要素とコントロール要素の場合にスクロール動作と開く動作をアニメーションにするかを指定できます。**リストビューと&ツリービュー、リストボックス**および**ドロップダウンリストの 3つのオプションを切り替えられます**。

一目を引く効果を生むにすぎないオプションをすべてオフにするには、[**パフォーマンスを優先**] をクリックします。[**デフォルト設定**] を選択すると、Windows のデフォルト設定に戻すことができます。

メニュー外観

[**アニメーション**] の項目では、メニューを表示した後でメニュー項目を非表示にするかどうかを指定できます。また、一覧の中から表示効果を選択できます。

効果 のセクションでは、Windows のフラット 2D メニューを使用するか、開かれたメニューの下側に 3D のドロップシャドーを表示するかどうかを選択できます。

フォント スムージング

ここでは、コンピュータの画面で文字を読みやすくするために、好みのフォント スムージングを選択できます。特に注目のスムージングの種類は、[**ClearType**] です。これは、フラット画面モニタ（TFT、LCD）に最適で、いわゆる「サブピクセル」を利用して小さな文字でも効果的にスムージングします。ClearType スムージングをディスプレイに合わせて最適に設定するには、**ClearType** を選択し、**ClearType の設定** をクリックします。

ファイルの種類

メニュー操作

ドライブおよびフォルダのセクションでは、そのコンテキストメニューを設定します。

[**"Open Command Prompt Here" を表示する**] の項目では、任意の場所でコマンド プロンプトを開くことができます。コマンド プロンプトでは、DOS コマンドが実行できます。

[**ファイルとフォルダ**] の項目では、ファイルとフォルダのコンテキスト メニューに表示するコマンドを指定できます。ここでは、**次の場所に送る**、**フォルダに移動**、**フォルダにコピー**、**暗号化**、**復号**の 4 つのコマンドを表示できます。すでに有効なコマンドは、チェック ボックスがオンになっています。

デフォルト設定で、Windows の設定をデフォルトに戻すことができます。

メニュー「新規作成」

ここではデスクトップ、エクスプローラ、および [保存] ダイアログでコンテキスト メニューの [**新規作成**] サブメニューに表示するファイルの種類を選択できます。チェックボックスを使用して、どのファイルの種類を表示するかを設定できます。

[**削除**] を選択すると、選択した項目が一覧から完全に削除されます。他のファイルの種類をリストに追加するには、[**追加 ...**] を選択します。

[**オプション**] の項目では、デスクトップおよびフォルダ ウィンドウの空白部分で表示できるコンテキスト メニューに [新規作成] メニューを表示するかどうか指定できます。

ファイルを開く

ここでは、不明な拡張子を持つファイルを開く際の Windows の動作を選択できます。[**デフォルト アプリケーション**] の項目では、[プログラムから開く] ダイアログを表示するか、または特定のプログラム（メモ帳など）でファイルを自動的に開くかを指定できます。特定のプログラムで開く場合は、希望するプログラムの実行可能ファイル名（notepad.exe など）をボックスに入力します。また、**変更**でプログラムを選択することもできます。

アドバンス

ここでは、新しく作成したショートカットを自動的にショートカットとしてマークするかどうかを指定できます。Windows XP では、ショートカットには既定により「へのショートカット」というテキストが付き、Windows Vista と 7 では、「～のショートカット」という既定のテキストがショートカットの名前の後に付きます。

また、Windows XP では**Windows 画像と FAX ビューア**のセクションもあり、画像や FAX ファイルをダブルクリックしたときに、Windows 画像と FAX ビューアに自動的にロードするかどうか選択できます。

フォルダ オプション

表示

ここでは、フォルダ ウィンドウとその中の要素をどのように表示するかを指定します。

ウィンドウのセクションでは以下の項目を指定します。

- （Windows XP）フォルダ ウィンドウに常にディレクトリのツリー ビューを表示するかどうか、最後に開いたフォルダ ウィンドウをログオン時に復元するかどうか、圧縮された ZIP アーカイブをフォルダとして表示するかどうか、詳細バーを表示するかどうかを指定します。
- （Windows 7）フォルダ ウィンドウに常にメニュー バーを表示するかどうか、圧縮された ZIP アーカイブをフォルダとして表示するかどうか、詳細バーを表示するかどうかを指定します。
- （Windows Vista - Windows 7 と同じオプションに加えて）最後に開いたフォルダ ウィンドウをログオン時に復元するかどうかを指定します。

表示設定（Windows XP のみで使用可能）スライド調節により、保存するフォルダ ビューの数を設定できます。

リスト

ここでは、フォルダ ウィンドウでの追加情報の表示をカスタマイズできます。

詳細情報のポップアップのセクションでは、フォルダ ウィンドウのファイルやフォルダの上にマウス ポインタを置いた際に、詳細情報を示すバルーンを自動的に表示するかどうかを指定できます。

アイコンの整理セクションでは、フォルダ内のファイルをアルファベット順だけで並べ替えるか、数値順とアルファベット順に並べ替えるかを指定します。

[**暗号化・圧縮されたファイル**] の項目では、暗号化されたファイルと圧縮されたファイルが特定の色で表示されるように設定できます。デフォルトでは、圧縮されたファイルは青、暗号化されたファイルは緑色で表示されます。

Windows XP とWindows Vista では、**編集**ボタンを使用し、必要に応じて色の割当を設定できます。

サムネイル（Windows XP のみ）

Windows では、フォルダ内にサムネイル画像を表示できます。これは写真のコレクションなどの場合に適しています。ここでは、これらのプレビュー画像のサイズと画質を指定します。標準のサイズは 96ピクセルです。これとは異なる任意の値を入力することも可能です。画質は、スライダーを使用して指定します。

画質が高いほど、サムネイルは多くのメモリ領域を占めます。[**キャッシュ**] の項目では、サムネイルを THUMBS.DB というファイルに一時的に保存するどうか指定します。これらのファイルも同様にフォルダに置かれ、その後サムネイルを特に迅速に読み込むのに役立ちます。

選択

ここでは、フォルダ ウィンドウで使用する選択範囲の色を設定できます。複数のファイルを同時に選択した場合、選択範囲はマウス ボタンで連続してクリックしたのと同じ状態で表示されます。

また、Windows Vista とWindows 7 では、要素を選択するためのチェック ボックスを表示して、Ctrl キーや Shift キーを使わなくても、マウスで選択して複数のファイルおよびフォルダを選択できるようにするかどうかも指定できます。

アドバンス

ここでは**デスクトップ**と**コンピュータ**（または Windows XP では**マイコンピュータ**）にどの要素を表示するかを指定します。簡単にドライブ自体を非表示にしたり、Windows エクスプローラや Internet Explorer、[ファイル名を指定して実行] ダイアログにある**アドレスバー**の動作を設定したりできます。

10.8.2. 操作

入力オプション

マウス機能

[**マウス ボタンをスワップ**] の項目では、マウスの右ボタンと左ボタンを切り替えることができます。切り替えると、右ボタンがクリック用になり、左ボタンでコンテキスト メニューが開きます。

現在ではホイール付きのマウスが多くなっています。Microsoft IntelliMouse や類似モデルのマウスに合わせて、[**スクロール ホイール**] の項目でホイールを使用した操作を指定できます。標準の設定は 3行単位のスクロールです。スクロールする行数や画面数を変更したり、スクロールをオフにしたりできます。

ポインタを自動設定 のセクションでは、ダイアログ ボックスが開いたときに、強調されたボタンをすぐ押せるようにマウスポイントがそこへ移動するよう設定できます。

マウスの感度

ダブルクリックとドラッグ のセクションでは、ダブルクリックの際にどのくらいマウスを動かせるか、どのくらいまでマウスを動かすとオブジェクトのドラッグを開始できるかを指定できます。値の単位はピクセルです。

ヒント :テスト アイコンを使って新しい設定を試してみましょう。

[**ホバリング効果**] の項目では、ホバリング効果を表示するのに必要なマウス ポインタの滞留時間と移動の許容範囲を変更できます。この効果は、マウス ポインタが特定の時間アイテムの上に置かれたときに起動します。

ヒント :この設定もテスト アイコンで試すことができます。このアイコンはマウス ポインタがその上で止まると点灯します。

アクティブ ウィンドウ トラッキング

これはあまり知られていない Windows の機能ですが、ウィンドウでの操作を一変させる可能性があります : **アクティブ ウィンドウ トラッキング**。

この機能をオンにすると、アクティブではないウィンドウの上にマウス ポインタを動かすだけでそのウィンドウがアクティブになり、そのプログラムで作業できる状態になります。つまり、ウィンドウをアクティブにするためのクリック操作が不要になります。

前景 のセクションにあるこのオプションをオンにすると、すぐにアクティブなウィンドウが手前に表示されるようになります。

キーボード

[**カーソルの点滅**] の項目では、データを入力する場所 (テキスト編集プログラム内など) でカーソルの点滅の仕方を設定できます。

ヒント :現在の設定の右側に表示される小さなプレビューで、変更を確認できます。

点滅の頻度を指定するには、スライダーを使用します。必要に応じて、**カーソルの幅** も、任意の値をピクセル単位で入力して設定できます。

最近のキーボードは、Windows のロゴが付いた特別な Windows キーを備えています。Windows キーを

使うと、Windows のスタートメニューを開くだけでなく、他のキーとの組み合わせにより特殊機能が実行できます。たとえば、Windows + M キーですべてのウィンドウを最大化したり、Windows + E キーでマイコンピュータ（Windows Vista 以降ではコンピュータ）を表示したりできます。

これらのショートカットキーが必要でないか、あるいはキーの配列のために時々間違って押してしまう場合は、このオプションをオフにします。

スタートメニュー（Windows 8 では利用できません）

一般

[**メニューの速度**] の項目では、マウスポインタをメニュー項目に重ねると同時にサブメニューが自動的に開くようにするか、またはクリック操作も必要とするかを指定します。さまざまなオペレーティングシステムの間には大きな差があるので、ここで明確に立ち入っておきます。

Windows XP:

マウスポインタを重ねたときにメニューを「表示する」ことを選択した場合は、メニュー項目にポインタを重ねてからメニューが開くまでの時間を設定できます。

[**ユーザー**] の項目では、スタートメニューの上部にユーザー名を表示するかどうかを指定できます。[**シャットダウン**] ボタンに加えて、ユーザーを切り替えるための [**ログオフ**] ボタンを表示または削除することもできます。

Windows 7:

[**セッションの終了**] の項目では、セッションを終了するボタンをクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。デフォルトでは、コンピュータが**シャットダウン**されます。

休止状態と電力節約モードでは、開いているすべての文書とプログラムを含めて、現在の状態が維持されるため、再びコンピュータのスイッチを入れた後で、中断したところから作業を続けることができます。電力節約モードでは少量の電力が必要なのに対し、休止状態ではコンピュータに電力はまったく供給されません。しかし、休止状態の切替にははるかに長い時間がかかります。

あるいは、コンピュータの再起動、コンピュータのロック、現在のユーザーのログオフ、またはユーザーの切り替えの機能をこのボタンに割り当てることもできます。ユーザーの希望に基づいて決定してください。

アップデートをインストールする準備が整ったときは、このボタンには一時的に**コンピュータをシャットダウンする**機能が割り当てられます（アップデートがインストールされるまで）。これは、重要なプログラムの更新作業が忘れられないようにする措置です。

Windows Vista:

[**電源オフボタン**] の項目では、電源オフのボタンをクリックしたときに実行されるアクションを設定できます。デフォルトでは、コンピュータは**電力節約モード**に切り替わります。

それよりもコンピュータをすばやくシャットダウンしたい（または Windows Vista でこの機能がもともと用意されていない）場合は、**コンピュータをシャットダウンする**に設定してください。この選択を行うと、サブメニューを開いて [**シャットダウン**] を選択する手間が省けます。3つ目の選択肢は、PC を休止状態にすることです。

休止状態と電力節約モードでは、開いているすべての文書とプログラムを含めて、現在の状態が維持さ

れるため、再びコンピュータのスイッチを入れた後で、中断したところから作業を続けることができます。電力節約モードでは少量の電力が必要なのに対し、休止状態ではコンピュータに電力はまったく供給されません。しかし、休止状態の切替にははるかに長い時間がかかります。

最近使用された

デフォルト設定ボタンを使うと、Windows のデフォルト設定に復元できます。

Windows XP:

[**前回使用したファイル**] の項目では、スタート メニューの [**ドキュメント**] の項目に最近使用したファイルを表示するかどうか設定できます。また、表示する文書の数も指定できます。また、ログオフ時にリストが自動的に空になるようにも設定できます。

Windows Vista とWindows 7:

[**前回使用したファイル**] の項目では、スタート メニューの [**最近使用した**] の項目に最近使用したファイルを表示するかどうか設定できます。また、リストの内容を削除することもできます。

[**最近使用したプログラム**] の項目では、スタート メニューに最近使用したプログラムを表示するかどうかを指定できます。Windows Vista では、[**設定**] ボタンを使用して、スタート メニューに表示するプログラムを指定することもできます。既定では、最近使ったプログラムがすべて表示されます。

ショートカット

ショートカットの移動および編集のセクションでは、ショートカットの移動を可能にするかどうかが設定できます。

ここから**AVG Shortcut Cleaner** を起動することもできます。

アドバンスト（Windows XP のみ）

ここでは、**AVG Styler** モジュールを新しいウィンドウで起動し、Windows の外観をカスタマイズできます（フォルダとメニュー項目のアイコンを変更するなど）。

タスクバー

ボタンの点滅

テキストなどのコンテンツの入力中は、他のウィンドウをアクティブにすることはできません。タスクバーにあるアイコンが点滅し、他のソフトウェアがユーザーの操作を求めていることを示します。この点滅機能をオンにしておく場合は、[**タスクバー ボタンの点滅を有効にする**] オプションをオンにする必要があります。

[**点滅速度**] の項目では、タスクバーにあるボタンの点滅頻度を指定できます。選択できるオプションは 2 つあります：1つ目のオプションでは、タスクバーにあるウィンドウのボタンを、再度クリックされるまで点滅させておくことができます。2つ目は、ユーザーが設定した回数に点滅回数を限定します。ここでの基準値は 7 に設定されています。

全般のセクションでは、最後にキーを押してからその他のプログラムのウィンドウを再びアクティブにするまでの時間を設定できます。

ボタン表示

ここでは、タスクバーのボタンを使用してウィンドウを表示するか、そしてその場合はどのように表示するのかを指定することができます。

[**表示**] の項目では、ボタンの最大幅をピクセル単位で指定します。デフォルト値は 154 ピクセルです。[**アニメーションでボタンを表示する**] オプションをオフにすると、新しいウィンドウを開く際に対応するタスクバーボタンがアニメーション表示されなくなります。これにより、捕捉的なシステムパフォーマンスがその他のタスクへと回されます。

[**グループ化**] の項目では、1つのプログラムで複数のウィンドウを開いたときにそれを 1つのボタンでタスクバーに表示するかどうか、およびどのような場合にこの表示を行うかを指定できます。

Windows の最小化

プログラムのウィンドウを最小化すると、そのタイトルバーだけが自動的に画面下部に表示されることがあります。

[**位置と配置**] の項目では、これらのバーの正確な位置を設定します。デフォルトの設定は**左下**で、複数のバーが**左右に並んで**表示されます。

間隔のセクションでは、各バーの間隔をピクセルにて指定することができます。

アドバンス

通知は、重要なイベントについてユーザーに知らせるため、または使用されていないショートカットをデスクトップから削除することなど、さまざまなタスクの実行をユーザーに求めるために、タスクバー（時計の横）にしばしば表示されます。ここでは、バルーンに関するオプションを設定できます。

10.8.3. 通信

ネットワーク

マイ ネットワーク

ここでは、共通の表示にかかわるいくつかの設定を、ネットワーク環境にカスタマイズすることができます。たとえば、共有設定を行っていないのに、コンピュータが他のコンピュータのマイ ネットワークに表示されたり、（パスワードを使用して）コンピュータの全ドライブにアクセスされたりする事態を防ぐことができます。

アドバンス

セクション**ユニバーサル プラグ &プレイ** では、ネットワークデバイスを自動認識する Windows のサービスをオフにすることができます。この自動検出はセキュリティ上潜在的なリスクがあり、必要としなければ無効にしたほうがよいでしょう。

Quality of Service（**QoS**）サービスのセクションでは、Windows が必要に応じてインターネット接続帯域の一部を重要なパッケージのために確保するのを阻止することができます。常に帯域を確保したい場合は、オプションの**帯域を確保する**を無効にしてください。

パスワード（Windows XP のみ）

パスワードを保存するということは、インターネットまたは保護されている共有場所にアクセスする度にパスワードの入力が必要なくなります。ただし、ハッカーがアクセスしこれらのパスワードを悪用するおそれがあります。ここでは、それゆえ自動保存を阻止することができます。

インターネット時間

ここでは、コンピュータ時刻がインターネットを通じて時々電波時計と同期され、いつも実際の時刻を表示できるようにします。次のオプションを先にオンにしてください：**インターネット タイム サーバーと自動同期する**

利用できるタイム サーバーのセクションでは、広く知られている標準的タイム サーバーがいくつか挙げてあります。他のインターネット アドレスがわかっていれば、それらを**追加**をクリックして追加できます。

インターネット

ここでは、ユーザーのログアウト時における、既存のダイヤルアップ ネットワーク接続動作の設定とともに、Windows のファイア ウォールを無効にできます。

Windows XP では、インターネット接続のさまざまな詳細オプションを設定するために、**設定**ボタンをクリックすることもできます。

Internet Explorer

Explorer バー

ここでは Internet Explorer においてバーがどのような動作をするかを設定することができます。常に Google？の検索バーで検索し、アドレスバーにオートコンプリートを指定することができます。

表示

セクション**タイトルバー**では、Internet Explorer のタイトルバーにどのテキストが表示されるかを入力します。

お気に入り

ここではお気に入りのフォルダとその内容を表示または非表示にでき、不必要なフォルダを隠すことができます。ここではお気に入りフォルダの内容は表示されず、在るフォルダだけがリストされることにご注意下さい。さらに、フォルダは名前別に並べることができます。

メニュー

ここでは、Internet Explorer のメニューバーをカスタマイズし、**設定**ボタンによって、すべての Web サイトでマウスの右クリックで利用できるコンテキスト メニューに多くの有益なコマンドを追加できます。

ソース コードを表示のセクションでは、**ソース コードを表示**を選択した場合に Web サイトを Internet Explorer で開くか、あるいは例えば Windows のエディタ（notepad.exe）のような他のプログラムで開くかの設定ができます。

ナビゲーション

Web サイトの動作のセクションでは、リンクから呼び出した場合の Internet Explorer の動作を設定することができます。これにより、ポップアップやその他のプログラムで開かれたリンクを、現在のウィンドウ内の新しいタブで開くことができます。

セクション**スタートページ**では、Internet Explorer を起動した時、自動的にどのWeb サイトが表示されるかを指定できます。その際、複数のサイトを選ぶこともできます。**上へ**と**下へ**のボタンでページの順を変えることができます。

セキュリティ

ここでは、Internet Explorer のセキュリティ関連の設定を取り上げます。

ユーザー エージェント文字列のセクションでは、Internet Explorer がユーザーの訪れた Web サイトをどのように識別するかを指定することができます。

ダウンロードの確認では、特定のファイルタイプについてInternet Explorer がダウンロードを許可するかどうか指定できます。それらのファイルがダウンロードされる前に確認するようにするには、**ファイルのダウンロード前に常に確認**を選択します。

パフォーマンス

ここでは、インターネット接続の帯域幅に最適なプロファイルを設定します。**最大接続数**のセクションでは、どれだけの数のサーバー接続を確立できるか指定できます。

Mozilla Firefox

一般

ここでは、インターネット ブラウザの Mozilla Firefox 用に次の一般設定が可能です。

テキスト アニメーションのセクションでは、絶えず点滅したり、Web サイトの流れ文字バナーのような煩わしいテキスト効果をオフにすることができます。オプションの**点滅テキストを無効にする**と**スクロール テキスト（流れ文字）を無効にする**をオンにすることで、煩わしい効果を無効にすることができます。

エラー メッセージのセクションでは、Web サーバーへの接続時に生じたエラーについてのメッセージを、ウィンドウ（ダイアログ）として表示するか、それとも Web サイトのページとしてブラウザ ウィンドウに表示するかを設定することができます。

サイドバーの位置のセクションでは、サイドバーがブラウザのウインドウの右か左かのどちらに表示されるべきかを設定できます。既定の設定では、ブックマーク、履歴、ブラウザのダウンロードがサイドバーに表示されています。

操作

ここでは、Mozilla Firefox の操作について設定することができます。

アドレスバーのセクションでは、アドレスがアドレス バーに自動的にコンプリートされるように設定できます。つまり、アドレス欄に最初の 2,3 文字を入れただけで（このサイトを既に一度閲覧していることが条件ですが）、インターネット アドレスが自動的に完成されます。

Mozilla Firefox 2 以降でも同様に、ここでアドレスバーの横に**アドレスをロードする**のボタンを表示するかどうかを設定できます。

サブメニューの展開のセクションでは、マウス ポイントが上を通過したとき、サブメニューが自動的に展開するまでにどれだけかかるかを指定できます。

Windows

ここでは、Mozilla Firefox でポップアップ ウィンドウとリンクがどのように表示され、このポップアップ ウィンドウの表示にどの程度Web サイトへの影響を許すか設定できます。

リンクから開くのセクションでは、リンクをクリックした時内容を、現在のウインドウ、あるいは新しいウインドウで表示するか決めることができます。

Javascriptのセクションでは、**許可されたウィンドウ操作**で、ポップアップウインドウがWebサイトに現れるのを許す変更を制限できます。Webサイトの中には、ポップアップウィンドウのナビゲーションバーを隠し、メッセージウィンドウに見せかけようとするものもあります。ここではそれを禁止することができます。

タブ（Mozilla Firefox 2以降のバージョン）

ここでは、Mozilla Firefoxでタブの動作の設定をすることができます。

"閉じる"ボタンのセクションでは、タブを**閉じる**ボタンをどこに表示するかを設定できます。選択は4つの異なる位置から可能です。

最小幅のセクションでは、Mozilla Firefox 2以降、タブの最小幅を定めることができます。複数のタブが開かれている場合、各タブの幅はここで設定された最小幅まで自動的に縮小されます。さらに複数のタブが開かれると、現在表示されていないタブへとスクロールできるように、右側にスクロールバーが表示されます。

アクティブタブの色のセクションでは、**色で強調する**のオプションで、現在ブラウザでアクティブなタブをどの色で強調するかを定めることができます。**変更**ボタンをクリックし、アクティブなタブの端上下を強調する独自の色を選択してください。

パフォーマンス

ここでは、Mozilla Firefoxのパイプライン機能を有効にできます。このパイプラインとは、ブラウザが接続を介してWebサーバーに複数のダウンロード照会を一度に送信するという実験的な機能です。ただ、残念なことにすべてのWebサーバーからはサポートされていません。

Opera

タイトルバー

ここでは、Operaのタイトルとロゴの表示の設定ができます。

ウィンドウタイトルのセクションでは、**タイトル**フィールドでOperaブラウザのタイトルバーに表示されるテキストを指定します。**適用**または**OK**をクリックする際に入力フィールドが空白のままだと、既定のエントリ**Opera**が自動的に設定されます。

Operaアイコンセクションでは、Operaを示す赤い"O"の代わりにハードディスクにある別のアイコンを選択できます。このアイコンは、WindowsのタスクバーとOperaのアプリケーションウィンドウに表示されます。

選択したアイコンファイルが有効な場合、アイコンは直ちに表示されます。無効なファイルを選択すると、Operaの既定のアイコンが使用されます。

操作

ここでは、Operaを操作するための設定ができます。

Webアドレスのオートコンプリートのセクションでは、アドレスがアドレスバーに自動的にコンプリートされるように設定できます。つまり、アドレス欄に最初の2、3文字を入れただけで（このサイトを既に一度閲覧していることが条件ですが）、インターネットアドレスが自動的に完成されます。たとえば、1つの語のみが入

力されると、語の末尾に "net" や "com" などの上位レベルドメインが付加され、語の先頭に "www." が表示されます。この機能を無効にすると、Opera の動作が少し速くなります。

ソースコードを表示のセクションでは、Web サイトのコンテキストメニューから**ソースコードを表示**を選択した場合に、Opera の内部エディタ、または Windows のエディタ（Notepad.exe）など別のプログラムを使うべきかを設定できます。

パフォーマンス

ここでは、Opera 9 以降、標準として自動モードに設定されているクイックナビゲーションを、再びオンにすることができます。

自動モードを選べば、ブラウザ履歴をナビゲーション時に、"進む"／"戻る"のナビゲーションでページをキャッシュから読み込むか、あるいはWeb ページをその都度新たにダウンロードすべきかをブラウザに通知する、Web サーバーの設定が考慮されるよう設定できます。後者は、例えば多くのショップサイトの正常な機能に必要です。しかし、必要のない場合でもウェブサーバーからページを再度ダウンロードすることをサーバーが求めることがあります。

互換モードを選べば、ブラウザ履歴をナビゲーションする際に、サーバーのデフォルトに関わらず、サイトをブラウザのキャッシュからではなく、常にWeb サイトから新たにダウンロードするように設定できます。通常、この設定は不要であり、高速サーフィンのためには推奨できません。

クイックモードを選べば、すでにコンピュータに存在するWeb サイトをいつもキャッシュから読み込むように設定することができます。この方法には、進む/戻るナビゲーションの速度が急にまた非常に速くなるだけでなく、インターネット接続を介してロードする必要があるデータ量が少なくて済むという利点もあります。また、通常は、ブラウザ履歴をナビゲーション時のフォームフィールドへの入力が維持されます。けれども有効なサイトコンテンツで Web サイトが正しく機能するためには、Web サイトを定期的に手動で新たに読み込む必要があります（例えば、F5 キーで）。

検索

Opera が一般にそしてクイック選択においてどの検索エンジンを使うべきか、またクイック選択はどのように表示されるべきかを設定することができます。

既定の検索エンジンのセクションでは、Opera がどの検索エンジンを使うかを設定できます。既定の検索エンジンは、検索フィールド、アドレスバー、選択されたテキストのコンテキストメニューの [検索]、およびアドレスバーへの複数語の入力において、自動的に選択されます。

クイック選択の既定検索エンジンのセクションでは、クイック選択サイト（スピードダイヤル）の新しい空白のタブに既定で表示される検索エンジンを変更することができます。

メールおよびチャット

Outlook Express（Windows XP のみ）

ここではアプリケーションのタイトルバーに表示されているフォントを変更できます。また、アプリケーションの起動時にスプラッシュ画面を表示するかどうかも指定できます。

ここではメールに添付された実行ファイルをブロックするセキュリティ機能も管理できます。このブロックを煩わしく感じる場合はこの機能を単にオフにします。しかしながら危険な添付物をクリックして、ウィルスがアクティブになることもあるのでご注意ください。

Windows Mail（Windows Vista のみ）

ここではアプリケーションのタイトルバーに表示されているフォントを変更できます。また、アプリケーションの起動時にスプラッシュ画面を表示するかどうかも指定できます。

ここではメールに添付された実行ファイルをブロックするセキュリティ機能も管理できます。このブロックを煩わしく感じる場合はこの機能を単にオフにします。しかしながら危険な添付物をクリックして、ウィルスがアクティブになることもあるのでご注意ください。

Office Outlook（Windows 7 のみ）

Outlook を最小化するのセクションでは、Outlook 2003/XP でウィンドウを最小化する際に、アイコンをタスクバーか、あるいはタスクバーの通知領域（時計の隣）のどちらに配置するかを選択できます。通知領域を選択した場合、オプションの **Outlook を通知領域に最小化する**オプションがオンになります。

メール添付ファイルのセキュリティのセクションでは、**設定**ボタンをクリックしてウィンドウを開き、自動的にブロックされる添付ファイルの種類を指定できます。

Windows Messenger（Windows XP のみ）

実行のセクションでは、Windows Messenger を自動的に実行するか、そしてそれはどのようなイベントの際かを指定できます。Windows Messenger の実行をまったく許可しない場合は、オプションの**Windows Messenger の実行を許可しない**を選択してください。

また、Windows Messenger をまったく使用しない場合は、システムから完全に取り除くことも可能です。これには、単に**アンインストールのオプションを使います。**

プライバシー

一般

ここでは、コンピュータでの作業の際の、プライバシーとセキュリティのために重要な設定を行うことができます。

Windows の自動更新のセクションでは、Windows を自動的に Microsoft と接続が確立してよいかどうか、設定することができます。オプションの **Windows 自動更新を有効にする**がオンになっている場合、Windows はインターネット接続が確立されると、自動的に Microsoft サーバーと連絡を取り、システムへの更新の有無を確認します。

Windows が使用可能な更新をインターネットから取り込む前に許可を求めさせるには、オプションの**更新をダウンロードする前に通知する**をオンにしてください。

足跡を消去

ここでは、ドキュメントでの作業やインターネットサーフィンの際に、足跡を消去するよう設定することができます。

履歴の一覧を削除のセクションでは、**今すぐ削除**をクリックすれば、スタートメニューの最近開いたファイルのリストを削除することができます。

ブラウザを閉じ次第 Web ブラウザのキャッシュを消去すべきであれば、**Internet Explorer のキャッシュを消去する**のセクションで、オプションの**Internet Explorer キャッシュを終了時に空にする**をオンにします。

これはなるべく、ユーザーのセキュリティ意識が非常に高く、キャッシュにあるデータによって第三者にインターネットでの作業情報を再生されたくない場合のみ、使用してください。

Internet Explorer

ここでは、ユーザーのプライバシーに関して、セキュリティの設定をすることができます。

組み込まれた SmartScreen フィルタのセクションでは、**SmartScreen フィルタ**を有効にして、アクセスしたウェブサイトが疑わしいサイトや既知の詐欺サイトでないかどうか、Internet Explorer が必ずチェックするよう設定することができます。

セクション **組込まれた Windows 認証**では、**組込まれた Windows 認証をオフにする**のオプションを有効にして、Internet Explorer が Windows 認証によって自動的にインターネット サイトにログオンしないように指定することができます。

Windows Media Player

ここでは、プライバシーに重要である Windows Media Player の設定を行うことができます。

Windows Media Player はインターネットと頻繁に交信します。**設定**のセクションでは、前回かけたメディアファイルのリストも再生メディアあるいは音楽ファイルについての情報も保存されないように指定することができます。**高度のセキュリティ**のボタンをクリックすると、すべてのオプションがまとめてオンになります。

詳細のボタンをクリックすると、Windows Media Player のためのデータ保護設定へ移動します。ここでは、スクリプト コマンドの実行をブロック、自動的ライセンス取得を阻止、コーディック自動的ダウンロードを無効化、インターネット サイトによるプレイヤーの識別を阻止することができます。

アドバンス

ここでは、プライバシーのためのその他の設定ができます。

ページング ファイルのセクションでは、**"メモリの管理 "へ移動**をクリックして、システムのシャットダウンの際に、Windows ページング ファイルを自動的に削除するように設定することができます。

インターネット時間のセクションでは、Windows システム時計のインターネットの時計との自動同期をオフにすることができます。

エラー報告のセクションでは、Windows がクラッシュ時にPC システム設定とともに Microsoft へエラーを報告するかどうかを定めることができます。**エラー報告**のボタンから様々な報告を開き、クリックして無効にすることができます。

10.8.4. 管理

ユーザーのログオン

一般

Windows XP:

ここでは、「ようこそ」画面またはログオン プロンプトのいずれかを選択できます。Windows XP のデフォルト設定は「ようこそ」画面です。この画面には利用可能なユーザー名の一覧が表示され、マウスをクリックして選択できます。あるいは、[**以前のログオン ダイアログを使用する**] オプションを選択できます。この場合は安全性の高いログオン プロンプトが表示され、ログオン情報の詳細を手動で入力する必要がありま

す。

また、ログオン画面の動作や外観に関連するその他のオプションを指定することもできます。

Windows Vista とWindows 7:

ここでは、ログオン画面およびログオン プロンプトの動作と外観を調整できます。**カスタマイズ** のボタンをクリックし、個々のオプションを設定します。

自動ログオン

ユーザーは、システムへのログオン操作を省いて、自動的にログオンされるように設定することができます。これを行う場合は、[**自動ログオンを有効にする**] オプションを選択し、下のプレースホルダにユーザーのログオン情報を入力します。

セキュリティのセクションでは、Shift キーでログオンのスキップを許可するか、しないかを指定します。また、ログオフ直後に再びログオンするよう システムを設定することもできます。

メッセージ

[**ログオン前に通知する**] 項目では、すべてのユーザーに対し、ログオンする前に表示される通知を設定できます。例えば、勤務時間中にインターネット閲覧をしないようにという上司からの注意事項などです。この設定を行うには、まず [**ログオン前にメッセージを表示する**] オプションを有効にし、次に通知の件名と本文を入力フィールドに入力します。

ログオンとログオフ時の診断 のセクションでは、オンにすると、ログオンとログオフのプロセスで詳細なステータス メッセージを表示することができます。

ツアー（Windows XP）

初めてのユーザーは、システムの起動後に Windows XP のツアーに参加できます。このツアーでは、Windows XP のすべての重要なモジュールがユーザーに紹介されます。システムの起動後にこのツアーが起動しないようにする場合は、[**ログオン後に Windows ツアーを表示する**] オプションの選択を解除します。[範囲] の項目では、このオプションを現在のユーザーのみに適用するか、またはすべてのユーザーに適用するかを指定できます。

ウェルカム センター （Windows Vista） /はじめに （Windows 7）

新規ユーザーに対しては、システムの起動時に**ウェルカム センター**（Windows Vista の場合）または [**はじめに**] ウィンドウを表示できます。これは、システム設定を容易にすると同時に、インターネット上の詳細情報とプロモーション情報へのリンクを表示することを目的としています。ここでこれらの表示をオンやオフにすることができます。

ドライブ

一般（Windows XP のみ）

ここではハード ドライブに関するいくつかの設定を行います。例えば、ドライブへのアクセスの高速化が可能な UDMA66 サポートを有効にできます。

[**NTFS ファイル システム**] の項目では、Windows の新しい NTFS ファイル システムに関連する次の 2つのオプションが設定できます :[**ファイルに最後にアクセスした日時を保存する**] および [**短い （DOS）ファイ**

ル名を保存する] です。これらのオプションを無効にすると、ハードディスクのデフラグの効率と、旧式ソフトウェアとの互換性に対してマイナスの影響を与えるため、両オプションを有効にしておくことを推奨します。

メモリの容量

ドライブ上の使用可能なディスク領域が残り少なくなると、Windows は自動的に警告音を鳴らします。この警告を表示したくない場合は、ここでオプション**ディスク容量が少ない時に警告を表示**を無効にすることができます。

自動再生

[**メディア交換の監視**] の項目では、[CD ドライブでのメディアの取り替えを監視する] **オプションをオンにできます。** オンにすると、CD ドライブは Windows によって監視されます。新しいディスクが挿入されると Windows はこれを読み取り、その内容を自動的に起動しようとします。

自動再生のセクションでは、**詳細**をクリックしてウインドウを開き、音楽 CD などさまざまなドライブの再生を設定することができます。

アドバンス

[**AVG Styler**] の項目では、[**AVG Styler を起動**] をクリックしてモジュールを呼び出し、それを使って個々のドライブのアイコンを変更することができます。

[**AVG Drive Defrag**] の項目では、[**AVG Drive Defrag を起動**] をクリックし、ドライブのデフラグを行ってドライブ上のファイルを最適な状態に整理するモジュールを開くことができます。

コンピュータ（Windows XP では**マイコンピュータ**）のセクションでは、**設定**をクリックして、Windows の（マイ）コンピュータにあるどのドライブを表示させるかを指定できます。

メモリとキャッシュ

メモリの管理

ここでは物理メモリと仮想メモリの管理の設定を扱います。

[**仮想メモリ**] の項目では、必要な場合にドライバおよび Windows システムコアの置き換え可能にするか、または常に RAM に保存しておくかを指定できます。

[**ページング ファイル**] の項目では、**AVG PC TuneUp** が Windows のページング ファイルの内容を常に「0」で上書きし、システムのシャットダウン時に削除されるように指定できます。

[**推奨**] をクリックすると、**AVG PC TuneUp** により推奨される設定が承認されます。

メモリ使用率

ここでは、プログラムかあるいはシステム キャッシュのためにコンピュータはメモリを確保するべきかを指定することができます。

アドバンス

ここで該当するボタンをクリックすると、**AVG StartUp Manager** および **AVG Process Manager** モジュールに移動し、システムの起動を設定したり、実行中のプログラムを管理したりできます。

スタート アップおよびメンテナンス

システム スタート アップ

ここでは、システム起動の際の Windows の処理や動作に関する一般設定を行うことができます。

[**ブート デフラグ**] の項目では、[**ブート デフラグを有効にする**] オプションを有効にして、起動に必要なファイルをハードディスクに整理し、それらを特に迅速に見つけ出せるようにすることができます。

[**ブート ロゴとエラー メッセージ**] の項目では、[**オリジナルのブート ロゴとエラー メッセージを非表示にする**] オプションを有効にして、起動プロセス中に Windows がブート ロゴだけでなく、エラー メッセージの表示も行わないように指定することができます。

[**ディスク スキャンの待機時間**] の項目では、ユーザーが検査プログラム CHKDSK を実行するかどうか決めるまでの待機時間を設定できます。このプログラムは、コンピュータがその前に正常に終了しなかった場合自動的に開始され、ハードディスクにあるデータに破損がないかどうか点検します。

終了（Windows XP のみ）

ここでは、個々のプログラムがクラッシュした場合の Windows の動作を指定します。

[**応答なしの待機時間**] の項目では、応答を表示するためにシステムがプログラムに認める時間を、ミリ秒単位で指定できます。プログラムは、タスクマネージャで、またはコンピュータのシャットダウン時に強制終了されます。

プログラムを自動的に終了するのセクションでは、アプリケーションを自動的に終了するか、あるいは**プログラムを終了する**のダイアログを表示するかを設定することができます。

デスクトップとタスクバー

ここでは、デスクトップとタスクバーの安定性に関しての設定ができます。

[**別々のプロセスでのデスクトップとタスクバー**] の項目では、[**デスクトップとタスクバーを別々のプロセスで実行する**] オプションを有効にして、エクスプローラがクラッシュした場合のシステムの安定性を高めることができます。これにより安定性が高まりますが、8 MB の追加ディスク領域が必要です。

[**デスクトップとタスクバーを自動的に再起動する**] の項目では、提供されているオプションを有効にして、デスクトップとタスクバーがクラッシュした場合に、両方のモジュールが自動的に再起動するように設定することができます。これで引き続きシステムの操作ができます。

エラー

ここでは、エラーの場合システムの措置方法を設定できます。

[**音によるエラー メッセージ**] の項目では、[**エラーを音で知らせる**] オプションを有効にし、エラー メッセージや間違った入力の際に音を出すように指定することができます。

[**システム エラー**] の項目では、重大なシステム エラーのためにシステムが停止した場合の対策を対処方法をドロップダウン リストから選択できます。また、そのイベントをシステム ログに記録するかどうかも指定できます。

[**エラー報告**] の項目では、Windows がクラッシュした後、Microsoft にエラー報告を送信するかどうかを指

定できます。その際エラー情報とともにお使いのシステムの情報も送信されます。

システム

一般

[**Windows のユーザー登録**] では、Windows の現在のバージョンを登録したユーザーの名前と会社名を変更できます。この場で、お使いの Windows ライセンスのシリアル番号あるいはプロダクトIDも読み取ることができます。

[**Windows インストーラ -ユーザー情報**] の項目では、新しいソフトウェアのインストール時にユーザー情報に自動的に入力されるようにするユーザー名と会社名を入力します。

[**サポート情報**] の項目では、[**設定**] ボタンを使用して設定ウインドウを開き、システム プロパティに表示される情報を変更できます。

共通のダイアログ

ここで、ファイルを開いたり保存する際の共通のダイアログの外観を設定できます。

[**ファイル名**] の項目では、一般的なダイアログに、1つの入力フィールドではなく、最近使用したファイル名を含む選択フィールドを表示するかどうかを指定できます。

Windows XP では、**フォルダ ナビゲーション**を選択し、共通のダイアログで操作を簡単にするために、どのナビゲーション要素を表示するか指定できます。また、[戻る] ボタンを表示するかどうか、および一般的なダイアログの左側にナビゲーション バーを表示するかどうかも指定できます。

検索（Windows XP のみ）

ここでは、検索ダイアログの画面スタイルと動作を定義できます。

インデックス サービスを無効にするのオプションでは、アイドル時に自動的に実行されたドキュメントのカタログ化が、インデックス サービスによって阻止されます。

[**エクスプローラのクラシック検索を使用する**] オプションをオンにすると、検索ダイアログが最新のスタイルではなく、クラシックなスタイルで表示されます。

検索されたファイルの種類 のセクションでは、**ファイルの種類** のボタンを使い、どの種類のテキスト ファイルで特定の内容を検索するかを指定できます。

特別フォルダ

ここでは、「マイ ドキュメント」などの特殊フォルダのリンク先の物理的パスを指定します。あらかじめ設定されたパスを選択して**変更 をクリックし、希望に応じてカスタマイズしてください。**

コマンド プロンプト

ここでは、コマンド プロンプトの外観とリアクションを指定する設定ができます。

完了 から、ファイルおよびフォルダ名にどの組合せを使用するかを指定できます。

詳細設定 のセクションでは、**詳細** のボタンをクリックして、視覚的表現やコマンド プロンプトの起動フォルダ

を指定するウインドウを設定できます。

セキュリティ

ユーザー アカウント制御（Windows Vista とWindows 7 のみ）

ユーザー アカウント制御（User Account Control）機能を用いると、未承認の変更は一切コンピュータに加えられないようになります。この機能では、システムに変更を加えることができる管理者権限を持っているかどうかをユーザーに確認します。ユーザー アカウント制御をオンにした場合、通常のユーザーがシステムに変更を加えようとすると、管理者パスワードの入力が要求されます。

ここでは、コンピュータに変更が加えられようとしていることを、管理者としてログオンしているユーザーに通知し、その確認を求める方法を指定できます。

このようにして、Windows はユーザーが自ら行う変更（例えばセキュリティ関連の設定）と、変更を実行できるプログラムの起動とを区別します。ここでは、どの変更の場合に承認を請求するか、パスワードの入力が必要かを詳細に設定することができます。

その際、セキュリティのために必須である設定に関わるので、ユーザー アカウント制御を有効にしたままで、少なくとも**パスワード入力なしで承認を請求**（Windows Vista の場合）あるいは**プログラムによる変更の場合は、パスワード入力なし**（Windows 7の場合）の行動を選択してください。

ユーザー アカウント制御の目的の一つは、ユーザーが気付かないうちにバックグラウンドでプログラムが起動するのを防ぐことです。Windows は、プログラムが起動するたびに、そのプログラムによってコンピュータに変更が加えられる可能性があるかどうか確認します。その可能性があり、ユーザー アカウント制御が有効な場合は、プログラムの起動を管理者が確認するよう求めるダイアログが表示されます。この機能は、不明な（そして不要である可能性のある）アプリケーションが、ユーザー自身の操作によらずに起動した場合の重要なセキュリティ手順です。

セキュリティー センター（Windows Vista）/メンテナンス（Windows 7）

セキュリティー センターあるいは Windows 7 でいうメンテナンス センターは、バックグラウンドで定期的にコンピュータのセキュリティ状態を点検し、セキュリティに問題の可能性があると警告を発します。

コンピュータにこの警告が誤って表示された場合や、基本的にセキュリティセンターやメンテナンス センターからの警告表示を希望しない場合は、この警告をここでオフにすることができます。

アドバンス

[**スクリーンセーバーのパスワードの確認**] の項目では、パスワード保護がアクティベートされるまでの、スクリーンセーバーの作動時間を指定できます（このオプションが有効な場合）。デフォルトの値は 5秒です。

10.8.5. ウィザード

このカテゴリには**設定をコピー**のウィザードがあります。このウィザードは、ユーザーの設定を他のユーザーアカウントや Windows のログオン画面にコピーします。

設定をコピー

AVG System Controlを使って、視覚とシステムの動作に関する数多くの設定をユーザーの希望にそって行うことができます。ただ、残念なことに通常この設定は現在のユーザー アカウントにしか適用されません。

設定をコピーのウィザードを使って、ユーザーの設定をその他のユーザーアカウントや Windows のログオン画面にコピーすることが可能です。

ウィザードにより、コピー可能な設定の一覧が作成されます。一覧から設定を選択し、**次へ**をクリックしてください。

選択した設定のコピー先を選ぶことができます。ターゲット（選択した設定によります）はログオン画面です。複数のユーザーをセットアップしている場合、その他のユーザーはコピー先候補として表示されます。希望のターゲットを選択して**次へ**をクリックすると、コピーのプロセスが開始します。

コピーが完了したら、**終了**をクリックしてウィザードを閉じます。

10.9. 破損したショートカットを削除する

この章では、**なぜ Shortcut Cleaner が有用なのか**、そして**どのように**AVG Shortcut Cleaner モジュールで無効になったショートカットや参照を削除し、システムをクリーンアップできるかを説明します。

AVG Shortcut Cleaner モジュールを使うと、簡単にコンピュータを整理することができます。モジュールデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動バーにあるすべてのショートカットが分析の対象となります。スタートメニューに含まれる空のフォルダも検出されます。空のフォルダは、スタートメニューを手動で整理したときなどに生じます。

AVG Shortcut Cleanerは、Microsoft Office プログラム、OpenOffice©、Windows Media Player、Nero© などのファイルの履歴リストを分析します。これらのリストには、プログラムで前回開かれたすべてのファイルへの参照が含まれています。これらのエントリも分析対象となります。削除または移動されたファイルを参照しているエントリがあった場合は、簡単に削除することができます。

このようにしてシステムは、一方で不要なちりを除去し、他方で壊れた参照を呼び出している待ち時間をなくします。

10.9.1. 破損したショートカットを削除する方法

破損したショートカットを削除する方法

ダッシュボードの**すべての機能**に進み、**利用データ**から**壊れたショートカットを削除する**を選択し、**AVG Shortcut Cleaner** モジュールを起動します。

作業インターフェイス（デスクトップ、[スタート] メニュー、クイック起動バー）や一部のプログラムの履歴リストから、壊れたショートカットやエントリが検出されます。分析は、数分かかることがあります。

分析が終了すると**AVG Shortcut Cleaner** によってすべての壊れたショートカットと参照のリストが表示されます。壊れた項目がなかった場合は、分析の対象となった場所のリストのみが表示されます。この場合、**閉じる**をクリックし、この機能を閉じます。

壊れたショートカットをすべて削除すべきかどうかは、ユーザーが決めます。無効なショートカットや参照の中に、削除したくないものがある場合は、そのチェックボックスをオフにします。既定では、検出されたものがすべて削除されます。

クリーンアップをクリックします。クリーンアップは、通常、数秒しかかかりません。その後、削除された参照とショートカットの数について短いステータスレポートが表示されます。

終了をクリックして**AVG Shortcut Cleaner** を閉じます。

10.10. AVG最適化レポートを表示する

本章では、**AVG 最適化レポート**を活用して、**AVG PC TuneUp** が今日までに最適化したコンピュータ内の概要を見る方法を説明します。

AVG 最適化レポートは、これまでに**AVG PC TuneUp**で実行したすべての最適化処理を示します。このレポートは**AVG PC TuneUp**の多数の自動バックグラウンド最適化を使用する場合に特に役立ちます。コンピュータがこれまでに **AVG PC TuneUp** によってどの程度最適化されたかをいつでも確認することができます。

10.10.1. AVG 最適化レポートを表示する方法

最適化レポートを表示するには、ダッシュボードの**すべての機能**から、**AVG PC TuneUp** にある**最適化レポートを表示**を選択します。

AVG PC TuneUp ですでに実行された最適化についての概要が開き、それによる利点も表示されます。

最適化の 1つにマウスポインタを置くと、小さな情報ウィンドウが開き、その最適化の効果に関する詳細や、それぞれの最適化の詳細が表示されます。

最適化レポートは、最近 7日間または最近 30日間に対して作成させることも、インストール以後の全期間に対して作成させることもできます。それには、該当するタブに移動してください。

11. プログラムの評価機能

便利な**プログラムの評価機能**をAVG Program Deactivator、AVG StartUp Manager、AVG Uninstall Managerモジュールでオンにすることができます。この機能は、インストール済みのプログラムについて、他の AVG PC TuneUp ユーザーがどれだけ有用と評価しているかを示します。日常の作業の際にどのプログラムが本当に必要か、即座によい決断をするために、評価機能を利用してください。

この章では、**なぜプログラムの評価機能が有用なのか、**そして**どのように**プログラムの評価機能**をオンにすることができるかを説明します**。

インストール済みのどのプログラムが日常の作業で本当に必要なのかを決定しなければならない状況も時にはあるでしょう。この目的のため、**プログラムの評価機能が開発されました。**

多くの **AVG PC TuneUp** ユーザーの経験は、**AVG Program Deactivator**、**AVG StartUp Manager**、**AVG Uninstall Manager** モジュールにおいて、判断するための助けとなります。プログラムの評価機能は、どのプログラムが他のユーザーによって有用と判断されているかを示し、どのスタートアップ プログラムを無効にし、どのプログラムを無効化、あるいはアンインストールするかを決めるのに役に立ちます。

ただし、評価機能を使うにはインターネット接続が必要です。

モジュールの評価機能を表示

評価機能をオンにしている場合、プログラムリストの別の欄としてAVG Program Deactivator、AVG StartUp Manager、AVG Uninstall Managerモジュールに統合されます。自己評価は**有用性の評価**の欄の青い星で見分けられます。まだ評価を行っていない場合、欄には他の **AVG PC TuneUp** ユーザーがプログラムにつけた評価の平均が表示されます。評価がまだつけられていない場合は、空欄になります。

マウスポイントが欄上にある間、自己の評価と他の **AVG PC TuneUp** ユーザーの評価を示す Quickinfo が表示されます。

評価機能をオンにする方法

AVG Program Deactivator、**AVG StartUp Manager** または **AVG Uninstall Manager**モジュールのいずれかを開始します。ダイアログ **プログラムの評価機能** が表示されます。**OK**をクリックします。

この時点でまだ決定したくない場合は、**後で決定する**をクリックします。モジュールが評価機能なしで起動します。評価機能をいつもオンにしておくには、ツールバーの **評価機能** それから**オンにする** をクリックし、今度は有効化のダイアログで**OK** をクリックします。

評価機能をオフにする方法

ツールバー内の**評価機能**をクリックし、オプションの**オフにする**を選びます。次のダイアログでは、再度この機能を使う時のために、自分が出した評価を保存しておくかどうかを決めることができます。他のユーザーの評価はPCのデータベースから削除されるので、機能を新たにオンにする際は、サーバーから再びダウンロードする必要があります。

評価の出し方

1. マウスポイントを **有用性** の欄上で動かしてください。プログラムの評価をする場合は、少なくとも1つの星をつける必要があります。1つのプログラムに最高で5つまで星をつけられます。

2. そのプログラムにつけたい星の数をクリックしてください。たとえば星を3つ付けたい場合は、3番目の星をクリックします。

3. 評価は自動的に保存され、**AVG PC TuneUp**サーバーに転送されます。

評価を変更する場合にも、最初の評価の場合と同様の手順です。

12. AVG PC TuneUpガジェット

AVG PC TuneUp のもう一つの機能は、ガジェットです。これは、Windows XP ではサポートされていないので、Windows Vista とWindows 7 でしか使用できません。

便利なガジェットをデスクトップに表示させることができます。ガジェットは、常にコンピュータの状態について報告します。**AVG PC TuneUp**を起動させることなく、最適化の可能性があるかどうかを知ることができます。**AVG PC TuneUp** もここから起動することができます。

ガジェットではいつでも、どの**PC モード** が現在有効になっているかが確認でき、また 3つのボタンによっていつでも他の**PC モード** をオンにすることができます。

本章では、**ガジェットが有用な理由** と、**どのようにAVG PC TuneUpガジェット**をデスクトップに表示できるかを説明します。

ガジェットとは

ガジェット（ウィジェットともいう）は、最新の情報を提供する小さなプログラムで、デスクトップに常時表示されます。

AVG PC TuneUp ガジェットは何のためにあるのですか？

AVG PC TuneUp ガジェットは、**AVG PC TuneUp**を起動する必要なく、コンピュータのステータスを常に通知します。ガジェットは **AVG PC TuneUp** に組み込まれており、現在の最適化のステータスを表示します。

ガジェットの左上のアイコンをクリックすると、**AVG PC TuneUp**ダッシュボードが開きます。そこですぐに生じている問題や推奨事項に対応できます。

PC モード

AVG PC TuneUp ガジェットは 3つのボタンを使って、さまざまな**PC モード**をオンにできるようにします。3つの**PC モード**のうちどれが今有効になっているかもいつでも表示しています。

AVG PC TuneUp ガジェットは、コンピュータの状態に関する情報を常に提供してくれます。さらに、**AVG PC TuneUp** のスタートセンターに直接アクセスする手段でもあります。

AVG PC TuneUp ガジェットの表示方法

AVG PC TuneUp ガジェットはいつでもデスクトップに表示することができます。

Windows Vista での手順は以下のとおりです：

1. Windows のスタートメニューで、**すべてのプログラム**にある**アクセサリ**フォルダをクリックします。
2. **Windows サイドバー**をクリックします。コンピュータにインストールされているガジェットが一覧されます。
3. **AVG PC TuneUp**ガジェットをダブルクリックで有効にします。

Windows 7 での手順は以下のとおりです：

1. デスクトップ上 の何 もない箇 所 でマウスの右 ボタンをクリックし、コンテキスト メニューが開 いたら **ガジェット** をクリックします。

2. **AVG PC TuneUpガジェット**を選 択 し、ダブルクリックして有 効 にします。

13. AVG PC TuneUpタスクバー通知領域の

通知領域は、Windows タスクバーの右側の領域です。時刻、ステータス記号、プログラムへのショートカットなどが表示されます。**AVG PC TuneUp** には、システムの現在のステータスを表示し、**AVG PC TuneUp** へのエントリーポイントを提供する通知領域アイコンがあります。

通知領域アイコンをダブルクリックすると、**AVG PC TuneUp**が起動します。

アイコンを左クリックすると、**フライアウトウィンドウ**が **AVG PC TuneUp** 機能についての詳細と共に表示されます。

タスクバー通知領域にいかにまた何の **AVG PC TuneUp** を知らせてもらいたいか設定することができます。

システム ステータス

> **システムステータス**で、**AVG PC TuneUp** ダッシュボードが最適化の可能性を表示しているか確認することができます。**スタートAVG PC TuneUp** リンクを使用して、ダッシュボードを表示できます。
>
> ダッシュボードに関する詳細は、ダッシュボードをご覧ください。

自動メンテナンス

> **自動メンテナンス**では、最後にいつ自動メンテナンスが行われたかが表示されます。リンクから自動メンテナンスの設定ダイアログにアクセスすることができます。
>
> 自動メンテナンスについての詳細は、メンテナンス設定を変更するをご覧ください。

ライブ最適化

> **ライブ最適化** では、 2つのライブ最適化措置のうち最新のアクティビティを見ることができます。リンクからライブ最適化の設定ダイアログに移動することができます。
>
> ライブ最適化についての詳細は、ライブ最適化を設定をご覧ください。

PC モード

> **PC モード**セクションでは、**ターボ モード**または**エコノミー モード**が現在オンになっているかどうかが分かります。この 2つのモードを切り替えることができます。また、**スタンダード モード**に切り替えることができます。さらにリンクから設定ウィザードに行くことができます。
>
> **ターボモード**の設定方法については、ターボモードの設定をご覧ください。
>
> **エコノミー モード**の設定方法については、エコノミモードの設定をご覧ください。
>
> 各モードの一般的な情報は、PC モードをご覧ください。

設定

タスクバー通知領域にいかにまた何の **AVG PC TuneUp** を知らせてもらいたいか設定することができます。これには次の手順を実施します：

コンピュータにアイコンが表示されている場合は、アイコン上を右クリックしてください。コンテキストメニューから**通知領域の設定**を選択します。これにより設定ダイアログが表示され、ここから設定を行うことができます。アイコンに

加え、必要に応じてバルーンの形式で通知を表示することもできます。

アイコンがコンピュータに表示されない場合は、**AVG PC TuneUp** ダッシュボードの**設定**メニューからダイアログを呼び出し、**通知領域アイコン**のエントリを選択してください。